特238
310

伊賀良村青年團史

0052625000
0052625-000
特２３８－３１０

伊賀良村青年団史

伊賀良村男女青年団

昭和１８

AHP

特238
310

目次

令旨
秩父宮殿下ヨリ賜ハリタル御言葉
伊賀良村青年團歌
寫眞
發刊の辭……一
團史概觀……二
二十一年史
創立第一年度（大正九年）……五
第二年度（大正十年）……一〇
第三年度（大正十一年）……一二
第四年度（大正十二年）……一三
第五年度（大正十三年）……一七
第六年度（大正十四年）……二〇
第七年度（大正十五年）……二二
第八年度（昭和二年）……二三
第九年度（昭和三年）……二三
第十年度（昭和四年）……二六
第十一年度（昭和五年）……二一
第十二年度（昭和六年）……三三
第十三年度（昭和七年）……三四
第十四年度（昭和八年）……三六
第十五年度（昭和九年）……三八
第十六年度（昭和十年）……四〇
第十七年度（昭和十一年）……四三
第十八年度（昭和十二年）……四五
第十九年度（昭和十三年）……四七
第二十年度（昭和十四年）……四九
女子青年團十九年概況……五一
昭和十五年度團報（二十一年度）……五五
綱領……五五
組織……五六
事業計畫……五六
歲入出豫算並決算……五七
事業概要……五八
庶務報告……六〇
牧場改良勤勞奉仕運動の記……六五
教育部報告……六六
体育部報告……六九
勤業部報告……七七
女子青年團記錄……八九
女子訓練記錄……一〇三
伊賀良圖書館建設經過報告……一〇七
編輯を終りて……一一八

令旨

國運進展ノ基礎ハ青年ノ修養ニ須ツコト多シ諸子能ク內外ノ情勢ニ顧ミ恒ニ其ノ本分ヲ盡シ奮鬪協力以テ所期ノ目的ヲ達成スルニ昂メンコトヲ望ム

大正九年十一月二十二日

秩父宮殿下ヨリ賜ハリタル御言葉

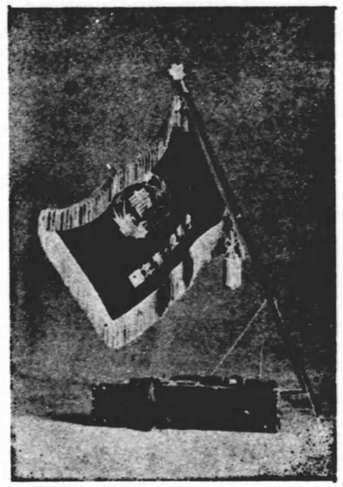
於　昭和十三年九月二十六日大日本聯合青年團第十四回大會

時局非常ノ此ノ秋元氣潑溂タル全國青年團代表諸子ト一堂ニ相見エ齊シク銃後奉公ニ赤誠ヲ效シツヽアルヲ聞クハ欣快トスル所ニシテ且又朝鮮及臺灣兩聯合青年團新ニ結成加盟シ玆ニ全國一體ノ實現ヲ見ルハ慶賀ニ堪ヘズ

我國ハ不幸ニシテ兵ヲ隣邦中華民國ニ進ムルノ己ムナキニ至リ既ニ年餘ニ及ベリ是レ一ニ東亞ノ安定ヲ確立シ世界平和ニ寄與セントスル不動ノ國是ニ基クモノニシテ前途尙遼遠ナリト謂フベク事變終末ヲ告グルモ更ニ幾多ノ艱難ニ遭遇スベキコト亦覺悟セザルベカラズ　而シテ此ノ重大ナル使命ヲ遂行センニハ擧國一致不退轉ノ決意アルヲ要ス

念フニ青年團員ハ之ガ中核タルベキモノニシテ國運ノ將來ハ實ニ其ノ雙肩ニ繫レリ　諸子宜シク此ノ重責ニ顧ミ曩ニ賜ハリタル令旨ヲ奉戴シ青年團ノ本義ニ準ヒテ一層ノ精勵ヲ加ヘ直面ノ難局ヲ克服センコトヲ期スベク幹部各位亦青年團ノ實績ガ其ノ指導如何ニ俟ツモノ多キヲ思ヒ必ラズ自ラ修メ率先シテ能ク職責ノ達成ニ努メ以ツテ聖慮ニ副ヒ奉ランコトヲ望ム

現在ノ團旗



創立當時ノ大會旗

伊賀良村青年團々歌

一、東の嶺より太陽は昇り
西の山端に沈みてはゆく
何時の頃より人は住めるや
繁れる彼の森流るゝ小川
おゝ感激よ祖先の靈地
峽谷の高台吾郷伊賀良村

二、嶺は遙けし永久の眞理
道は險はし人の運命
純き世界を憧る吾等
若き血潮のたぎれる吾等
おゝこの希望よ力ためさん
いざ共に不退の道を進みなん

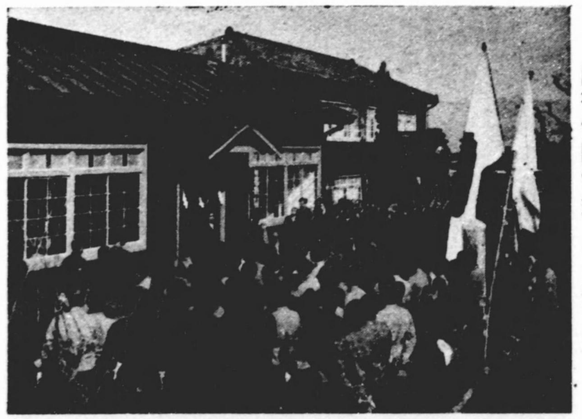
三、見よ曉の空ほのゝと
明けゆく彼方に鷄鳴く聞ゆ
若き吾等が高き理想は
今や照さん此世の闇を
おゝ吾友よ吾等が團よ
いざ共に高らかに謳ひ進まなん

圖書館全景

圖書館基礎工事

圖書館內部

（乙部式書架　十六年三月二十日）



圖書館開館式（三月十六日）

發刊の辭

青　年――

永遠の若さに生きる……純情と決斷力の權化、洋々として青雲の希望に燃ゆる生々發展の姿。これこそ我等が歩み來つた過去の歴史であり、現在の姿であり、將來の姿なのだ。

我愛する祖國を見る時、そこには青年と共に進んだ青年日本の輝かしい歴史が嚴然として無窮に連つてゐる。

青年日本の指導者は常にこの歴史を省みて發奮した。そしてより偉大なる歴史を創造した、更に劃期的なる世界歴史を創建しつゝあるのだ。我等も亦我等の先輩が築いた二十有余年の血涙史をひもとき、より良き郷土建設、ひいては「日本の世界」創建の爲の發奮剤たらしめねばならぬ。

青年團が自主化されてより年月を閲すること二十一歳、見よ！　是等人々の現在を――今尚若々しき村の中樞的活動を時代は變遷する。自主青年團の解散。

青天の霹靂と驚愕するものではない。好むと好まざるにかゝはらず時代は推進する。我等は二十一歳の適齢となり愈々一人前の壯年者となることを喜び、謂所發展的解消をなし、然して新飛躍的青少年團結成に挺進しなければならぬ。

此處に自主的青年團の幕を閉づるに當り過去の足跡を記錄し、二十一年間若々しく時代を動かした青年團運動を不滅の頁に飾り且又新青少年團の礎石としなければならぬ。是我等が團史發刊を企圖せる所以である。今日起稿して刊行の日は何時か。

昭和十五年十二月二十五日

（古田利夫）

團史概觀

創立

從來吾が伊賀良村内には各區毎に特殊的に組織された青年團が有り、事業など各個々に行はれ村内で統一的な仕事は毎秋行はれる軍人青年聯合運動會と同窓會にて行はれる圖書購讀とに過ぎなかつた。

時代の潮流に醒めたる一部先覺者に依り、吾郷村を救ふの道は先づ『次代の建設者たる青年大衆の大同團結による外なし』との叫び漸く盛となりつゝあるとき偶々大正八年秋、中村小學校に秋季軍人青年聯合運動會の日一部の人々に依り、各區青年合同統一の議出で仝月廿四日各區青年團代表者伊賀良小學校に參集統一問題につき内々相談を交はせしに滿場異議なく合同統一に盡力すべき事を誓ひ十月三十一日各區より六名宛の代表者により會則草案を起草なし、同時に正義と理想に燃ゆる若人の意志を表徵すべき大會旗を作製する事迄に進みたり。

斯くて大正八年十一月十日、下伊那郡軍人青年聯合大運動會開催さるゝに先だち當日早朝伊賀良小學校庭に全會員四百餘名參集し、實に記念すべき創立大會及び新會旗披露式は挙行され、近隣に先じ世人注視の内に伊賀良村を打つて一丸とした青年會創立を見たり。

自主二十一年

創立第二年度に至り名譽會長制を廢し先づ會員を小學校卒業以上二十五歳以下と限定し會員自身の手により會務一切處理施行故に青年團の自主化を完成し青年會百年の會礎定まれり。當時會の原動力となり粉骨碎心の努力を惜まれなかつた幾多人々の内片山卓氏、伊藤高一郎氏、片山均氏等の功は特筆すべきものである。

内に創業成るや尚當時官僚下にある郡青を根底より覆つがへして完全なる自主化せしめたり、之れに依り郡下各青年會は次々と自主化さるに至り其の聲は大擧して遂に縣青年會席上にまで堂々と發表せらる。

× × ×

自主創立以來特筆すべきは學校統一問題及補習學校問題なり。青年團の統一、學校統一、伊賀良村の大同團結之こそ切つても切れぬ相關々係を有するものである。故に於て青年團が兩校統一の口火を切つたのである。やがて理想は實現した何んぞ壯快なる。

創立十年間青年修養の爲に粒々辛苦營々として補習學校振興に抵進したる努力こそ今日の礎石をなすものと云はねばならぬ。其の間青年自力により二年間に亘り青年補習學校を經營せり、之等の努力は實に筆の能ふべくもない。

× × ×

自主創立十週年を迎ふるに當り會史編纂をなし燁く努力の跡を記錄せり。

× × ×

後半期、華々しい青年團運動も世狀の推移に依り全青年層に一轉期を來し、教養團体の本質使命に立換へつゝ來た、其處には必然に沈靜の氣がみなぎり出した。「青年團は如何にあるべきか」之こそ當時青年層の持つ大きな難題であり悩みであつた。

然し吾青年會は創立以來誤らざる根本精神の然らしむる處として沈滯を破り各部門の活動又活發となるに至つた。後半期に於ては教養と併行して体育にも重点が置かれ、尙社會的には選擧問題等をめぐり純眞なる青年の力强き意志が表明せられたのである。かくして强力なる礎石の上に伊賀良村青年團は堂々の歩みを續け今日に及んだ。

× ×

自主青年團の解散。

戰時下青年團は社會的にあらゆる部面に活動した。團員は年々一日々々と減少した。かくして青年團經營は重大なる難關に逢着し年齢延長問題、青年學校と不離一体化問題等之が對策が考究された。大きな動搖を來たしたのである。然るに我伊賀良村青年團に於ては青年學校との不離一体制が確立されて居る爲團員の減少には惱まされつゝも微動だにせず懸案の大事業たる伊賀良圖書館の建設を僅々一ケ年を以て完成したのである。尙自主二十一年史編纂の劃期的事業も着手せられたのである。

戰時下に於ける社會狀勢は日々變轉した。戰爭は人間の常識を超越する。

全國青年の一元的指導体制の整備、戰爭即應体制確立へ勅令は發動された。

我等はかへり見て心置きなく、二十一年史を礎石として新青少年團結成へ挺進した。かくして昭和十六年三月十六日圖書館の開館式の日、二十一年間より良き鄕土建設の爲自主的青年の熱情をたむけておしまず、巨歩を進んだ自主青年團は解散されたのである。

創立第一年度（大正九年）

役員

會長　片山愿治

副會長　總務理事　伊藤高一郎

副理事　片山卓

理事

夜學部　伊藤誠一　研究部　熊谷厚治

圖書部　矢澤吾郎　勸業部　代田保雄

体育部　岩崎篤　編纂部　矢澤孫一

郡青代議員　岩崎篤

各支部長

第一支部長　矢澤靜男　第二支部長　矢澤秀雄

第三〃　伊藤誠一　第四〃　片山卓

第五〃　第六〃　長尾喜藏

本年度歲出入決算高

一、歲入之部　四七五、五九

一、歲出之部　四七五、五九

一、差引殘高　なし

歲入內譯

一、繰越金　七四、二一

一、會員負擔金　一七二、〇〇

一、村費補助金　二〇〇、〇〇

一、雜收入金　二九、三八

歲出內譯

一、會費（總會費）　四〇、五〇

一、教育費　二四、三〇

一、圖書費　五〇、〇〇

一、勸業費　三〇、〇〇

一、編纂費　一三五、〇〇

一、体育費　一二二、一九

一、雜費　五一、四一

一、繰越金　三七、二九

一、積立金　一五、〇〇

主なる事業

一、青年會々則の制定

創立當初伊賀良村青年會々則

第一章　名稱及位置

第一條　本會ハ伊賀良村青年會ト稱シ事務所ヲ伊賀良村役場內ニ置ク

第二章　目的及事業

第二條　本會ハ現代ノ狀勢ニ鑑ミ會員互ニ提携シ鍛練シ

勤倹力行ノ氣風共同自治ノ精神ヲ養成シ以テ本村青年ノ本領ヲ發揚セム事ヲ目的トス

第三條　本會ハ第二條ノ目的ヲ達セム爲メ左ノ事業ヲ行フ

一、集　會
一、思想問題學術實業ニ關スル研究調査
一、補習教育ノ理想ニ必要ナル活動
一、身神鍛練ニ關スル諸設備及實行
一、文庫ノ設置
一、山林ノ保護及植林
一、時事問題ニ關スル研究調査及之ニ承應セル活動

第三章　會及組織

第四條　本會ハ伊賀良村青年ヲ以テ組織ス

第五條　本會ハ便宜上左ノ六支部ニ分ツ

第一支部　上殿岡
第二〃　下殿岡
第三〃　北方
第四〃　大瀬木
第五〃　三日市場
第六〃　中村

第六條　本會々員ヲ分チテ左ノ如クス

一、正會員高等小學卒業ヨリ
二、准會員等常小學校卒業ヨリ正會員ノ年齢ニ達スル迄ノモノ及中等學校生徒

第四章　機關

第七條　本會ノ第三第四第六ノ各支部ニ六名宛第一第二第五ノ名支部ニ四名宛ノ評議員ヲ置ク

第八條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長	一	名
副會長	一	名
支部長	六	名
理事	若干	名
代議員	一	名
會計係	一	名
書記	二	名

第九條　本會議ヲ左ノ如クス

評議員會、役員會、總會

第十條　本會ニ關係アリ特ニ盡力ヲ乞フ必要アル者ニハ本會顧問ヲ依囑スルコトアルベシ

第五章　雜則

第十一條　本會ノ費用及勞力ハ正會員之ヲ負擔スルノ義務アルモノトス

第十二條　本會々員ノ言行ニ對シ必要ト認メタル時ハ相當ノ賞罰ヲ行フ

第十三條　本會々則ヲ明確ナラシメン爲メ細則ヲ設ケ各事業ニハ別ニ規約ヲ設ク

第十四條　本會々則ヲ變更セントスル時ハ評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ計リ其ノ承認ヲ得ベキモノトス細則及ビ規約評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ報告スルモノトス

伊賀良村青年會細則

第一條　本則第十四條ニ依リ本細則ヲ設ク

會員

第二條　一、正會員ハ本會ノ主体トナリ本會ノ事業等ニ要スル一切ノ費用勞力等ヲ負擔スルノ義務アルモノトス
二、准會員ハ別ニ規定セル責任ヲ附セザレ共正會員ニ共ニ修養シ活動ス
三、既成會員ハ正會員ヲ補導シ後援シ常ニ連絡ヲ保チ機宜ニ應ジ正會員ト協力事ニ當ル
四、名譽會員ハ本會ニ對シ監督指導ノ任ニ當リ之ヲ援助ス

機關

第三條　一、評議員ハ常ニ會員ノ意志ヲ代表シ本會々員ニ對シ意見ヲ提出シ役員ノ執務其他總テ本會ノ事業ニ付キテ評議ス
二、評議員ハ三名以上ノ連署ヲ以テ會長ニ意見ヲ提出シ評議會或ハ役員會ノ招集ヲ求ムル事ヲ得

第四條　一、會長ハ會務ヲ統理シ豫算編成ノ任ニ當リ會ヲ代表ス
二、副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アル時ハ之ヲ代理ス
三、支部長ハ會長副會長ノ命ニヨリ部務ヲ司掌シ各自ノ部ニ於テ適宜ニ組ヲ設ケ組幹事ヲ任命シ部務ノ圓滑進捗ヲ計ル
四、理事ヲ正副總務理事ト正副專務理事トニ分ツ
總務理事ハ會長ノ命ニ依リ會務ヲ統理ス
副總務理事ハ總務理事ヲ補佐ス
專務理事ハ左ノ六部ニ分チ各自ノ主任トナリテ之ヲ掌理シ副之ヲ助ク
研究部、夜學部、編纂部、圖書部、休育部、勤業部、教育部
五、代議員ハ郡聯合青年會ノ議事ニ參與ス
六、會計係ハ本會ノ會計ヲ掌理ス
七、書記ハ會長ノ命令監督ニ依リ會ノ記錄通信等ノ任ニ當ル　書記ニハ相當ノ手當ヲ給ス

第五條　一、評議員會ハ會長之ヲ招集ス
二、評議員會ハ總評議員ノ半數以上ノ出席ニヨリ成立シ出席者ノ半數以上ノ賛成ニヨリ決議ヲナスモノトス
三、評議員會ニハ總テノ役員ハ出席スルモノトス猶本會員中ノ希望者ハ傍聽スルヲ得
四、評議員會ハ豫算會務方針顧問及名譽會員ノ推薦會員ノ賞罰其他本會ニ必要ナル決議ヲナシ重大事項ハ總會ニ計ルモノトス

第六條　一、役員會ハ會長之ヲ招集ス
二、役員會ハ評議員會ニ於テ決議セラレタル會ノ方針ニヨリ事業實施ニ關スル事項其他必要事項ニ就キ役員協議ス
三、役員會ノ中左ノ如キモノモ會長必要ニ應ジ招集ス

部長會　理事會

第七條　一、評議員ハ正會員中ヨリ出ズルモノトス
二、評議員ハ第三、四、六各支部ヨリ六名宛第一、二、五各支部ヨリ四各宛其部正會員之ヲ選擧スルモノトス
三、支部長ハ各支部評議員中ヨリ其部正會員之ヲ選擧スルモノトス
四、理事ハ評議員ノ互選ニヨリ出ズルモノトス
五、會長副會長及代議員ハ評議員會ニ於テ會員中ヨリ選擧スルモノトス
但シ代議員ハ他ノ役員之ヲ兼ヌル事アルベシ
代議員事故アル時ハ會長代理者ヲ任命ス

第八條　評議員及役員ハ特別ノ事情ナキ限リ任期ヲ一ケ年トシ毎年十二月改選ス　但シ再選ヲ妨ゲズ

規約

一、行事
一、(集會)會員集リテ互ニ意志ヲ交換シ人格ヲ高メ相互ノ親睦ヲ計ル
二、(編集)年數回ノ會報ヲ發行ス
三、(体育會)種々ノ運動ヲ行ヒテ身体ヲ鍛練シ不撓不屈ノ精神ヲ養フ
四、(遠足)好期ヲ選ミ會員一日運動シ相互ノ圓滿融和ヲ計リ見聞ヲ廣メ相樂ム
五、(夜學)補習教育ニ理想ヲ實現センガ爲メ學校ト協力シ夜學ノ奬勵及監督ヲナス
六、(圖書閲覽)讀書力ヲ養ヒ智德ヲ磨ク
七、(軍人送迎慰問)優待會ト共ニ精神的ニ之ヲ行フ
八、(視察旅行)時期ヲ見テ優良農村等ノ視察旅行ヲナシ頭腦ヲ刺戟シ識見ヲ廣ム
九、(賞罰)會員中言行特ニ美シキモノヲ表彰シ會員中會員トシテノ義務ヲ盡サズ又ハ會員タルニ恥ヅル言行アルトキハ訓戒、謝罪、賠償、退會等ノ罰ヲ行フ
十、(基本財産)會員ノ勞力及有志ノ寄附金會費ノ剩餘金ヲ蓄積シ會ノ基礎ヲ堅固ナラシメ將來ノ活動發展ニ資ス
其他適宜相應ノ事業ヲ行フ

一、集會
一、定期總會　新年會、運動會、忘年會
二、臨時總會
三、講話會
四、支部會

一、体育會
一、寒稽古
二、武術大會
三、秋季運動會
四、郡聯合運動會
一、編集
一、左ノ如キ要項ニヨリ原稿ヲ募集ス
會員ノ投稿ニヨリ其ノ思想ヲ發表ス
會ノ狀況事業報告及各部ノ研究調査ヲ發表ス
二、各支部ニ委員ヲ置キ部内原稿ノ募集及編集ノ任ニ當ル
一、圖書閲覽
一、左ノ如キ要項ニヨリ文庫ヲ造成ス
圖書購入費ニ依リテ之ヲ購入ス
特志者ノ寄附
二、本會ノ圖書ハ十二月ヨリ四月迄巡廻文庫トシ其他ノ期間ハ係員希望者ニ貸出ヲナス
三、各支部ニ委員ヲ置キ部内一切ノ取扱ヲナス
四、巡廻セザル圖書及ビ五月ヨリ十月迄ノ期間ハ伊賀良小學校ニ保管ス
一、基本金
一、左ノ如キ要項ニヨリ之ヲ蓄積ス
會費ノ剩餘金
特志者ノ寄附
二、本會基本金ハ郵便貯金又ハ確實ナル銀行ニ預金シ會長之ヲ保管ス
三、必要ニヨリ基本金ヲ使用セントスルトキハ評議員會ノ決議ヲ經テ總會ニ計ルモノトス
一、行事豫定及豫算編成
一、本會ノ事業ヲ圓滑ニ發展セシメンタメ毎年度始メニ評議員會其ノ年度行事豫定ヲ作リ會員ニ周知セシメ豫メ之ニ用意ス
二、行事豫定ニツヾキテ費用ノ收支豫算ヲ作リ會員ニ報告ス
三、機宜ニ應ジ評議員會ノ決議ニヨリ豫定事業ヲ變更スルコトヲ得
但シ此ノ場合ニ豫メ支部長ヨリ會員ニ通知スルモノトス
一、會費
一、本會費用ハ正會員ヨリ之ヲ徴收ス
二、會員一戸ニテ二名以上ノモノハ一人ハ全額ヲ徴シ其他ハ半額ニ免除ス
一、村費補助金交附制度の確立
一、夜學部(後に教育部)を設置し當時の伊賀良、中村兩夜學補習學校の開發に努力す
又幹部は交代で夜學校へ出席して生徒の出席勸誘等督勵

指導に當つた

◎補習學校規約

一、本會ハ實業補習學校ヲ本會重要修養機關トシテ此ガ理想實現ニ努力スルモノトス

一、伊賀良村青年會員中實業補習學校生徒タル學齢ニアルモハ本會々員義務トシテ出席就學スベキモノトス

一、本會正會員中前項ノ年齢ヲ過ギタルモノハ研究生トシテ本會々員准義務トシテ之ニ出席スベキモノトス

一、補習學校生徒ハ各級ニ於テ數名ノ幹事及幹事長正副ヲ選擧シ自治的ニ就學上ノ萬事取締及其ノ級代表ヲ委任ス

一、巡廻文庫の設置

第二年度（大正十年度）

役員

會長　伊藤高一郎
副會長　岩崎　篤
會計　矢澤　一
記錄　代田　保雄　熊谷　海三
理事
夜學部　矢澤金之助　研究部　久保田一男
圖書部　矢澤　唔郎　勸業部

休育部　元島　昌藏　編集部　鈴木外士夫
那育代議員　伊藤高一郎（副會長）
各支部長
第一支部長，矢澤金之助　第二支部長　平澤　芳雄
第三〃　伊藤高一郎　第四〃　代田　保雄
第五〃　市岡　万治　第六〃　岩崎　篤

本年度歳出入決算高

一、歳入之部　七、三五、一四
一、歳出之部　七、三五、一四
一、差引殘高　なし

歳入內譯

一、繰越金　三七、二九
一、會員負擔金　一四七、八五
一、村費補助金　五五〇、〇〇
一、雜收入

歳出內譯

一、會費（總會費）　九四、九七
一、夜學費　一三、九〇
一、講話費　一四、五八
一、圖書費　一七七、二四
一、勸業費　一二、九九
一、會報費　一〇七、〇〇
一、休育費　二二〇、九二

一、雜費　六八、九八
一、繰越金　一六、五六
一、積立金　一五、〇〇

一、伊賀良、中村兩學校の統一問題惹起す本問題に關し種々なる見解の下に愼重研究せる結果學校統一に邁進せり

一、村會議員一部辭職の復職勸告

一、第一支部總會決議文の提出、即理由は「村政に對し第三者の位置を失ふ事は青年會の根本精神を失ふことである」とす

一、補習學校の改善、整備に努力

一、伊賀良小學校內へ柔道場並に校庭へ野球ポール除を設置

一、圖書部の內容充實及活動

第三年度（大正十一年度）

役員

會長　代田　保雄
副會長　久保田一男
會計　矢澤　一
記錄　木下　榮治
理事
教育部　木下　榮治　研究部　松澤　賢治
圖書部　今牧　操　勸業部　熊谷　海三
休育部　北原　源治　編集部　遠山　源治
那育代議員　代田保雄（評議員）久保田一男
各支部長
第一支部長　矢澤　茂明　第二支部長　米山　定男
第三〃　宮下　優　第四〃　熊谷　海三
第五〃　今牧　照男　第六〃　遠山　源治

本年度歳出入決算高

一、歳入之部　六五三、二六
一、歳出之部　六五三、二六
一、差引殘高　なし

歳入內譯

一、繰越金　一六、五六
一、會員負擔金　三八四、四〇
一、村費補助金　二〇〇、〇〇
一、雜收入金　五二、三〇

歳出內譯

一、會費（總會費）　七六、二二
一、教育費　七一、〇〇
一、圖書費　二三一、八四
一、勸業費　一四、〇〇
一、會報費　九〇、〇〇

一、休育費　六七、八九
一、會議費
一、郡青負擔金　二五、九四
一、雜費　四三、四二
一、事務所費　八、三四
一、小使手當
一、繰越金　二四、六一
一、積立金

主なる事業

一、補助金削減問題
前年度に於ける四百圓を二百圓に削減せり、之に關し種々對策を考ず
一、兩校統一問題に於ける費用の實際調査の細密なる調査報告を發表し統一達成に進む
一、短期講習會開催
講師　森下二郎、木下榮水、長谷川喬村の諸氏
一、郡下補習學校聯合懇談會
村伊賀良補習學校發意に依り主催となりて郡下各村補習學校と聯絡をとり飯田小學校に懇談會を開催す參加村拾五村なり
一、補習學校學友會組織
一、伊賀良實業補習學校の設立成る
一、其の他教育部の特筆すべき一部面を擧ぐれば當時の青年層の動向なるものが覗ひ知られる
即講演會等も年内十餘回に及べりとその講演は一燈園の西田天香氏、猪俣津南雄氏及鈴木茂三郎氏の赤露を巡つた講演、自由青年聯盟幹部羽生三七氏「資本主義社會の解剖」今村邦夫氏「北陸四縣聯合青年黨の事」北原龜二氏「今迄の青年會」其他大學生の演說會等により新進的思想に對する批判を爲す
一、機關雜誌「とも」が創刊さる

第四年度（大正十二年度）

役員

會長　代田保雄
副會長　矢澤治部助
理事
教育部　木下榮治　研究部　遠山源治
圖書部　古田壽治　勸業部　熊谷海三
体育部　鈴木外士夫　編纂部　田畑光顯
郡青代議員　代田保雄（評議員）矢澤治部助
各支部長

第一支部長　矢澤治部助　第二支部長　宮崎千尋
第三〃　水野一郎　第四〃　鈴木外士夫
第四〃　古田壽治　第六〃　久保田一夫

本年度歳出入決算高
一、歳入の部　七〇四、六一
一、歳出の部　七〇四、六一
一、差引殘高　なし

歳入内譯
一、繰越金　二四、六一
一、會員負擔金　一八〇、〇〇
會員一人徴收高　六〇
一、村費補助金　四〇〇、〇〇
一、雜收入　一〇〇、〇〇

歳出内譯
一、會費（總會費）　七〇、〇〇
一、教育費　一六〇、〇〇
一、研究費
一、圖書費　二〇〇、〇〇
一、勸業費　二〇、〇〇
一、編纂費　五〇、〇〇
一、休育費　七五、〇〇
一、會議費　六、〇〇
一、郡青負擔金　四三、八四
一、雜費　二〇、〇〇
一、事務所費　一〇、八〇
一、小使手當　五、〇〇
一、消耗品費　三〇、〇〇
一、繰越金
一、豫備費
一、積立金　一三、九七

主なる事業

一、補習學校の維持奔走
○壹間補習學校が村會で否決さるに依り青年會自力を以て經營せり
○村費多端に依り補習校を夜學部のみにする意見が一部村會議員にあり故に宣言決議文を發表し村會に極力現狀維持を嘆願す
○尙村會に於て原案否決となり甲乙兩部の中止狀態になる依て青年會は斷然奮起して兩び宣言、趣意書、決議文を村有識者に提示す

趣意書

私共ハ前ノ宣言ニヨリ私共ノ力ノ及ブ限リヲ盡シマシタガ既ニ御承知ノ如ク悲シイカナ村會ニ於テ伊賀良實業補習學

校費ハ大削減ヲセラレ、アノマ、ニテハ甲部廃止ノ止ムヲ得ザルニ至ルコトニナリマシタ、此ノ事ハ事實上ニ於テ補習學校ノ生命ヲ奪フ如キ事ニ立チ至ルノデアリマシテ私共ハ斷ジテ忍ブ事ガ出來ナイノデアリマス、其所デ私共ハ決然コレガ存續ノ爲メニ奮起致シマシタ、然シ私共トシテハ眞ニ現代ヲ理解シ私共ノ心持ニ御同情下サル方々ニ對シテハ精神上ノ御後援ハ勿論信ジテ居マスガ、特ニ物質上ノ御援助ヲモ仰ガナケレバナラナイノデアリマス、私共一同ハ赤心ヲ以テ御願ヒ致シマス、御同情ニ對スル御恩ニ對シテハ必ズ私共ノ全力ヲ擧ゲテ報ヒマスル覺悟デアリマス、何卒貴下ノ御力一杯ノ御援助ヲ御願申上マス

大正十二年三月

伊賀良村青年會
伊賀良村實業補習學校學友會

○青年補習學校寄附金により建設す

伊賀良青年補習學校設立の趣旨

何時の世に於ても人間として最も美しい事は、人間が自分の生れて來たほんとうの使命を知つてそれを完全に果して行くことである。

この事のためには私達はどんなに働らいても決して働きすぎはないと信じてゐる。それはどんな風に見えようとも決して人を傷ける事にはならないといふ安心があるからである。

人生のうちで一番大切にしなければならない時期は青年の時期である。この時にほんとうにしつかりしなければ人間は一生第一の大切な道を行くことは六ケ敷い。

今の世の中は實に色々な主義や思想が急激に混雜して流れ合つてゐるので多くの人々殊に若い青年は足が浮て了つてほんとうに自分達の行くべき方向さへも分らずにゐる。といつて誰も動かないでゐることは出來ない。實に恐ろしい時である。

この時に於て教育は人間が第一の大切な道をゆくがために最も必要な力を與へるものである。昨年伊賀良實業補習學校が改造せられて最もこの事を明らかにして進んで呉れた。これは形の上からも内容からも實に青年に取つて現代にとつて適切なものであり、私達が以前より切望して來たものに合致する施設であるので、私達はほんとうに喜んでその大きな使命の果される樣に祈りつゝまたそのために私達の全力を擧げて働いて來た。

その間に私達の爲には外面的にも内面的にも色々の苦しい事や不幸な事件が恐ろしい程頻發して來た。その事は今一々擧げる事はしないけれ共結局本年度の村の施設だけでは私達は到底滿足出來ないので私達は私達としてそれを補ふ意味に於てこの青年補習學校を起すことになつたのである。

これまでになるには實際私達は色々の困難と戰つて來た私達はどうしてもこの私達の學校を立派な價値あるものにしなければならない、私達はほんとうにこの學校を私達のためにも反對する人達のためにも、社會全体の爲めにも最も大切な最も必要なるものとしなければならない。

伊賀良青年補習學校規定

第一條　本校ハ伊賀良青年補習學校ト稱ス

第二條　本校ハ伊賀良實業補習學校ニ缺ケタル重要ナル青年教育ヲ行フヲ以テ目的トス

第三條　本校ハ伊賀良村青年會ノ特殊事業トス

第四條　本校ハ青年ノ眞ニ信頼シ得ル人格者ヲ以テ教師ニ依囑ス

第五條　本校ハ高等小學二ケ年卒業以上ノ力アル男子及ビ女子ヲ生徒トス

第六條　本校生徒ヲ分チテ左ノ二種トス
一、本科生、本校規定ノ全課目ヲ學修スル者
二、專科生、本校規定ノ學科目中一學科或ハ數學科ヲ專修スル者

第七條　本校ノ學年ヲ二ケ年トシ授業期間ヲ四月一日ヨリ十一月三十日迄トシ十二月一日ヨリ三月卅一日迄ハ伊賀良實業補習學校雪間部ニ連續スルモノトス

第八條　本校ノ授業時刻ヲ午前中ト定メ授業時間ヲ四時間以上トシ午後ハ生徒ヲシテ家庭ノ爲勞働セシム　但シ家庭ノ了解ヲ得本人ノ特ニ希望スルモノハ午後改メテ特別ノ教授ヲ行フ

第九條　本校ノ休業日左ノ如ク定ム
一、祝日、大祭日、皇后陛下御誕辰、日曜日
一、農繁休業（春蠶期、夏蠶期、秋蠶期、秋收穫期）
以上四期トシテ生徒大多數ノ家庭ノ都合ニ應ジ其都度休業期間ヲ定ム

第十條　本校ノ學課目左ノ如シ
修身、國語、數學、地理、歷史、理科、實業
公民、英語、漢文、圖畫、唱歌
但シ教師ノ意見ニヨリ時ニ於テ幾分ノ變更アルベシ

第十一條　本校ハ教授學課ヲ補フ爲或ハ必要ニ應ジテ講習會ヲ行フ

第十二條　生徒入退學ニ際シテハ規定ノ入學屆及退學屆書ヲ提出セシム

第十三條　本校ハ必要ト認メタル時ハ生徒ニ對シ賞罰ヲ行フ事アルベシ

第十四條　本校ハ授業料ヲ徴收セズ

第十五條　本校ノ費用ハ特志者及青年有志ノ寄附金ヲ以

テ之ニ充當ス

第十六條　本校ニ對スル一切ノ責任ハ伊賀良村青年會員全員之ヲ連帶シ青年會長之ヲ代表ス

第十七條　本校ニ關スル委員ハ村青年會評議員全員之ニ當リ委員長ハ青年會長其ノ副ヲ教育部理事トス

第十八條　委員長ハ本校ニ關スル一切ノ事務ヲ統理シ副委員長ハ之ヲ補佐ス委員ハ委員長ノ命ニ依リ事務ヲ分掌シ又意見ヲ委員長ニ具陳ス委員長ハ必要ニ應シ委員會ヲ招集シ重要事項ヲ計ル

第十九條　本校ハ伊賀良實業補習學校ガ吾人ノ要望スル如キモノトナリタル時ニ於テ之ヲ廢止スルモノトス

第二十條　本校ニ關スル規定ハ必要ニ應ジ本校委員會ニ於テ之ヲ變更スル事ヲ得

第二十一條　本規定ハ大正十二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

大正十二年五月一日

伊賀良村青年會

伊賀良青年補習學校に就いて

生徒となる方その父兄の方々へ申上げます

○別紙「伊賀良青年補習學校設立の趣旨」に依りまして、私達は小さい力でありますが私達の學校を起す事になりました。

○申すまでもない事ですが趣旨の精神から私達の仕事は決して村會議員の方々や其他私達を理解して下さらない人達に對しての反抗の爲めの仕事でもなんでもない事をハッキリと申上げて置きます。

○私達が此れ迄の苦しい經驗からしましても、この學校は他の學校より以上に眞劍な根强いものでなければならないと思つてゐます。

○そして生徒の人々に對しても父兄に對しても社會の人々に對しても必ず高い立派な結果を來すものでなくてはならぬのであります。

○この學校は本村の青年の教育を中心に考へて行くものでありますから、授業日の數時間、學課等みなこれに適當する樣に行つてゆきます。この事は別紙規定を見て下さればわかります。

○この學校では人間としての大切なる智識、感情、意志等を養ふと同時にこれからの人間として最も大切な事を研究して行くわけであります。

○この學校は生徒及びその父兄の方々の意志を重んじてゆくつもりであります。

○この學校では卒業後の生徒の獨立方針等をも常に考へて行きたいと思つてゐます。

○今年この學校へお願ひした二人の先生はほんとうに私達

の尊敬する事の出來る信頼する事の出來る方々であります。そして私達のお願ひを容れて爲い決心から出て下さつたのであります。

○どうぞ深く考へ下すつて是非この學校へ入つて下さい。一つの智識でも一生その人の上に役立つてゆくといふ事は恐ろしい大きな事であります。そして人間としての大切な事に深い考へを持つた人となつて一生をゆく事は今當座の不便位にかへられない大切な事であります。

○若い人は父兄の方々に御願ひして下さい、父兄の方々は子供や弟達に御すゝめ下さい。全課へ出られない方は專科へでも御入學下さい。

○ほんとうに今こそお互ひにとつて大切な出發の時です。

一、講習會開催

（イ）短期講習會

講師　牧島、清水、今井の諸氏　五日間に互る

（ロ）短期講習會

講師　田中嘉忠、小尾郡視學、木下泰雄

同じく五日間開催

第五年度（大正十三年度）

役員

會長　田畑光顕

副會長　矢澤治部助

會計　藤瀬三士

書記　木下榮治

理事

教育部　木下榮治　研究部　遠山源治

圖書部　古田壽治　勸業部　片山寅二

体育部　北原一男　編纂部　藤瀬三士

郡青代議員　田畑光顕　遠山源治

各支部長

第一支部長　矢澤治部助　第二支部長　米山嶠

第三〃　な　し　第四〃　藤瀬三士

第五〃　古田壽治　第六〃　遠山源治

本年度歳出入決算高

一、歳入の部　二五二、三二

一、歳出の部　二五二、三二

歳入内譯

一、繰越金　二八、三六

一、會員負擔金　七九、二〇

一、村費補助金　一四〇、〇〇

一、雜收入金　四、七六

歳出内譯

一、會費（總會費）　三〇、四〇

一、教育費　四五、六五
一、研究費
一、圖書費　八、九〇
一、編纂費　二二、七五
一、休育費　四六、七九
一、會議費　二、〇〇
一、郡費負擔金　三一、八〇
一、雜費　一八、七七
一、事務所費　一一、七九

宣言

本村は郡下の中央高臺に位置する大村にして、其雄姿既に他村を壓するの慨あり。然して今何をか爲すや。廣大の耕地に加ふるに廣大の山林あり、今これを如何に生かし居るや。民心統一して之等を生かし用ふる時、いかに本村は發達し村民は幸福になる事ぞや。實に郡下他に及ぶもの無きは明かなり。然るに口を開けば村費多端、民情疲弊といふ、然して平然たるもの多し。まことに心外の事と言ふべし。斯の如きは一つに民心統一をかき、事ある毎に惡なる部落根情を露し、私情を以つて公事を害するものあるによる。殊に一部に權勢家、野心家のありて私心の爲めに醇朴なる村民を迷はし正しきを誤り村民全般の福利を阻止するの事多きを見るに至つては、吾人の實に憤慨措く能はざるところなり。本村を目して自他共に難村といふ、實に諾なるかな。まことにこれ吾人の深く憂へとする處なり。

この一大原因は本村に兩學區の存する事これなり。然してこれによりて互に相對する事恰も一敵國の如く、互に優越を競あり、蔑視するあり、利權爭ふあり、然して一波は萬沈を生じて、民心の赴く處は、放縱、無節操、愛村の心なく利己の心長ず、これ企むを得ざるの理なり。斯の如くにし、いかんぞ天惠を生かし一村の發達を期する事を得るものぞ。

時代は益々急激に進みて、小論抗爭の徒を顧みず、吾人は一刻も早くこれに覺醒し、社會公存の理に立脚し、協同一致以つて互に相冐さず、相助長して、邁進の道を誤ぜざる可からず。

一、小使手當
一、繰越金　三三、四七

主なる事業

一、伊賀良小學校新館火災に遭ふ即新校舍建設の議村内に充てり青年會に於ては將に統一問題の好機逸すべからずとなし一昨年度來よりの本問題再燃し宣言決議をなし村當局に陳情書を提出す、又兩校統一に關する詳細なる調査を發表す

本村學校統一の問題は一村の地形より見ても、當然可能なる問題にして、區々たる梢末の論に超越して、根本的に之れを見れば一村教育上民心融和上、又經濟上多大の利益あるは明白なる事にして、又前途の憂根を除去するの第一先決問題なり。この故に本會は四ケ年以來、其一時も速に最善の方法によりて實現せん事を切望し、常に其態度を明かになし來れるなり。

今や此問題、村當局より村全般に渡りて、論議の中心に上り甲論乙論馭放言蜚語、止るところを知らざる有樣なり。然れども今回は村理事者、村會議員、其他有力者諸君に於ては眞劍なる態度以つて本問題に當らるゝが如く、吾人の大いに力とし喜びとするところなれ共吾人も又從來の一貫せる態度より責任より、又輝ける希望より、この問題に對しては勞力精神共に最善を捧げ以つて本問題の一刻も早く圓滑に完全に遂行せられん事を期するなり。

故に吾人心の宿恨を吐露し且つ吾人の決心態度を宣明する事斯の如し。

大正十三年三月四日

伊賀良村●青年會

決議

吾人は本村兩學校統一の一時も速に且つ最善に實現せられん事を期す、之に對し本會の能ふ限りの力を致す可し。

大正十三年三月四日

伊賀良村青年會

○此の問題は此の後三個年間中村區側私立學校を經營し其の間幾多調停を試みたる人あれど成立せず、昭和二年三月に至り高橋知事の調停にて此處に初めて兩學校完全統一を完成したり

一、ミレー版畫展覽會開催

一、村營圖書館設立の急務を痛感す

青年會は軍人會、兩校職員及女子青年會に呼びかけ合同協議會を開き連署を以て村當局へ設立の申請をなすべく着々準備するも不幸小學校の火災に遭い本運動も一時休止す

第六年度（大正十四年度）

役員

會長　田畑　光顕
副會長　矢澤治部助
會計　藤瀬　三士
書記　木下　榮治

理事

教育部　木下　榮治　研究部　熊谷　信夫
圖書部　古田　壽治　勤業部　米山　定雄
休育部　矢澤　文人　編集部　藤瀬　三士
郡青代議員　田畑　光顕　下木　榮治
各支部長

第一支部長　矢澤治部助　第二支部長　米山　定雄
第三〃　熊谷　精　第四〃　藤瀬　三士
第五〃　田畑　光顕　第六〃　熊谷　信夫

本年度歳入出決算高

一、歳入の部　三〇七、三五
一、歳出の部　三〇七、三五
一、差引殘金　なし

歳入內譯

一、繰越金　三三、四七
一、會員負擔金　七三、二〇
一、村費補助金　三〇〇、〇〇
一、雜收入金　六八

歳出內譯

一、會費（總會費）　五、〇九
一、教育費　二〇、〇〇
一、圖書費　一四八、五八
一、勤業費　五、〇〇
一、編集費　三、九五
一、休育費　五二、八二
一、會議費　八、七一
一、郡青負擔金　三四、三六
一、雜費　九七
一、事務所費　一三、六四
一、小使手當
一、繰越金　一四、七七
一、積立金

主なる事業

一、ベートーベンのレコード會開催
一、講演講習會の開催

○「自然と人生」　長與　善郎氏
○政治學　大山　郁夫氏
○社會學　市村今朝藏氏
○判斷と洞察　高倉　輝氏
○救ひの論理　陶山　務氏
一、「とも」善郎號發行

第七年度（大正十五年度）

役員

會長　田畑　光顕
副會長　林　好男
（副會長辭任四月七日改選）
熊谷　信夫
會計　熊谷　平男
書記　林　好男

理事

教育部　鈴木　文志　研究部　熊谷　信夫
圖書部　鈴木　太郎　勤業部　矢澤　昌則
休育部　細田　耕一　編集部　伊藤　伊義
郡青代議員　田畑　光顕　林　好夫
各支部長

第一支部長　林　好男　四月七日より近藤　一郎
第二支部長　米山　嶋　第三支部長　伊藤　伊義
第四〃　鈴木　文志　第五〃　清水　一郎
第六〃　松江　嘉一

本年度歳出入決算高

一、歳入之部　三四二、一七
一、歳出之部　三四二、一七
一、差引殘金　なし

歳入內譯

一、繰越金　一五、二一
一、會員負擔金　一〇一、四〇
一、村費補助金　二〇〇、〇〇
一、雜收入金
十四年度第一支部未納金　二一、〇〇
郡青講演會補助　五、〇〇

歳入內譯

一、會費（總會費）　一五、一三
一、教育部　七五、〇〇
一、圖書費　七〇、〇〇
一、編集費　一八、〇〇
一、休育費　六七、五一
一、會議費　九、六四
一、郡青負擔金　三三、〇〇

一、雜　費　二四、六三
一、繰越金　二九、六七
一、積立金

主なる事業

一、青年訓練所創設され青年團のこれに對する態度を闡明せり
一、圖書の整理
　全集物は自宅に於て年内絶へず貸出し單行本は創立當時の如く巡回文庫とす
一、特筆すべきものなし

第八年度（昭和二年度）

役員

會長　鈴木太郎
副會長　細田耕一
會計　椎名章一
書記　牧内義雄
　　久保田要

理事

教育部　近藤一郎　研究部　後藤茂
圖書部　田口勇　勤業部　松江嘉一
休育部　椎名章一　編纂部　竹村茂
郡青代議員　鈴木太郎　後藤茂
　細田耕一（教育部委員）

各支部長

第一支部長　矢澤恒男　第二支部長　後藤茂
第三〃　細田耕一　第四〃　田口勇
第五〃　市岡包雄　第六〃　松江嘉一

本年度歳出入決算高

一、歳入之部　四七〇、三六
一、歳出之部　四七〇、三六
一、差引殘高　なし

歳入内譯

一、繰越金　二九、七六
一、會員負擔金　一三五、六〇
一、村費補助金　三〇〇、〇〇
一、雜収入金　五、〇〇

歳出内譯

一、會費（總會費）　二一、〇七
一、教育費　一〇二、八六
一、圖書費　九七、九〇
一、勤業費　二、九〇

一、編纂費　六、二七
一、休育費　一〇六、四四
一、會議費　一七、二一
一、郡青負擔金　四九、六八
一、雜　費　三二、一二
一、事務所費　三〇、八八
一、小使手當　一、六九
一、繰越金　五、九六

主なる事業

一、補習學校の改革
　各補習學校を見學し又は教師並に校長と懇談會を開き學校施設に改善を加へ青年各自が充分勉强出來る樣生徒勸誘に努力す
一、講演會
　○牛塚鍵造氏を聘して「生活に就いて」と題し講演會開催
　○橋浦泰雄氏（プロレタリア藝術家）を聘し「既成藝術と新興藝術」に就いて講演會開催
一、「とも」廢刊さる

第九年度（昭和三年度）

役員

會長　椎名章一
副會長　細田耕一
會計　椎名國雄
書記　矢澤淳
　　竹村茂

理事

教育部　久保田賢二　研究部　竹村基佐男
圖書部　木下均治　勤業部　矢澤淳
　二日辭任補選　矢澤恒男
休育部　吉川親男　編纂部　竹村茂
郡青代議員　椎名章一　細田耕一

各支部長

第一支部長　矢澤恒男　第二支部長　永見均
第三〃　細田耕一　第四〃　椎名章一
第五〃　吉川親男　第六〃　伊藤護

本年度歳出入決算高

一、歳入之部　四三四、七四
一、歳出之部　四三四、七四

一、差引残金　　なし

歳入内譯

一、繰越金	六、三四
一、會員負擔金	一二八、四〇
一、村費補助金	三〇〇、〇〇
一、雜收入金	

歳出内譯

一、會費（總會費）	一七、二〇
一、教育費	一〇九、三〇
一、研究費	一四、〇九
一、圖書費	八一、二〇
一、勸業費	五、〇〇
一、休育費	一〇五、五六
一、會議費	一七、九七
一、郡青負擔金	一三、〇〇
一、雜費	二八、六七
一、事務所費	三〇、〇〇

一、小使手當　　二、九二
一、繰越金　　九、八三
一、積立金

主なる動き

一、郡青年會に對して本會の態度を研究討議す

「郡青年團は教養團体である限り其の構成單位たる個々の修養の目的のために進まねばならぬ、團体の構成單位たる個々が不完全なる限り其の團体は完全なるを得ない故に團体的行動其他社會事業等に依り個々の智識人格感情等を訓練陶冶する事が社會進化の根本基調であり青年團の必然使命である」と吾が村青は主張す

各村も郡青の態度に不滿を持す意見の一致を見ず郡青年會は崩壞の止むなきに到れり、依而吾が村青は之に對處し即ち聲明書を發表せり

聲明書

吾村青年會は全郡青年會が結成後日ならずして解散の止むなきに至り、今や全く收拾すべからじる現狀に際し吾々の態度を遍く郡下に聲明す。

舊郡青も聯青も亦何れへの未加聯村も從來まで取りし行動に就いて大いなる誤解を認め、其等一切の誤りを捨てゝ郡下青年各戸を通じて輿望止むなき單一結成を完成し、以て新たなる歩調を持すべく此所に計劃され、各村青年會は大いなる期待を持つて之に望みし事と信じ、又吾村青年會も斯くありしは言を待たざる次第なり。

然るに其の結果は如何、結成準備正式代表者會に於て綱領草案を作製し、而して之を郡下各村青年會に發表し、其の最も正しきを認め、二十七ヶ村の結成を見たり。

次いで全郡青年大會（創立大會）を開くに及び、席上或る一部幹部の策動に依り最も偏的なる方面に改訂し、以て全郡青年を我手に導かんとしたる行動實に明白なりき、斯かる少數幹部の策動止まざる限り如何で清淨されたる結成のなるべき。

第一回代議員會の斯かる結果に至りたるは當然の歸結ならん。

吾村青年會は舊郡青年會に入り當時より斯くの如き偏的なる策動を避けつゝ漸時綜合團体の本質に悖まざる歩みに進ましむべく戰ひ來れり。

時來り郡下青年大衆の奮起は一部幹部に依りて綜合團体の本質に悖りたる行動を以て、其の團体を利用さるゝの否を認むるに至りたり、而して純正なる結成に全期待を持つ時、吾村青年會も双手を擧げて全力を盡したり、然るに根强くも少壯策士の陰謀に依り大衆を僞瞞したる行爲は認め得ざるものなり。

然れども綜合團体たる以上、各種思想分子を包含するを否定する者にさらざるも、綜會團体の指導方針として偏的なる一綱領を掲げ、それのみに進出するは絶對に不可なり。

以上の理由に依り、我村青年會は飽くまで偏的なる團体の維持に力を盡すの要なきを認め、吾々は所期の目的の貫徹の爲めに戰ひたるを言明し、此所に吾々の態度を表示するものなり。

昭和三年五月二十七日

以上の如くにして松尾青年團等とはかり中央部青年會聯盟を創立に寄與せり

本年は郡青年會に對して極力本會は盡粹せり

一、教育方面　　武内　三郎（京都帝大哲學科出身）

木下　泰雄（飯中教諭）　等の講演會開催

一、伊賀良時報の發行と青年會報の中止

一、勸業視察上伊那方面及講演會開催

第十年度（昭和四年度）

役員

會長　竹村茂
副會長　矢澤淳
會計　細田耕一
書記　椎名章一　矢澤淳

理事

教育部　細田耕一　研究部　木下均治
圖書部　久保田賢三　勸業部　矢澤淳
体育部　椎名章八　編纂部　椎名國夫
郡青代議員　竹村茂（常任委員）久保田賢治
椎名國夫　矢澤淳

各支部長

第一支部長　矢澤淳　第二支部長　矢澤晴男
第三〃　細田耕一　第四〃　椎名章一
第五〃　今牧忠男　第六〃　久保田賢治

本年度歳出入決算高

一、歳入の部　四八九、八三
一、歳出の部　四八九、八三

一、差引殘金　なし

歳入内譯

一、繰越金　九、八三
一、會員負擔金　一〇五、〇〇
一、村費補助金　二四〇、〇〇
一、雜收入金

歳出内譯

一、會費（總會費）　一八、四六
一、教育費　一〇七、五六
一、研究費　一五、七二
一、圖書費　八一、二一
一、勸業費　一〇、〇〇
一、編纂費　八一、一八
一、休育費　四六、一九
一、會議費　一八、八〇
一、郡青負擔金　二三、八五
一、雜費　四六、三五
一、事務所費　三三、〇八
一、小使手當　二、二八
一、繰越金　二、一五
一、積立金

主なる動き

一、村議改選に際し選擧民に對し啓蒙運動として村議立會演說會を開催し又聲明書並に檄を發表せり。

聲明書

村會議員改選に際し村民諸君の反省を乞ふ

本月は吾が伊賀良村村會議員改選に際しました。この期に當り諸君に御承知の如き村政の全き行ずまりを、新議員に依つて打破しなければ吾が村は將來如何になるでせうか。吾々は一生涯不幸な目に會つて、生きなければならないのかも知れません。諸君！吾が青年會はこの悲慘を重ねるに忍びず不肖の身も省ず、此處にこの一文を草して諸君の徹底的反省を乞ふ次第であります。

さて吾々が村の自治を行ふ上に何が最も大切であるか、この最も大切なるものが缺けてゐるからこそ吾が村はこの悲慘な狀態に陷つてゐるのです。その大切なものとは即ち相互扶助の精神共存共榮の精神であります。言葉をかへて云へば、『吾々は吾が村の一村民である。故に村に對して一村民としてのある犧牲的な任務を持つてゐる』この心持であります。謙讓の氣持であります。己れの我のみ通すのでなくて、譲る氣持であります。すると『お前達の樣な小僧ッ子に今更そんなことを云はれなくてもそんなことはちやんと知つてゐる』とお云ひになるにも知れません。然し吾々はこう答へます。『知つてゐるだけでは何にもならない。それは實行してからこそ始めて徳と云ひ得るのである』と。然しくど〳〵しい理屈は止めませう。それよりも諸君！　吾々は此の天下の離治村に於て、これとは全く掛け離れた理想的行爲を持つて着々と活動してゐる團体のあることを御存知ですか！　吾々は實際現在斯くある團体を上げ、それ等の行爲は本當の自治的な精神であることをあきらかにし諸君の反省を乞ふ次第であります。

それは大瀬木區の一部分に於て組織されてゐる。二部教授廢止同盟會であります。この同盟の存在する所以を少し書いて見るならば、これの出來たのは昨年の學年末即ち三月の下旬だと思ひます。諸君、吾が村に於ては小學校統一以來紛糾に紛糾を重ね、その間には火災に會ひ、そして舊校舍の兒童を收容する能はざるのに一時的の修理に依て、やう〳〵それを補つてゐるのであります。けれどそれですら未だ統一の主旨に依れば甚だしく校舍の不足を來してゐるので有ます。で下級生兒童には二部教授實施は止むを得ぬ立場に在つたのであります。然し此處に伊賀良部の方は斯くの如くでありましたけれど、中村部の方には教室の余裕も、一級兒童數の余裕もあつたのであります。だからこの問題即ち校舍の不足を緩

和し忌むべき二部教授廢止をするのには如何なる道が殘つゐたか。それは伊賀良全体から見て最も中村部に近き部落の兒童を中村部に通學させると云ふことそれ以外に道はなかつたのであります。この時に當つて組織されたのが二部教授廢止同盟會であります。諸君、此處に特に御注意を願ひたいのであります。この同盟の組織された地域から考て見て伊賀良部へ行くのと如何に遠隔の差があることでせう。一方には中村部へより面接してゐる部落のあるのに目もくれず、又その地域内にもこの二部教授廢止の大切なることを理解せず、犧牲的精神のなきためこの同盟に參加せず、伊賀良部に通學さしてゐる人もあるのであります。愛する幼き兒童を近きにある學校を止めて遠いところにある學校に通學させた、この事實！　諸君これこそ吾が難治村伊賀良村を救ふべき精神です。相互扶助の精神、犧牲的精神、自治の精神であります。諸君！　諸君はこの愛村的行爲に深く頭が下がることと深く信じます。この同盟會組織によつて得たる利得が吾が村全体に悉く及ぼしてゐるのであります。もしこの同盟會がなかつたらなら二部教授は廢止されなかつたのであります。尙深く入ればもしこの同盟内の兒童が伊賀良部に行つたとすれば各級兒童の數はおびただしく增加し增級は止むなきことでせう。前にも言いた通り中村部の方は各學級の兒童數は未だ多くの余裕があつたのであります。增級すれば教員の增加は必然の結果です。教員の增加は教員費の增加、引いては村費の負擔加重は必然であります。この同盟組織に依つて得たる利得はまだ〳〵あるでせう。然し吾々は利得より以上これを得さしめたる犧牲的精神をとくと注意して戴きたいのであります。

然るにどうでせう！　この愛村的同盟のあるのにもかかはらず、吾が村の選良なり行政者たる村會議員諸君の取つた態度は？誠心誠意校舍新築に努力すべきが當然なのではありませんか。この同盟が組織された昨年の學年末、村會議員諸君にこの主旨を示したところ涙を流して喜んだと云ふことです。それにもか〳〵はらず『のどもと過ぐればあつさを忘れる』で皆忘れはて、私情によりつまらぬ水掛論ばかりしてゐたのだらう、未だ學校新築の曉光たに見てゐないのではありませんか。吾々はこの同盟會の精神の偉大さに感心する一方村會議員の無能をも痛切に感じるのであります。この同盟會は昨年一年だけ中村部へ行き本年度からは新校舍が立たりそれに通學することを自他共に約束されてゐたのです。然るにこの不始末な結果は今一年この同盟會の諸君は中村部へ通學することを決議したのであります。何たる美擧でせう？

諸君　吾々はこの村會議員改選に當りこの二部教授廢止同盟會の取つた如き態度たらんことを願ひ、そして新議員も斯くの如き精神の保持者たらんことを熱望するのであります。そうではなかつたなら吾が村は永久にこの悲慘を續けねばならないでせう。諸君よ！　諸君は誠心誠意村のため努力する人を、誠心誠意を持つて選擧されんことを熱望する次第であります。

君々は村永遠の幸福を思ひ上述の如き精神より、左の事業の誠心を以て爲すべき人の立候補を望み、又その人を諸君は選出すべく努力されんことを望む。

一、小學校々舍新築

この切實な問題、誰もが承知してることだらう。教育問題から云つても校舍の狹きこと、不備なことは重大なることであります。それにどうだらう、あの舊校舍の危險な姿はいつ不慮の禍が起きんとも限らないのではないか。

一、通年制補習學校

吾々は小校學教育だけではどうしても充分と思へない。何故ならこの補習學校時代が人生の危期であり、又善導すれば一生涯よき人物として立ち得るのである。補習教育の徹底を期したなら社會は實に美しく生きよくなるだらう『國難來』だなどとつまらぬことを議論したり決議する必要は毛頭なくなるだらう、最も健全にして公平無私なる社會人の出來ない限り社會は必ず進歩しないだらう。吾が村を愛へ愛する諸君は一日も早く補習教育の徹底のため努力されん事を望む

一、道路の完備

小學校統一の上必ず爲さなければならないことであらう。又產業に引いては自治に交通の完備は實に大切である。

一、區有財產の統一

この問題は實に至難な問題だらうけれども最も合理的方法により之の速成を望む。これを第一區で所有するより村で持つて合理的管理に依つた方がはるかに有利であるだらう、村は一家の如く平等に睦しく暮すべきである。これ又村の自治の上一日も早く解決すべき問題である。

一、村社の合併

現在吾が村には村社が七社ある。村社は吾々の守神であり吾々氏子は皆その守護神の下に於て一である。一家であるべき村に各區毎別々に村社の在ることは實は不合理である。一村に一つの村社こそ合理的であるし當然だと思ふ。そして一村のもの悉く祭日には集つて喜び樂しむこそ本當である。

一、生產組合の合併統一

產業に於ても一村は一つになつて行くことが當然であるし有利だと思ふ。

以上六つを上げたけれどその外にもたくさん完備すべきこと、改むべきことがあることゝ思ふ。然し當面せる問題として又吾々の頭の及ぶ範圍として以上を上げる。

吾が伊賀良村々民諸君よ！　この改選期こそ吾々の運命の左右されるだうところです。よく胸に手をあてゝ反省し、傳統的な選擧法を改めない限り吾が村は永久に救はれません。

立候補する諸君よ、諸君こそ重大なる任務を持つてゐるものです。吾々の解く精神及び達成すべき事業とをよく考へ理解し吾が村のため身を粉にして努力するだけの覺悟を持つて立候補されんことを熱望します。

有權者諸君よ、諸君の最も信ずる人に投票しようではありませんか。諸君の選出する態度が惡かつたからこそ現在の村會議員は無能力者揃ひなのです。諸君はこの村政にはコリ〳〵したでせう。そうしたら諸君は純粹なる精神の上に何ものにもそくばくされず諸君の信ずる人に清き一票を投ぜられんことを、吾々若き青年のおどる血潮を以て熱望します。

昭和四年四月六日

責任者　竹村茂

伊賀良村青年會

一、全村的体育デーの創立

十一月三日明治節であり全國一齊の体育デーの催される日を利用して本村にも本會が主催となり創立せり、今尙今日に及べり

當時の參加團体は小學校、軍人會、消防組、伊賀良、青良館、青訓、青年會及女子青年會の八團体なり

一、講演會

○土にかへれ　木下春雄氏（飯中教諭）

○模倣と獨創　石原純博士

○生活と文藝　花岡謙二氏

○百姓精神　江渡幸三郎氏（篤農家）

○思想問題の批判　桐生悠々氏（信毎主筆）

○現代男女青年の地位　千葉龜雄氏

一、會報（活版刷）第一號發刊

一、自主創立十周年記念會史發刊

一、圖書の整備

現在圖書館に設置されてゐる樞幹圖書は當時新たに購入されたものである。即ち

正岡子規、芥川龍之助、石川啄木、夏目漱石、樋口一葉、トルストイ世界宣話、有島武郎、世界文學等の諸全集なり

第十一年度（昭和五年度）

役員

會長　細田耕一

副會長　椎名國夫

會計　宮澤藤一

書記　今牧忠男

顧問　福澤勇

郡青代議員　竹村茂

理事

椎名國夫　久保田賢治　伊藤穣

細田耕一

研究部　久保田賢治　教育部　椎名國夫

圖書部　今牧忠男　編纂部　福澤勇

体育部　伊藤勝春　勸業部　矢澤等

各支部長

第一支部長　矢澤等　第二支部長　位高一二三

第三〃　細田耕一　第四〃　上沼常治

第五〃　今牧忠男　第六〃　久保田賢治

本年度歳出入決算

一、歳入之部	三七四、六五
一、歳出之部	三七四、六五
一、差引殘金	なし

歳入內譯

一、前年度繰越金	二、一五
一、會員負擔金	一三二、五〇
一、村費補助金	二四〇、〇〇

歳出內譯

一、總會費	三〇、〇〇
一、教育費	六五、〇〇
一、圖書費	五〇、〇〇
一、編纂費	四〇、〇〇
一、休育費	七〇、〇〇
一、勸業費	二〇、〇〇
一、研究費	二五、〇〇
一、事務所費	二〇、〇〇
一、小使手當	五、〇〇
一、會議費	一〇、〇〇
一、雜費	九、六五
一、郡青負擔金	三〇、〇〇

主なる事業

一、第二回研究會意志表示（四月九日）

吾々が絶へざる練磨と深い思慮を持つときそれ現在に對する時先づ我々は余りにも混沌とし正視し得ざる現在たることを痛感せざるを得ない。斯る現象を切實に見せつけられるとき吾々は何らかの力のあふるゝを禁じ得ないそして又之に對して眞劍に働きかける吾々の力こそ眞に混沌とした現在に對して革正の第一歩を印すべき眞の力なんである。

然し此の力こそ吾々の絶へざる練磨と深い思慮と何物にもとらはれない純情さはちきれる熱情のほとばしりでなければならない。そして其の力は恐らく全青年層の一致のさけびであり底力でなかつたなら何ものをもなし得ない。斯かる意味に於て吾々は先づ社會的に進出する直前に於て吾々自身の手によつて吾々の教養を深め常に純情さを以て靜觀し余力を以つてこそ對外的に始めて進出すべきである。

此の意志表示によつて過去十年と今後の行くべき道とをはつきり境界付けた。

一、本年度は意志表示に示されたるものが實行に移された昨年に引續く青年講座開講と八回の多きに恒る講演會が開催された。

一、七月十五日西部六ヶ村青年對抗陸上競技大會に優勝す

一、令旨奉戴十週年記念式（十一月二十二日）擧行

一、秋季体育大會決勝に端を發し六支部對三支部に不祥事發生せり、然るに會長、役員以下全員の反省と自覺によつて數日にて解決されたことは青年のみになし得られるものだ。

一、講演會と講師

「伊那史に就いて」　飯田高女　市村咸人氏

「心」　飯田中學校　木下春雄氏

「伊那史に就いて」第二回　飯田高女　市村咸人氏

「我國民の特性と外來思想の純化」　補習學校　伊藤傳氏

「農家經營に就いて」　北佐久農學校長　春原平八郎氏

「俳人正岡子規」　飯田中學　木下春雄氏

「修道」　飯田中學　木下春雄氏

第十二年度（昭和六年度）

會役員

會長	久保田賢治
副會長	今牧忠男
會計	熊谷隆男
書記	椎名國夫
	福澤勇

理事

教育部	細田耕一	研究部	伊藤穣
圖書部	椎名國夫	勸業部	矢澤等
体育部	位高一二三	編纂部	福澤勇

郡青代議員

久保田賢治　細田耕一　伊藤穣　伊藤勝春

各支部長

第一支部長	矢澤等	第二支部長	位高一二三
第三〃	細田耕一	第四〃	椎名國夫
第五〃	今牧忠男	第六〃	伊藤穣

本年度歳入出決算

歳入之部

一、村補助金	二〇〇圓〇〇
一、庭木移植費	四〇、〇〇
一、會員賦課金	一四三、九〇
一、試驗場寄附	一〇、〇〇
一、女子青年會〃	二〇、〇〇
一、除雪費	九、二〇
一、小學校〃	一五、〇〇
一、農會〃	一五、〇〇
一、其の他	一、四七
合計	四五〇、五七

歳出之部

一、總會費	一三圓五〇
一、教育部費	六八、五五
一、研究部費	四、六〇
一、圖書部費	三五、一五
一、編纂部費	二〇、七五
一、休育部費	五八、五八
一、勸業部費	四三、二八
一、會議費	一五、八七
一、雜費	九七、二五
一、郡青	三七、二〇
一、小使手當	二、〇〇
一、事務所費	二一、八七
一、會史發行費	二五、〇〇

合計	四四四、八七
差引殘金	五、七〇

主なる事業

一、小學校庭木移植事業
不況を侵し万難を排して小學校新築事業は着々決行されつゝある、青年會は之が一助にと四日間に亘り庭木移植の奉仕事業を行つた

一、農業講習會

講師	講習科目	日程
市田試驗場長伊藤氏	稻作に就いて	一月二十六日、三十日、二月六日
同　技手小太刀氏	蔬菜類に就て	二月十三日、二十日
郡農會技術員高坂氏	農業經營に就て	二月十七日 三月六日十六日
村農會技術員亀割氏	土壤肥料に就て	三月二十日 二十七日

一、講演會講師

「古事記を通じて」	木下　春雄氏
「個人思想に就いて」	宮坂　喆宗氏
「余の結婚並びに戀愛觀」	春原平八郎氏
「佐竹蓬平に就いて」	岩崎　清美氏

第十三年度（昭和七年度）

役員

會長	熊谷隆男
副會長	永見　均（二月出征）
副會長代理 兼務	福澤　勇
會計	新井英雄
書記	松澤孝太郎
	矢澤　等

理事

教育部	今牧　舒　研究部 伊藤勝春
圖書部	上沼　博　体育部 水野恒夫
勤業部	久保田賢二　編纂部 福澤　勇

（右七月辭任）後任矢澤等

中央部青年會常任委員
常任委員　熊谷隆男（教育部）福澤　勇（記錄部）

各支部長

第一支部長	矢澤　等　第二支部長 永見　均
第三〃	清水良雄　第四〃 上沼　博
第五〃	今牧　舒　第六〃 久保田美喜男

本年度歲出入決算高

歲入之部	
一、前年度繰越金	五、〇〇
一、會員負擔金	一三〇、三〇
一、村補助金	二〇〇、〇〇
一、雜收入	一五二、九七
一、合計金	四八八、二七

歲出之部	
一、總會費	一五、五〇
一、教育費	四九、三二
一、圖書費	二二、五〇
一、勤業費	二、七八
一、編纂費	三〇、〇〇
一、休育費	一〇六、四七
一、研究費	五、九六
一、會議費	三四、九二
一、郡青擔金	三二、五〇
一、事務所費	四二、六一
一、小使手當	二、〇〇
一、農業日誌代	三九、〇〇
一、基本金利子返還	八〇、〇〇
一、雜費	三四、六九
一、合計金	四九八、二五
一、差引欠損金	九、九八

主なる事業

一、滿洲事變映畫上映出征兵士家族慰安會　二月十六日
○對支風雲急變動員下令、青年團員多數應召、年末には北滿洲の野より悲報飛んで村葬の儀に列す

一、郡青年會脱退と中央部郡青年會結成
郡青現在の機構に不滿を持つ我が伊賀良村を初め上飯田上郷、松尾の一町三ケ村は聯合して郡青改造案を郡青に提出したるも否決さるゝに至り此處に郡青脱退をなし前記一町一ケ村は中央部郡青年會を結成せり

一、安部磯雄氏大講演會
十月二十四日「農村經濟」と題して

一、開廳開校祝賀式參加　十一月三日
祝賀大運動會、記念品評會も開催され協力す

一、体育部の活動目ざましきものあり
○下伊那農學校へ武道遠征　二月十日
○會地武道倶樂部對抗武道試合　二月十九日
青年會大勝
○演武會出場　柔道部一等　四月十七日
○富士見台野營　八月十八日
○中央部郡青陸上競技大會優勝　十月十四日
其の他例年の武道大會、運動會、遠足等行ふ

一、講演會講師
「青年の生きる道」　伊藤　操氏
「心」　木下春雄氏
「自力更生に就いて」
農事試驗場分場長　伊藤亀藏氏

第十四年度（昭和八年度）

役員

會長　今牧舒
副會長　菅沼昌治
會計　久保田章甫
書記　小池誠
　　福澤信男（四月辭任）
　　平田亀男（後任）

理事

研究部　平田亀男　教育部　小池誠
圖書部　矢澤孝雄
体育部　宮崎三内（十月辭任）熊谷幹夫（後任）
勤業部　新井英雄　編集部　福澤信男
各支部長

第一支部長　矢澤孝雄　第二支部長　宮崎三内（十月辭任）
第三〃　福澤信男（十月辭任）　第四〃　代田亀男
第五〃　久保田章甫　第六〃　新井英雄
中央部青年會代議員及常任委員
常任委員代議員
今牧舒（副委員長）福澤信男（記錄部長）
代議員
菅沼昌治　小池誠
宮崎三内　松澤義雄

本年度歳出入決算高

歳入之部

一、基本金利子借入	九〇、九一
一、會員負擔金	一二五、七五
一、村補助金	二〇〇、〇〇
一、雜收入	四八、四七
一、合計金	四六五、一三

歳出之部

一、總會費	一九、八六
一、教育部費	三六、五六
一、圖書部費	三二、二四
一、勤業部費	三〇、六〇
一、編集部費	四一、五〇

一、休育部費	九四、八一
一、研究部費	六、〇六
一、會議費	一九、二四
一、郡青負擔金	一七、五〇
一、事務所費	二九、四三
一、小使手當	二、二八
一、雜費	三、七七
一、前年度缺損金	三五、七六
一、村議立會演說會費	八、二七
一、基本金利子借入拂	九〇、九一
一、合計金	四六八圓七九
收支差引缺損金	三圓六六

一、聲明書

拜啓時下春暖の候各位益々御清榮の段賀奉候愈々本村村議改選も目前に迫り進て吾々一村民として此の大村の將來を慮る時私共青年と致しましてこれを傍觀するに忍びず玆に聲明書を草して村民各位の反省を乞ふ次第であります。

非常時今や流行的に全國至る處に其の聲を聞く内政に外交に多事多端將に非常時たるは事實であります。吾が村情を見たる時亦然りです。今や巨萬の費を投じて改築された新廳新校によつて只外的中央機關も一新されたなれど其の大建築の裏に潜む拾有余萬圓の村債を如何にする、昭和九年度より七ケ年年賦償還たるは村民諸氏の遍く御周知の事と信ずる。村税徴収三萬余圓それすら負擔に苦しみ累計貳萬余圓の滯納を持つ現在に於て村債償還期となるなれば年五萬の村税を負擔しなくてはならない。養蠶業の不振は農家經濟を破綻せしめ明日の生活にも恐怖を感ずる現在より以上の重税に苦しまなくてはならないか？……

當面せる村議改選は村政の經濟的難局打開の最適任者でなくてはならない。村民の爲是であるか否であるか私利私慾に捉

主なる事業

一、大瀬木公會堂に長らくありし圖書を役場の新築されたのを機會に役場へ移轉した
一、產業組合研究、村情研究、村農會振興等の爲に右各圖休の幹部を交へて研究懇談會を數回に亘り開催す
一、村議候補立會演說會開催
四月廿八日　伊賀良小學校講堂に於て
出席候補者　十一名
應援辯士　一名宛
○村議改選に當り青年會より配布せる聲明書

はれず正しき認識と厳正なる批判とをなし得る議員に選出しなくてはならない。來るべき村政議上には其の他幾多難解の諸問題が横たわつてゐます。産業組合並區有財産の統一、村社合祀植林事業、補習教育の徹底等々これ等諸問題につき正しき理解を持つ人物に選ばなくてはならない。

情實に捉はれるな、全力に幻惑されるな、自己財産擁護のために亦名譽獲得のために立てる候補に貴き選擧行爲を誤まつてはならない。

候補者の爲の選擧にあらず村民自身のための選擧なのだ。

村民の意志を村政上に反映させ得べき代表者の選出であります。

過去に於ける村民の無自覺は現在に於て被壓迫者の立場に追ひやられた之を救ふ者は政治家に非ず農民自身の覺醒であります。尊き一票の行使如何であります。何卒此の重大意義を諒とせられ必ず破棄せず諸氏の信ずる人に清き一票の行使あらん事を切に熱望して村民各位の反省を乞ふ。

四月二十五日

伊賀良村青年會成年部

第十五年度（昭和九年度）

役員

會長　小池諒

副會長　菅沼昌治

會計　田口政男

書記　高林喜好

理事　菅沼昌治

一、講演會講師

「農家經營に就いて」　郡農會技手　高坂專一郎氏

「古代人」　伊藤操氏

「自然と觀察」　農學校教諭　前澤淵月氏

「農村更生に就いて」　御牧原青年講習所長　西村富三郎氏

一、講演會　三月十六日午後七時長清寺に於て

講師　瑞松軒古仲鳳洲老大師

出席者　三〇〇名

研究部　村澤義雄　教育部　久保田章甫

圖書部　矢澤喜平治　体育部　熊谷幹夫

勧業部　仁科榮　編纂部　高林喜好

中央部青年會代議員（○印は常任委員）

○小池誠　○村澤義雄（常任委員長）

久保田章甫　田口政男

熊谷幹夫　菅沼昌治

八月より　高林喜好　關島隆治　二名増員

（以上郡青代議員兼任）

各支部長

第一支部　矢澤尚治　第二支部　矢澤喜平治

第三〃　高林喜好　第四〃　關島隆治

第五〃　久保田章甫　第六〃　菅沼昌治

本年度歳出入決算高

歳入の部

一、前年度繰越金	七、二八
一、會員賦課金	一二五、六〇
一、村費補助金	二〇〇、〇〇
一、雜収入	一三九、五一
合計	四七二、三九

歳出の部

一、總會費	一七、七三
一、研究部費	一三、〇三
一、教育部費	二四、九〇
一、圖書部費	三一、八三
一、体育部費	九六、〇六
一、勧業部費	二三、二四
一、編算部費	四二、〇〇
一、中央部青負擔金	四九、四七
一、會議費	二五、三五
一、事務所費	三二、五四
一、雜費	一九、八九
一、小使手當	二、〇〇
一、基本金利子返還	九〇、九一
計	四五八、六九
差引殘金	一三、七〇

主なる事業

一、生活改善運動

村經濟更生委員會に呼應して村男女青年會獨自に生活改善委員を設置、生活改善、研究部門を村行政、村經濟、村教育、農業經營、家庭經濟の五部門に大別し各部門的に研究調査し生活改善運動に對して正しき認識を求め、正しき主張により正しき行動を以て之に惜みなき努力を續けた。即ち調査研究は各優良村視察、先輩との懇談等あらゆる方法により生活改善要綱（現在の基本）を決定、

之が實行促進文を作成全村民に呼び掛け其の効大なり。

一、中部郡青年會武道大會優勝　二月二十六日
〃　野球大會優勝　四月十五日
郡青年會陸上競技大會優勝　十月廿一日

一、御親閲拜受記念青年團非常召集
十一月十七日群馬縣高崎市乘附練兵場に於て長くも天皇陛下には男女青年代表に御親閲を賜り洵に恐懼感激に堪へず此の千載一遇の光榮を深く肝銘し未曾有の非常時局乘切りを期し聖恩の萬分の一にも酬ひ奉るべく十一月二十二日午前五時三十分伊賀良小學校庭に非常召集を行ふ

一、下伊那郡聯合青年會創立（再建）
創立大會十月八日午后一時　於飯田帝國館
常任委員長　村澤義雄
〃　加村　伊賀良、鼎、松尾、上郷、龍江、上飯田

一、講演會講師
「日本ファッショ運動概論」　伊那高等女學校長　春原平八郎氏
「蔬菜栽培に就いて」　農事試驗場技手　小太刀秋雄氏
「生活更新の原理」　飯田中學教諭　伊藤千春氏

第十六年度（昭和十年度）

役員

會長　田口好男
副會長　久保田安彦
會計　椎名好夫
顧問　菅沼昌治
書記　松澤邦郎（五月辭任）
〃　肥後重男（同）
後任　高橋寅雄
仝上　平澤明登
理事
研究部　中島松夫
教育部　仲田幹夫
圖書部　吉池忠一（四月辭職）矢澤文彦（後任）
体育部　新井希平（十月辭任）熊谷二郎（後任）
勸業部　矢澤正二
編集部　松澤邦郎（五月辭任）高橋寅雄（後任）
旗手　久保田五郎
郡青代議員（○印は常任委員）
○田口政男　○久保田安彦　中島和夫　仲田幹夫
新井希平（十月辭任）椎名好夫（後任）
松澤邦郎（五月辭任）高橋寅雄（後任）

各支部長
第一支部長　矢澤文彦　第二支部長　平澤明登
第三〃　松澤邦郎（五月辭任）高橋寅雄（後任）
第四〃　中島和夫　第五支部長　久保田安彦
第六〃　仲田幹男

會計決算

歳入の部

村費補助金	二〇〇、〇〇
會員賦課金	一一六、二五
繰越金	六、六一
雜收入	一八二、三五
計	五〇五、二一

歳出の部

一、總會費	一五、五七
一、研究部費	八、九三
一、教育部費	二七、九〇
一、圖書部費	二四、二五
一、体育部費	九七、五八
一、編集部費	六一、〇〇
一、勸業部費	二三、四二
一、中央部青年會費	三〇、四七
一、事務所費	二七、〇六
一、小使手當	二、〇〇
一、雜費	一四、六〇
一、會議費	一八、二五
一、基本金利子返還	一三〇、〇〇
計	四八一、〇三
差引殘金	二四、一八

主なる事業

一、郡青年會武道大會優勝　三月三日　於農學校

一、講演會講師
伊那高等女學校々長　春原平八郎氏
『我國の農業經營の特色と吾等の覺悟』
日本禁酒同盟總主事　小坡完次氏
『歐洲を巡りて』
市田農試分場　北原、宇野兩技手
『水稻、陸稻に就いて』
岐阜縣篤農家　梅村登氏
『大地より見出したる新生命』
飯田高等女學校長　八木貞助氏
『現代の男女青年』
縣社會課主事　山浦國久氏
『青年學校と青年會』
伊賀良產業組合長　清水謹一氏
『產業組合に就いて』

第十七年度（昭和十一年度）

役員

會長　久保田安彦
副會長　仲田幹夫
會計　長尾兼治
書記　平澤明登
　　松澤邦郎

理事

教育部　高橋寅雄
研究部　矢澤文彦（二月辭任）清水正雄（後任）
圖書部　川尻正男　体育部　久保田五郎
勸業部　矢澤正二　編纂部　平澤明登
族手　平田武司
郡青代議員（○印は常任委員）
○久保田安彦（体育部長）○仲田幹夫　高橋寅雄
平澤明登　川尻正男　矢澤正二

各支部長

第一支部長　矢澤尙治　第二支部長　溝口象男
第三〃　矢澤邦三　第四〃　川尻正男
第五〃　長尾象治　第六〃　肥後重男

會計決算

歳入の部

一、村補助部	一五〇、〇〇
一、會員賦課金	一〇二、〇〇
一、繰越金	二四、一八
一、雜收入	一六五、五〇
計	四四一、六八

歳出の部

一、總會費	一七、五〇
一、研究部費	三、二〇
一、教育部費	三〇、〇五
一、圖書部費	二五、七七
一、休育部費	五四、二〇
一、編纂部費	四〇、九九
一、勸業部費	九、〇二
一、郡青年會費	三二、九四
一、小使手當	二、〇〇
一、雜費	二〇、一九
一、事務所費	三二、三六
一、會議費	二一、四六
一、基本金利子返還	一四〇、〇〇
計	四二九、六八
差引殘金	一二、〇〇

主なる事業

一、徴兵適齢者慰勞晩餐會　六月十一日
毎年徴兵檢査と云へば飯田あたりの料亭にて氣勢を擧げるのが恒例であつたのを本年度よりは男女青年會にて小學校に於て慰勞晩餐會を催し大なる効果を修めたり

一、講演會講師

「國體明徴問題」　代議士　中原謹司氏
「有畜農業に就いて」　畜産組合技手　神津博太氏
「企業合同及蠶糸業の將來」　産組郡部會　久保田良一氏
「財界の將來」　黒岩島氏
「法延より見たる若き犯罪者の心理と社會の教養的缺陷」　飯田區裁判所判事　藤山藤作氏
「世界の大勢と躍進日本の使命」　今村忠助氏
「大亞細亞文明」　松江大元氏

第十八年度（昭和十二年度）

役員

會長　高橋寅雄
副會長　清水正雄
會計　清水正三
書記　矢澤邦三
　　松澤邦郎
族手　久保田多郎

理事

教育部　川尻正男　研究部　平田武司
圖書部　矢澤正二　休育部　平澤明登
勸業部　熊谷弘司（三月辭任）矢澤俊雄（後任）
編纂部　矢澤邦三
中央部青年會役員
常任委員　高橋寅雄（体育部長）清水正雄
代議員　川尻正雄　平澤明登
　　平田武司　熊谷弘司（三月辭任）
　　矢澤邦三（後任）

各支部長

第一支部長　矢澤俊雄　第二支部長　平澤明登

第三ノ　矢澤　邦三　第四ノ　川尻　正雄
第五ノ　平田　武司
第六ノ　熊谷弘司（三月辭任）久保田多郎（後任）

昭和十二年度會計決算

歳入の部

前年度繰越金	一二圓〇〇
村補助金	一五〇、〇〇
會員負擔金	八五、五〇
其の他	二四、九五
合計	二七二、四五

歳出の部

總會費	一三圓〇〇
教育部費	一九圓五〇
研究部費	一七、〇〇
圖書部費	二九、〇〇
編纂部費	四〇、〇〇
体育部費	四一、三七
勤業部費	七、〇八
中央部那育費	三〇、〇〇
事務所費	二八、〇〇
會議費	一七、〇〇
小使手當費	二、〇〇
特別費（村議立會演說會費	一〇、〇〇
（國防獻金	六、九五
雜費	一一、〇〇
合計	二七一、九〇
差引殘金	五五

主なる事業

一、講演會講師

「現下の日本」　信濃大衆新聞社主筆　山田　阿水氏

「蔬菜栽培に就いて」　下伊那農學校教諭　岡　隆司氏

「未定」　皇國朗吟會支部長醫師　矢高　東氏

「未定」　社會教育家　木俣　哲二氏

一、村會議員改選候補者立會演說會開催

五月五日午後七時三〇分より　小學校講堂

村議改選に際し敢て有權者各位に訴ふ

拜呈、時下新綠薫風の候、各位愈々御清適の段奉賀候

陳者本村村議の改選も目睫の間に迫り、各位に於かれては申すまでも無く、特に深甚の考慮を以つて、待機し居られる事と拜察申上候

この時に當り我が伊賀良村青年會成年部一同、今次擧行せられたる總選擧の趨勢に鑑み敢て所信の一端を披瀝し、賢明なる各位の批判に訴へ以つて本村百年の大計樹立の爲嚴正公平なる權利の行使を、切望致すものに御座候

抑も選擧の肅正を高唱さるゝ原因が、奈邊にあるやと言ふ事は、已に各位の等しく諒知せらるゝ所にして、今更贅言を弄するの必要無之、即ち過去に於ける一部有權者の選擧に對する無自覺無反省と、この間に跳梁して飽くなき我慾を滿さんとする、社狐城鼠の徒輩の暗躍に依り、煙として顯現すべき有權者の總意も、情實利慾の妖雲に閉され、買收束縛の怪物、その毒爪を逞うして、一刻も之を放置せんか、將來如何なる事態を、惹起するや圖り難く、眞に憂ふべき有樣を醸成致せし爲と思惟仕候

扨翻つて、最近に於ける、選擧の狀態を考察せんか、玆數ケ年の間に相次いで起りし國家的大事件の刺戟は、世を擧げて再檢討時代を現出し一度時局に覺醒したる國民大衆は今や凡る社會事象を究明せんとするの意慾に燃え、立憲治下の大國民たる襟度、漸く高く過去を反省し、現在を是正し、以つて將來への進展を冀望するの動向は、大にしては、國家觀念の確立と共に政治常識の涵養に努め、小にしては、自治體の重要性を認識なし、そは澎湃たる愛村護郷の叫びとなりて現はれ、今こそ常に我等の念願とする選擧淨化の大理想も、あと半歩の域に達したるは、當然の歸結とは言へ、邦家の爲、大慶至極に存じ居候

然りと謂へ、今次の政變に依りて擧行せられたる、國會改選の事實に徴するに、過去に於けるが如き選擧特有の、白熱的興奮は何故か其の跡を絶ち、政戰と謂ふべく、あまりにも寂寥々として、恐らく此の儘の形勢を以つて進めば一部の人々の棄權はむしろ必然とも考へられ、誠に寒心に耐えぬものが有之候處、果して然り、本村に於ても相當數の棄權率を示し、今更乍ら隘若たるもの有之候

國民の興趣と賴依の心が、政治より逃避せる結果は、果して如何なる事態が生じ來るか、識者は正しく此の点に懸念致すべきものと存ぜられ候

今次の總選擧をして、斯くの如くあらしめたる因由に就きては、勿論先づ政府の責任が問はるべき筈には候へども國民も亦深く顧て自ら努むる所なかるべからずと愚考仕候

玆に於てか吾々は、斯く卑近なる實例の中に思を、來るべき五月七日、正に執行されんとする、本村村議改選に轉じたる時彼を以つて此を律するに其の結果憂慮に堪えず、即ち聲を大にして、惡質違反者の殲滅を誓ふと共に、理由なき權利放棄者の絶對防止に就きて、切に各位の三省を乞ふ次第に御座候

往古、天下の難治村として、あまねく世の憫笑を買ひし我が伊賀良村も、今や昔日の俤を偲ぶによしなく名實共に堂々たる模範村として八荒に君臨すべく、歩一歩、確實な

る歩調をその階程に進めつゝあるは、これ周知の事實にして、人の和に依りて生ずる偉大なる力の前に、我々は双手を擧げて、村の前途を祝福するものに御座候

嘗て來るべき、選擧執行の其の日各位の貴重なる一票の行使が、獨り其の人の當落のみならず、ひいては村の將來を左右するの、重要なる秘鍵である事を思ふとき、我々は衷心より、九鼎大呂よりも重き各位の責任に厚く、敬意を表すると共に仰ぎ願はくば、その嚴正公平なる審判の手に毛を以つて馬を相するの誤なからん事を、神掛けて御祈り申上候

昭和十二年五月一日　　敬白

伊賀良青年會

有權者各位

村會議員選擧に際會して

檄

展開された！　而して目睫の間に迫る！

吾が愛する伊賀良村の村議改選だ！

村會議員とは？……それは今更事新らしく論ずるまでも無い村の自治、村政の運行を擔當されるべき

吾々に最大密接なる關係を有する職名である村の將來如何は實に懸つて村會議員諸士の双肩にある。

されば村民各位の深き自覺の本に行はれるであろう選擧の當否は……

即ち村の榮枯盛衰を決定する分岐であり、秘鍵である！。

今回選ばるべき議員の使命は

伊賀良村經濟更生計畫の達成にある！

即ちより良き鄕土伊賀良村の創建にある！

本村經濟更生計畫漸く其の緒にツかんとする時これが完全なる遂行は村民一如の協力に依らねばならないのだ！

其の指導者たり推進力たる村會議員の

眞劍なる熱意と卓越せる手腕に俟つところ大なりと言ふも亦宜なるかなである。

吾等青年は純正なる境地に立脚して恒に高遠の理想に燃えよりよき鄕土建設への眞摯なそして不斷の努力を續けつゝある！

然るが故に我々は、今次の村議改選に際しては當然選ばるべき人吾々の代表として信頼し得る人の進んで立候補し、且つ議政壇上へ送らるゝ事を衷心より望んで已まないのだ

確固たる信念を持つ愛村の士よ　出でよ！

果斷實行穩健中正の人格者を選べ！吾人には　吾人の持つ愛村の熱意を

直接實体として表現し得る權利が無い。

さればとてこの熱情の迸ばしるところ、拱手傍觀するに不堪敢て村民各位に檄す！

有權者各位

伊賀良村の興廢はこの選擧にあり……各位奮つて公正なる權利の行使に努めよ！

汚れた一票の投ぜられるところ再び暗黑の紊亂修羅道に歸る！

天地神明に愧ぢない淸き一票の輝くところ、住み良き明るき鄕土が生れ我等が待望する理想鄕の黎明が來るのだ！

候補者諸士よ――

言論に依つて鬪い文書に依つて勝て！正々堂々の聖戰に、神明の加護は必然的なものだ。

さらば村民各位　明朗なれ！　最後まで。

昭和十二年五月一日

伊賀良村青年會研究部

第十九年度（昭和十三年度）

役員

會長　清水正雄

副會長　平田武司

會計　木下喜内

書記　矢澤順治（九月辭任）岩崎允
加藤典男（九月就任）

旗手　木下勝義

理事

教育部　橋部敏夫　　研究部　長谷川孝平（九月辭任）
木下尹夫（後任）

圖書部　清水正三　　体育部　久保田善一

勸業部　木下象一　　編算部　矢澤順治（九月辭任）
岩崎允（後任）

下伊那郡青年中央部支會役員

常任委員　清水正雄（教育部長）平田武司（常任委員長）
橋部敏夫

代議員　久保田藤一　清水正三　長谷川孝平

各支部長

第一支部長　矢澤順治

第二〃　米山福一（三月辭任）五島春男（後任）

第三〃　木下象一　第四支部長　木下尹夫

第五〃　久保田善一　第六〃　長谷川孝平

昭和十三年度決算報告

收入の部

前年度繰越金	三五、〇六
會員負擔金	八〇、〇〇
村補助金	二二〇、〇〇
基本金利子使用	一一〇、〇〇
雜收入	一九、七〇
合計	四六四、七六

支出の部

總會費	一一、〇〇
教育部費	三四、五四
研究部費	二、四八
圖書部費	二八、八〇
休育部費	八八、四〇
那青負擔金	三六、三四
事務所費	三六、一八
會議費	三一、六七
雜費	七一、五七
小使手當	二、〇〇
基本金利子返還	一一〇、〇〇
合計	四五二、九八
差引殘金	一一、七八

主なる事業

一、出征家族慰安演藝大會　一二月三日夜
プログラムは詩吟、獨唱、合唱、遊戯、舞踊、劍舞、劇浪曲、漫談、萬歳、合奏等六十種目の多きに亘り觀衆は講堂にあふれ空前の盛況を呈す

一、詩吟講習會　三月十四、五日二日間
講師　下伊那興國朗吟會長　小林八十吉氏

一、講演會講師
「時局と青年の立場」
三中等學校配屬將校　中佐　楠山英太郎氏
「時局の觀念、集會動作」
飯中教師　長澤茂久太氏
「資源開發に就いて」
地質鑛物學家　横山　忠氏
「忘れ得ぬ人々」
社會教育家　木俣　哲治氏
「野戰より歸りて」
山吹村　小平　覺眞氏

一、伊賀良村報の發行に際し青年會に於て之が編輯の任に當る

一、四月十日野球大會に端を發し青年會に一大不詳事態發生したるも十一月二十四日に至り解決を見たり（之に對する記錄抹消す）

第二十年度（昭和十四年度）

役員

團長　木下喜内

副團長　長谷川孝平
會計　熊谷源三
書記　加藤典男、古田利夫
旗手　神部稻男、矢澤多喜雄

理事
教育部　小池　貢　休育部　木下　正實
研究部　肥後　市郎　圖書部　久保田清吾
勸業部　木下　勝義　編集部　加藤　典男
途中變更後任
教育部　矢澤　建男（十一月）
那青中央部支會役員
常任委員　木下喜内（教育部長）長谷川孝平
代議員
木下正實　肥後市郎　久保田清吾　小池　貢

各支部長
第一支部長　矢澤　修　第二支部長　米山　榮三
第三〃　木下　正實　第四〃　小池　貢
第五〃　久保田清吾　第六〃　肥後　市郎

本年度會計決算報告

收入の部

一、前年度繰越金	一一、七八
一、補助金	三〇〇、〇〇
一、基本金利子流用	九〇、〇〇
一、雜收入	四八、三三
一、賦課金	七三、五〇
合計金	五二三、六一

支出の部

一、總會費	二〇、七五
一、會議費	二〇、五六
一、教育部費	四三、八〇
一、休育部費	六一、六二
一、圖書部費	三八、八四
一、勸業部費	四、五〇
一、編集部費	三五、〇〇
一、事務所費	二八、〇七
一、專變費	六、〇〇
一、中央聯青負擔金	四〇、五〇
一、村報編輯費	一五、九八
一、雜費	六六、三二
一、基本金利子拂込	九〇、〇〇
合計金	四七三、九四
收入總額	五二三、六一
支出總額	四七三、九四
差引殘額	四九、六七

◎特別會計　團旗作製のため基本金より一〇七圓流用す、之を地主より寄附を受け充當す（現金交付は翌年度）

伊賀良村女子青年團史

主なる事業

一、勤勞奉仕隊結成
縣知事富田健次閣下の「大義」に大書せるを戴いて結成式が擧行された

宣言文

我等青年會ハ茲ニ伊賀良村青年勤勞奉仕隊ヲ結成シ愛鄕愛國ノ至誠ヲ昂揚、治山治水ノ公益的且生産的事業ニ盡シ國土培養皇運扶翼ノ爲ニ一致協力其ノ實踐運動ニ邁進セン事ヲ期ス

昭和十四年七月七日

伊賀良村青年會

一、伊賀良村青年會を伊賀良村青年團と改名す　十月八日
一、新團旗作成　十二月二十五日之が披露式を擧行す
一、體力章檢定會　本年度より實施さる
初級四五名　中級五名を出したり
一、郡青中央部陸上競技大會に優勝す
一、「慰安の夕」開催昨年度同樣大盛會
一、雄辯大會を開催す　三月二十二日
一、講演會と講師
「非常時下に於ける青年の任務」　羽生　三七氏
「世界の情勢と日ソ問題」　讀賣新聞記者　北原　清市氏
「青年の教成」　山吹村　小平　覺眞氏
「戰時下の家畜經營」　下伊那農學校教諭　飯島　武男氏

伊賀良村女子青年團十九年概況

大正十一年度
創立發會式を擧ぐ　二月十九日
會則制定
會　長　矢澤　うめ

大正十二年度
會　長　木下　とく
會則修正
ジャガ芋料理講習、眞綿講習、編物講習會

大正十三年度
會　長　木下　とく
伊賀良小學校新校舍全燒により女子青年全員出席『おむすびにぎり』のお手傳ひをす
作法講習會、染物講習會

大正十四年度
會　長　市岡さちゑ

大正十五年度
會　長　矢澤みよし
お菓子講習會、作法講習會

昭和二年度
會　長　矢澤　靜子
生花講習會、染物講會習、ミシン及機械編講習會

昭和三年度
會　長　三浦　しげ
造花講習會、眞綿講習會、フランス食パン講習會
漬物講習會

昭和四年度
會　長　久保田さわ
農家婦女子講習會、敬老會開催、各種團体聯合体育大會參加

昭和五年度
會　長　古澤　節
マッサージ講習、青年團令旨奉戴十週年式

昭和六年度
會　長　五島　美行
創立十週年記念史發行並びに祝賀會開催、染色講習會

昭和七年度
會　長　五島　美行
作法講習會、染色講習會、畫食會

伊賀良村女子青年團史

上海事變出征兵歡送始む
開校祝賀會に就き全會員お手傳ひす

昭和八年度
會　長　熊谷たつみ
　　木下　壬子　四月變任
部門制度となる
眞綿講習會、家庭バン講習會

昭和九年度
會　長　片山ふみを
會旗製作並に披露式擧行、御親閲拜受非常召集擧行
會報青年會と合同發行
家庭マッサージ講習會、染色講習會、毛羽糸講習會、
三國染講習會

昭和十年度
會　長　市瀬　喜代
男女青年會提携す
團服制定
婦女子講習會、編物講習會、作法講習會、兎毛縫合せ
講習會

昭和十一年度
會　長　矢澤　タツ
創立十五週年記念祝賀會開催
團章制作
壯丁者祝賀會開催、男女合同研究會參加御國染講習

昭和十二年度
會　長　矢澤　節
託兒所開設につきお手傳ひ致す事に決定
駒ケ根へキャンプ
作法講習會、綿さき及加工講習會

昭和十三年度
會　長　小池　久子
正副會長を新舊幹事にて選擧致す事に定む
優良村視察行ふ
茶飲茶碗三百箇購入、榮養バン講習會

昭和十四年度
團　長　原　いく
伊賀良村女子青年團と改名
團則變更
本村出征兵士寫眞慰問
勞働奉仕、本箱購入
御國染ベンテックス講習、マッサージ講習

昭和十五年度
團　長　矢澤　コウ
修養會結成(女子訓練)、宿泊訓練開催
本村出身者少年義勇軍寫眞慰問
勞働奉仕、節米榮養料理講習會

昭和十五年團報（二十一年度）

第二十一年度（昭和十五年度）

綱領

（昭和十五年事業方針）

我等青年團員ハ大日本青年ノ自覺ニ立脚シ愈々團結ヲ鞏固ニシ實踐躬行歴史的聖業達成ニ邁進シ誓ツテ令旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

昭和十五年度伊賀良村青年團組織

一、團　長　古田　利夫
一、副團長　仲田　史朗
一、會　計　神部　稻男
一、書　記　副團長、編纂部理事
一、族　手　矢澤　巖　副族手　矢澤多喜男
○各部理事
一、教育部理事　矢澤　修　副理事　奥田　宗平
一、團誉部理事　伊藤　衆男　副理事　矢澤　巖
一、体育部理事（熊谷八郎）田口　敬一　副理事　米山　榮三
（移民のため熊谷八郎辭任に就き拓殖部理事田口敬一四月二十七日後任となる）
一、勤業部理事（清水正士）・新井　春美　仝副理事　新井　春美
（應召のため清水正士辭任に就き新井春美六月二十五日後任となる）
一、拓殖部理事（田口敬一）熊谷　陽　仝副理事　椎名　執・
（田口敬一体育部理事になりたるため熊谷陽四月二十七日後任となる）
一、編纂部理事　市瀬　一男　仝副理事　中上　条男

各支部十五年度村青役員

（○は支部長　△は副支部長）

第一支部　○伊藤　衆男　△矢澤　修　矢澤多喜男
第二支部　○米山　榮蔵　△矢澤　茂雄　永見　三郎
第三支部　○神部　稻男　△矢澤　巖　新井　春美
松澤　秀雄　鈴木　計男
第四支部　○市瀬　一男　△奥田　宗平　中上　条男
椎名　執　居山　政笑
第五支部　○田口　敬一　△古田　利夫　清水　正士
第六支部　○仲田　史朗　△（熊谷八郎）熊谷　陽　移民
熊谷　實雄　仲田　治男

一、郡青代議員並中央部常任委員
古田利夫（副委員長）仲田史朗（体育部副部長）
中央部代議員
矢澤　修、田口敬一、神部稻男、清水正士

昭和十五年度月別事業計畫

一　月　○四方拜式參列　○新年總會　○講演會　○圖書購入及貸出開始　○寒稽古
二　月　○紀元節式參列　○武道大會　○研究會　○勸業講習會　○出征軍人慰問狀發送
三　月　○中聯青武道大會參加　○拓殖講演並研究會　○各支部特殊事業發表並研究會　○教育方面視察
四　月　○天長節式參列　○野球大會　○中聯青野球大會參加
五月、六月　農繁期に就き事業休
七　月　○登山
八　月　○夏期總會　○講演會　○慰問狀發送
九　月　農繁期に就き休
十　月　○秋季運動會　○勸業方面視察　○中聯青陸上競技大會參加並運動練習
十一月　○明治節式參列　○体育デー參加　○拓殖講演會並研究會　○農藝品評會　○軍人家族慰安會
十二月　○令旨奉讀式　○年末總會　○講演會　○圖報發行　○圖書貸出閉止
其　他　○軍人入隊除歡送迎　○非常召集　○適齢壯丁者祝賀會　○勤勞奉仕
◎特殊事業
伊賀良圖書館設立
團史發行　廢品同收

昭和十五年度伊賀良村青年團歳入出豫算

一金五百七圓也　歳入豫算高
一金五百七圓也　歳出豫算高
差引殘なし

内譯

歳入之部

第一款賦課金　金七拾六圓也
①會員賦課金　金七拾六圓也
第二款補助金　金四百圓也
①村補助金　金四百圓也
第三款繰越金　金拾壹圓也
①前年度繰越金　金拾壹圓也

第四款雜收入　金貳拾圓也
①雜收入　金貳拾圓也
合計　金五百七圓也

歳出之部

第一款會費　金參拾圓也
①總會費　金參拾圓也
第二款教育部費　金九拾五圓也
①講演會費　金四拾圓也
②講習會費　金參拾圓也
③研究部費　金貳拾五圓也
第三款拓殖部費　金參拾圓也
①拓殖研究調査費　金參拾圓也
第四款圖書部費　金七拾圓也
①圖書購入費　金六拾圓也
②圖書修繕費　金拾圓也
第五款体育部費　金六拾五圓也
①運動會費　金四拾圓也
②運動器具費　金貳拾五圓也
第六款勸業部費　金五拾圓也
①講演會費　金參拾五圓也
②品評會費　金拾五圓也
第七款編纂部費　金五拾圓也
①團報發行費　金五拾圓也
第八款郡青部費　金五拾圓也
①郡青負擔金　金五拾圓也
第九款事務所費　金四拾圓也
①消耗品費　金貳拾圓也
②通信費　金貳拾圓也
第十款會議費　金貳拾圓也
第十一款手當費　金參圓也
①小使手當　金參圓也
第十二款雜費　金四圓也
①雜費　金四圓也
合計　金五百七圓也

昭和十五年度會計決算報告

收入之部

一、前年度繰越金　四九圓六七錢
二、補助金　三一〇、〇〇
三、基本金使用　一〇〇、〇〇
四、賦課金　七六、〇〇
五、雜收入　七九、九六
合計金　六一五、六三

支出之部

一、總會費　一〇圓一一錢

二、會議費	一八、三四
三、教育部費	八、二〇
四、休育部費	八四、一八
五、圖書部費	三八、七四
六、勸業部費	七五、七七
七、編集部費	四〇、〇〇
八、事務所費	二四、三九
九、事變費	五、二五
一〇、中央部聯青負擔金	四〇、七二
一一、村報編輯費	四、三〇
一二、雜費	三九、三九
一三、小使手當	三、〇〇
一四、基本金使用拂込	一〇〇、〇〇
合計金	四九二、三九
收入總額	六一五、六三
支出總額	四九二、三九
差引殘金	一二三、二四

（團史團報發行費（支出））

昭和十五年青年團事業概要

一月一日　四方拜賀式參列
四日　第一回理事支部長會
九日　第一回評議員會
十三日　圖書購入
十五日　講演會並新年總會
十七日　男女幹部懇談會並第二回評議員會
十九日　第一回支部長會
二十五日　第二回理事支部長會並村報編輯會
二月十一日　紀元節式參列、武道大會
十五日　武道大會賞品授與式、男女提携研究會
二十二日　圖書館建設委員會
二十五日　村報編輯會
二十七日　圖書館建設委員會
三月九日　劍道大會、第三回評議員會
十二日　劍道練習開始
十六日　劍道練習終了
十七日　中央部郡青劍道大會參加
廿六日　第三回理事支部長、村報編輯會
四月十五日　講演會
十六日　青年學校青年團懇談會
十九日　適齢徴兵檢査壯丁祝賀會
廿一日　郡青團員大會參加
廿五日　第四回理事支部長會、村報編輯會
廿七日　第四回評議員會、懇談會
廿九日　天長節式參列、野球大會

五月十八日より廿七日まで奉公供米運動協力
六月廿五日　第五回評議員會
七月七日　北部動員大會參加
八日　第五回理事支部長會
十日　聖旨奉答宣誓式並紀元二千六百年令旨奉戴二十週年奉祝動員大會
七月二十日　第五回評議員會
八月十五日　講演會、夏季總會
九月三日　第六回評議員會
廿二日　第七回評議員會
廿八日より三日間第一回太平牧場改良實施勤勞奉仕運動
十月三日　圖書館建設委員會、第八回評議員會
五日　圖書館敷地々鎮祭
七日より三日間第二回太平牧場改良實施勤勞奉仕運動
十一日　第九回評議員會
十五日　秋季大運動會
十八日　休育デー打合會參加
十九日　休育協議會
二十五日　第十回評議員會
二十七日　中央部郡青陸上競技大會參加
十一月三日　明治節式參列、各種團体聯合休育會參加
十日　紀元二千六百年奉祝式參列及旗行列參加
休力檢定會實施打合會
十二日　郡青陸上競技大會選手出場
十五日　第十一回評議員會
廿三日　體力章檢定會
廿四日　第六回理事支部長會
二十九日より十二月一日迄の三日間農藝品評會
十二月八日　懇談會、第十二回評議員會
十九日　第十三回評議員會
廿二日　村葬參列
廿三日　講演會、年末總會

昭和十六年度

一月一日　四方拜賀式參列
六日　第十四回評議員會
廿一日より八日間圖書分類及整理
二月六日　第十五回評議員會
廿日　青少年團結成懇談會
三月二日　圖書館建設委員會並第十四回評議員會
九日　青少年團審議會
十六日　圖書館開館式、解團式
新青少年團結成式
◎毎月興亞奉公日には村内一般より廢品の回收をなす

身を挺して愛國運動、青年團のボロ集め
廢品回收運動實施に當りて

聖戰第四年を迎へ、內外共多事多難と相成りました。即ち外に於ては對英米、對ソ其の他の外交狀態に見る如く國民に寒心を抱かしめ、歐洲動亂は複雜怪奇にして微妙に我國に反應し、東亞建設戰は蔣介石政權の意外の抗戰力の强さ、新政權誕生の遲さ、其の原因は？　以上の樣に素人の概觀でも對外問題の極めて重大なるを感じ緊褌一番奮起すべきの覺悟を持つのである。

對內問題は物資、思想各方面に亘り皆樣の御承知の通りの窮迫した重大さを持つてゐる。

紀元二千六百年、私共は此の狀態を拱手傍觀してゐてはならないと思ふ。どんな小さな事でも無駄なく國の爲に總力を盡さねばならない。節米運動、廢品回收運動、等々、二千六百年紀念事業はよいか!!

重要物資の廢品回收は政府に於ても强調されてゐます。私共は廢物を出すことによつて、之が集まれば驚く程大きな物資となり、大きな國家資源の開發となるのです。「塵も積つて山となる」小さいながら重要な愛國運動だと思ひます。

今年度男女青年團ではこの運動に積極的に協力し、毎月一日の興亞奉公日を期して全村一齊に廢品を蒐集することになりました。販賣寄附いづれでもよろしうございます。寄附のものは青年團で積立て、村營圖書館建設の基金に致すことになつてゐます。村民各位の御協力を紙上を通じてお願ひします。（昭和十六年一月二十五日村報掲載）

庶務報告

●第一回理事支部長會
○一月四日午後七時より役場に於て
○協議事項
一、本年度事業方針原案の件
一、本年度事業豫定原案の件
一、本年度會計豫算原案の件
一、本年度村報編輯組織の件
一、本年度各支部負擔金の件
一、本年度各支部々員通知の件
一、一月の行事の件　其の他
●第一回評議員會
○一月九日午后八時より役場に於て
○評議事項
一、第一回理事支部長會提出協議事項
○右原案通り決定す
●新年總會
○一月十五日午后三時より伊賀良部小學校北館に於て開

演會終了直後開催
○出席人員　約三十名
○會次第
一、宮城並伊勢神宮遙拜
一、皇軍將士並英靈に對し感謝默禱
一、國歌齊唱
一、令旨並秩父宮殿下御言葉奉讀
一、開會之辭
一、本年度事業方針會計豫算及事業豫定承認
一、各部理事抱負並團員意見發表
一、茶話會
一、閉會之辭
一、團歌合唱並に萬歲三唱　以上
○皇紀二千六百年の佳歲を聖戰第四年に迎へ國体の尊嚴と皇國に生を享けし感謝とを一層と感じ以て洋々たる戰時下の新春を壽ぎ奉ると同時に愈々團結を鞏固にし初期目的完遂を期す
●男女青幹部懇談會
○一月十七日午后八時より役場に於て
○懇談事項
一、本年度提携事業の計畫に就て
一、圖書館建設特殊事業に就て
一、其の他
●第二回評議員會
○一月十七日午後九時半男女幹部懇談會終了直後同會場に於て開催す
○協議事項
一、木炭增產報國運動實施に　する件
●木炭增產報國運動趣旨
聖戰既ニ四歲ヲ迎ヘ皇威四海ニ赫々タリ、然リト雖モ內外多事多難長期建設ニ備ヘルニ更ニ之ヲ克服スベキハ我等國民ノ使命タリ、物質窮迫ヲ告ゲル折柄木炭不足モ其ノ大ナルモノナリ、木炭ハ石油ニ代用サレ石炭ニ代用サレ然モ同胞ノ一日モ缺クベカラザル必需品タリ、之ガ現狀ヲ見テ農林省文部省及大日本青年團ニ於テ之ガ增產報國運動實施ヲ計劃セリ、斯クシテ本村ニモ之ガ增產數量ボヤ炭一、九五〇貫割當ラレタリ
本團ニ於テモ之ヲ仔細ニ檢討ノ結果現在ノ我國民ヲ蝕ミツヽアル恐ルベキ個人主義ニ基ク唯物思想ヲ一掃シ体位ノ向上ヲ圖リ團体觀念ヲ鞏固ニシ百ノ言論ヲ一ツノ實行ニ移スベキ修養團体タル我等青年團ノ主旨ニ合致シ然モ不足ヲ告グル物資ノ增產ニ依リ國策ニ順應出來得ルハ我等青年團員ノ欣快トスル處率先シテ實施スベキナリ
今ヤ思想一變ノ時代ノ鐘ヲ鳴ラシ得ルハ我等若人無上ノ光榮ニシテ若キ血潮ハ躍動セン斯クシテ本伊賀良青年團ノ方針タル聖業速成邁進ニ合致スルコトナルベシ

○現下木炭不足の折柄に少しなりとも製炭し以て產業報國の一端とせん、具体案として製炭場所を笠松四區入會山とし施行月日を一月廿三、廿四兩日に定め增產報國隊團休訓練を旨として實施す

●第一回支部長會

○一月十九日午后七時より役場に於て

○木炭增產報國運動實施に付き動員令作成配布する迄に準備なりたるも不時の降雪のため實施不可能を余儀なくされ對處の果一時延期する樣決定

●村報編輯委員會

○一月二十五日午后七時より役場に於て

○印刷人池田氏を招き編輯上の事項に關し懇談研究す尙最初の編輯會に於て種々研究の上編纂す

●第二回理事支部長會

○一月二十五日村報編輯會に引續き開催

○二月行事（武道大會、研究會、勤業講習會、慰問狀發送等其他）に關し協議す

●第三回評議員會

○三月九日午后三時より役場に於て開催

○協議事項

一、中央部郡青劍道大會選出選手詮衡の件

一、拓植講演研究會開催の件

一、三月、四月野球大會、特殊事業發表研究會の行事に就いて

一、圖書館建設經過報告

○拓植講演會の件に關しては移民團先驅者今村清氏を講師として招き三月十八日夜講演研究會を開催す樣決す尙行事野球大會擧行は四月二十九日天長佳節當日と內定す

●第三回理事支部長會

○三月廿六日午後七時より役場に於て開催

○協議事項

一、青年團と青年學校と懇談會の件

一、本年度壯丁祝賀會開催の件

一、野球大會開催の件

●青年學校青年團懇談會

○四月十六日午后七時半より伊賀良部小學校に於て

○出席者　松島青年學校長、櫛原、片山兩青校事任教師、長谷川、木下兩指導員

男女青年團幹部　十數名

○懇談事項

一、青年團と青年學校との提携に關する件

一、圖書館建設に關する件

○青年團と青年學校とは不離一体性を必要とする折柄充分兩者互に連絡をとり青年教育に對して萬遺憾なきを期す、尙青年學校側の希望としては生徒の出席督勵、

青年團事業の祭休日開催、農閑期青年の出稼中止等に關して助力して貰ひ度い。又本團希望として青校生徒が青年團事業に出席したる時は學校出席として取扱つて貰ひ度い。其他青年團事業を學校の教育科目として取扱ひ先生は卒先的に青年團へ出席して貰ひ度い

●壯丁者祝賀會

○四月十九日午后五時より伊賀良部小學校北館に於て男女青提携の開催す

○會　次　第

一、宮城遙拜

一、開會之辭　古田團長

一、祝　辭　松島小學校長、宮下軍人分會長

一、壯丁者答辭　代表者

一、兵事諸注意　兵事係

一、晩餐會並茶話會

一、自己紹介

一、校歌合唱並萬歲三唱

一、閉會之辭　副會長

○日本男兒の名譽の光榮を擔ひつゝ戰時下に本日無事優秀なる成績を以て受檢された壯丁健兒九十五名が我等の心からなる聊かの慰待に嬉びつゝ女青獻立の晩餐に舌鼓を打つ、彼等の潑剌として希望に滿ちた姿こそ青年日本の姿なのだ、重且大なる責任を自覺しつゝ遂々たる人生路のスタートに立つ彼等は頼母し

●第四回理事支部長會並村報編輯會

○四月廿五日午后八時より役場に於て

○協議事項

一、村青野球大會の件

一、休育部理事後任の件

一、圖書館建設に關し片山氏と懇談の件

一、滿洲勤勞奉仕隊員派遣の件

一、村報編輯

●第四回評議員會並懇談會

○四月廿七午后九時より役場に於て

○協議事項

一、休育部及拓植部理事後任の件

一、片山氏と懇談會（圖書館設立の件）

○選擧により休育部理事として現拓殖部理事田口敬一、拓殖部理事として熊谷陽夫々當選し即日就任す

○懇談會（圖書館經過報告）

●第五回評議員會

○六月廿五日午后九時より役場に於て

○協議事項

一、勤業部理事後任の件

一、七月行事（登山）の件

一、貯蓄奬勵の件

一、勅員大會の件　（聖旨奉答宣誓式、紀元二千六百年令旨奉戴二十週年奉祝）

○勅業理事清水正士應召の爲め副理事新井春美後任となる、尙登山の件に關しては中止貯蓄は夫々各支部適宜貯金をなす

○勅員大會の具体案は理事支部長會にて樹立

●第五回理事支部長會

○七月八日午后八時役場に於て開催

○協議事項

一、勅員令作成配布の件

二、勅員大會宣言決議作成の件

○七月十日午前四時團員、靑校生徒勅員村名譽職員其他村内官公吏臨席の上擧行

●聖旨奉答宣誓式並紀元二千六百年及令旨奉戴二十週年奉祝勅員大會

○七月十日午前四時伊賀良小學校庭に於て開催す

○式次第

一、集合点呼　田口体育部長

一、開式之辭　仲田副團長

一、皇太神宮並宮城遙拜

一、默禱

一、君ヶ代齊唱

一、詔書奉讀　松島校長

一、令旨奉讀　古田團長

一、秩父宮殿下御言葉奉讀　古田團長

一、大日本靑少年團綱領唱和

一、奉戴の辭　古田團長

一、北部勅員大會出席報告　神部稻男

一、宣言、決議

一、來賓祝辭

一、愛國行進曲合唱並萬歲三唱

一、閉式之辭　仲田副團長

○趣旨

支那事變既ニ四歲聖戰目的完遂ノ決意愈ゝ固クスルテ要スル秋、玆ニ紀元二千六百年ノ盛時ニ際會シ加フルニ長クモ令旨奉戴二十週年ヲ迎フ、此ノ光輝アル年、紀元ノ佳節ニ當リ大日本靑年團ニ特別ノ思召ヲ以テ多額ノ御下賜金ヲ戴致セルハ寔ニ恐懼感激ニ堪ヘズ我年靑年ハ愈ゝ大日本靑年ノ自覺ニ立脚シ自奮自勵此ノ感激ヲ以テ興亞靑年道ニ邁進シ誓ツテ聖旨ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

○奉戴之辭

昭和十五年二月十一日紀元ノ佳晨ニ方リ長クモ特別ノ思召ヲ以テ大日本靑年團ニ金壹封御下賜アラセラル、聖慮優渥詢ニ恐懼感激ニ堪ヘズ、玆ニ大日本靑年團ニ於テハ紀元二千六百年紀元節ニ賜ハリタル詔書並ニ奉

ニ賜ハリタル令旨ヲ謹書シ複寫ノ上全國靑年團ニ頒布シ聖旨ノ存スルトコロ普ク全國靑年團ニ傳フ

我等靑年ハ聖旨ヲ奉ジ此ノ感激ヲ以テ生活ヲ刷新シ苦難ニ打克チ興亞ノ礎石タランコトヲ宣誓ス

昭和十五年七月十日

○宣言文

事變ハ深刻ナル長期持久戰ノ段階ニ進ミ世局ハ益ゝ複雜多端ニシテ皇戰目的貫徹ノ前途容易ニ樂觀ヲ許サヾルモノアリ、是ニ於テカ不勅ノ國是ニ則リ速カニ國民總力体制ノ整備擴充ニ向ツテ敢然直往セザルベカラズ然ルニ現下ノ國内秩序ヲ徹見スルニ道義ノ頽廢ニシテ之ヲ匡救セズムバ眞ニ憂慮ニ堪ヘザルモノアリ

吾等靑年ノ負荷愈ゝ重キヲ加フ、吾等ハ今コソ皇國民ノ眞髓ヲ發揮スベキ天與ノ好機ナルヲ自覺シ相率キテ短ヲ矯メ長ヲ養ヒ以テ皇國靑年興亞靑年道ヲ確立シ進ンデ國民精神總勅員ノ中核タル大任ヲ果サントス

時正ニ紀元二千六百年、令旨奉戴二十週年ヲ迎ヘ紀元ノ佳節ニ當リ長クモ多額ノ御内帑金ヲ拜戴致セルハ恐懼感激ニ堪ヘズ、是ニ非常ノ並局ニ處スル靑年團ノ歷史的使命ヲ確認シ令旨ヲ奉戴シ綱領ニ則リ自奮自勵國威昂揚ニ勗メ以テ聖慮ニ副ヒ奉ランコトヲ期ス

右宣言ス

昭和十五年七月十日

伊賀良靑年團聖旨奉答宣誓式並紀元二千六百年令旨奉戴二十週年奉祝勅員大會

○決議

一、文書修養ノ重要性ニ鑑ミ圖書館ノ急速ナル設立ニ向ツテ万難ヲ排シテ猛進セン

一、聖戰下銃後ノ挺身勢力タル靑年團、靑年學校打ツテ一丸トナリ人的不足ヲ補足シテ銃後ノ完璧ニ邁進ス

一、長期建設ノ聖戰ニ備ヘ國防第二陣ノ强化ヲ圖ルタメ靑年學校ノ振興靑年團ノ諸訓練ノ徹底向上ヲ期ス

一、國民精神總勅員ノ挺身隊トシテ自奮淬勵興亞靑年道ヲ實踐シ以テ輿論ヲ喚起シ鄕土ノ諸懸案解決ト村百年ノ大計ニ向ヒ邁進センコトヲ期ス

右決議ス

昭和十五年七月十日

伊賀良靑年團勅員大會

○概況

未明午前四時團員一同團服、ゲートル着用各支部長引卒の下に整然たる隊伍を以て團旗を先頭に肅然と會場に臨む、整列人員點呼終り直に開式す

參集するもの男女靑年團員、靑年學校生徒三百有余名午前四時半國歌齊唱と共に東天高く國旗揚揚漸次式次第に依り進行す

吾等の意氣天を衝き天皇陛下に歸一し奉り無二無三邁進しなければならない日本青年の否日本國の行くべき道をはつきり自覺し超非常時局乘切りの覺悟を再確認したのである

午前五時半聖壽の萬歳三唱と共に緊張裡に無事盛大に終了す、來賓參列者多數あり

⊠北部動員大會記

●第五回評議員會

○七月廿日午后九時より役場に於て開催

○協議事項

一、前半期事業報告の件

一、前半期會計報告の件

一、夏期總會並講演會の件

○夏期總會は八月十五日午后一時とし講演會、講師は松江大元氏と決し此が準備は教育部一任とす

●紀元二千六百年令旨奉戴二十周年

大日本青年團北部動員大會記

趣旨

支那事變既ニ四歳、聖戰目的完遂ノ決意愈〻固クスルヲ要スル秋故ニ紀元二千六百年ノ盛時ニ際會シ加フルニ長クモ令旨奉戴二十周年ヲ迎フ、コノ千載一遇ノ佳年ヲ奉祝ニ併セテ我ガ國青年團ノ劃期的ナル飛躍ヲ完成センタメ大日本青年團北部動員大會ヲ開催シ嚴肅ナル諸行事ヲ通ジテ雄深ナル肇國精神ヲ昂揚シ大陸發展ノ氣魄ヲ旺盛ナラシメ興亞青年道ニ邁往センコトヲ誓フト共ニ戰時下ニ於ケル青年團体制ニ新シキ秩序ヲ與ヘ眞ニ國家ノ負擔ニ堪ヘ得ル全國一体ノ青年組織ノ確立ヲ期ス

右趣旨に基きまして大日本青年團北部動員大會が長くも三笠宮殿下の台臨を仰ぎ肇國の神天照大御神の御曾孫天香山命（又の御名高倉下命）鎭座します國幣中社彌彦神社に程近い新潟市に於て開催されました。私共代表は七月五日午前四時五十二分飯田驛發電車にて松本に向ひ、天守閣前廣場に於て南信代表に依る長野中隊第二集團を編成、午后一時五十六分發北信第一集團集合地長野市城山へと向ひました。午后五時長野着、直に第一二集團合して大會に於ける第一大隊第十中隊の編成を終り整列、分列、大日本青年体操等の豫行をなし縣立圖書館にて聖恩族奉戴式擧行、學務部長、縣青幹事長等挨拶あり長野驛に行進、午后九時發臨時列車にて愈〻大會地新潟に向つたのであります。

明くれば六日、午前五時列車は新潟に到着、私共は驛前に堂々と第一歩を印したのであります。それより宿舍宮浦小學校に着、午前中は大會への準備其の他注意等、午后七時より愈〻大會第一日青年の夕べに入りました。

宮城遙拜、國家齊唱等の後新潟縣知事、栗原大日本青年團常任理事等の講演、餘興等に樂しみ午后十一時頃の大會を明日にひかへて充分な眠をとるべく床に就きました

午前四時起床、今日こそ歴史的大會の當日であります朝食を終り準備を整へ光榮と緊張の裡に張切つた長野縣代表は、全國に燦たる自主的青年團の眞面目を充分に發揮し鄕土團員諸君の期待に添ふべく決意と覺悟を以て大會場へ向ひました。北部十三道府縣の團員代表一萬三千は信濃川の畔、新潟市綜合運動場に整列、三笠宮殿下の御來臨を御待ち申して居りました。午后一時サイレンの音も空高く　畏くも殿下には御自動車にてお成り遊ばされ、私共は感激に胸せまる思ひで聖恩族を先頭に海軍々樂隊の演奏の下に第一大隊第一中隊より台上に御起立の殿下の御前を緊張の中にも元氣一杯歩武堂々と分列行進を行ひました。　畏くも殿下には嚴肅に御擧手を以て答禮遊ばされ唯々光榮身に餘り胸がつまるばかりで御座居ました。又殿下には陸軍大學御在學中にて御多忙中の御身を以て車中に御一泊なされ御歸京の際も夜行と承はり少しの憩ふ間もなく御過しの由、大會二時間終始御熱心に御親閲あらせられまして此の御姿を拜しまして恐懼感激戰時下青年團体制に新秩序を與へて興亞青年道に邁進し御厚恩に報ひ奉らんことを誓つたのであります。

分列行進を終り式典に入り、宮城、皇大神宮、橿原神宮の遙拜默禱、有馬團長の詔書令旨御言葉奉讀、詔書並に令旨傳達、青年團綱領唱和、團長告辭、各大臣の式辭、訓辭、祝電等滿洲國協和會青少年團代表挨拶、天機並に御機嫌奉伺、宣言、決議、皇軍慰問決議等。

終つて天地に轟けとばかり力强い感激に滿ち溢れた萬歳に閉會式を終り、殿下には御退場、市中行進、武道大會休憩後表會に入りました。長野縣武道大會代表者は劍道優勝、柔道銃劍道は共に優勝戰に於て惜敗と云つた極めて好成績を以て終り、又分列行進に於ても非常な元氣にて青年らしく大會隨一であつたとの御言葉を戴き私共は遺憾なく信州健兒の眞面目を發揮し得たものと感涙にむせんだのであります。大會閉會を宣する時正に正六時此の光榮に緊張し切つた私共は生涯忘れることの出來ない感激を胸に抱いて全國三百萬青年團員一心團結、不動の新青年道の確立を誓つたものであります。（神部昭男）

●夏季總會

○八月十五日午后三時伊賀良部小學校北館に於て開催

○會次第

一、開會之辭

一、宮城遙拜

一、默禱

一、國歌齊唱

一、令旨奉讀並秩父宮殿下御言葉奉讀

一、團　長　挨　拶
一、前半期事業會計報告
一、團員意見發表
一、茶　　話　　會
一、團　歌　合　唱
一、閉　會　之　辭

○部門變更の件　今年新設の拓殖部なるものが唯有名無實にして本團に適合せず依つて全團員の總意の下に拓殖部を廢して社會部を新設し以て社會並文化事業に對し可及的貢獻せんとす

●第六回評議員會
○九月三日午后八時半より役場に於て開催
○協議事項
一、圖書館建設（敷地跡石材處分、敷地々均）の件
一、大平牧場改良に關する件
一、青年團組織擴充强化問題に關する件
○前項青年團問題に關しては古田團長提案に依る年齢延長問題、團則の變更等にして研究せしも新休制に依る青年團の改組案等閑及ぶに至り暫時上層よりの指示を受く可く決す

●第七回評議員會
○九月廿二日午后八時より役場に於て
○協議事項
一、牧場改良勤勞奉仕運動實施に關する件
○前項に關しては全團員の出動に依り二回に施行期日を二回に割り夫々實施大平奥石牧場に於て牧場改良笹刈拂ひ作業をなす樣決す

●第八回評議員會
○十月三日午后八時より役場に於て開催
○協議事項
一、大平牧場改良實施の件
一、村牧場委員と懇談會
○第一回施行したる第一班の實績に鑑み收支合はざる結果なり、故に第二回として第二班を續いて實施させるや否や牧場委員等と懇談協議す、其の結果本團は損得を除外して青年獨自の判斷に依り村へ勤勞奉仕を爲すべく鄉土愛に燃えて續行する事に決す、尙牧場委員も村より相當の補助をなすべく約す

●第九回評議員會
○十月十一日午后八時より役場に於て
○協議事項
一、運動會開催の件
一、圖書館敷地の件
○運動會に就いては休育部一任尙期日は來る十月十七日伊賀良部校庭にて開催

●休育デー協議會

○十月十八日午后三時役場に於て
○本團より米山副休育部長、仲田副團長出席
○明治節休育デーに關し各種團休の下に休育會を開催す具体案を樹立し以て萬全を期す

●第十回評議員會
○十月廿五日午后七時より役場に於て開催
○協議事項
一、中央部郡青陸上競技大會出場選手決定推薦の件
一、十一月行事（農藝品評會）の件
一、村報廢刊の件　先月を以て廢刊す
一、滿洲開拓青少年義勇軍激勵袋發送の件
一、寺院死藏金屬物回收運動の件
一、長野縣地區協議會出席報告の件

●紀元二千六百年奉祝會及族行列參加
○十一月十日午前八時より伊賀良部小學校々庭に於て開催
○世紀の祭典二千六百年奉祝式擧行され之と相呼應して宮城前廣場に兩陛下臨御の下に全國一齊に津々浦々まで擧行さる、本村に於ても仝日小學校、青年學校生徒男女青年團員一般村民參列の上盛大に擧式さる、閉式後小學校及青年學校生徒及男女青年團員を二班に分ち一班は下熊野社、大瀨木、上大瀨木、中村、八幡社、三日市場と、他班は北方宵良社、上殿岡、矢拔社、下殿岡、三日市場の夫々村神社を族行列の上巡拜兩班三日市場神社、諏訪社に於て合班し二千六百年頌歌愛國行進曲等合唱して再び師校聖壽萬歲を三唱して散會す

●休力檢定實施打合會
○十一月十日午后一時伊賀良部小學校に於て
○出席者　小學校職員、軍人分會役員、青年團役員役場吏員
○打合事項
一、檢定月日並場所の件
一、檢定會實施順序の件
一、檢定方法の件
一、檢定員分擔の件
一、會場及器具準備の件

●第十一回評議員會
○十一月十五日午后七時半役場に於て開催
○協議事項
一、第九回農藝品評會開催の件
一、競進會に關する件
一、青年團基本金處分の件
一、休力檢定會實施の件
一、圖書館建設の件

●第六回理事支部長會
○十一月廿四日午后六時役場に於て

○協議事項
一、農藝品評會に關する印刷物作成の件
一、競進會規定作成の件

●青年團改組懇談會
○十二月八日午后七時半伊賀良部校北館
○出席者　青校職員、村長、先輩男女青年團幹部
○懇談事項
一、青年團改組に關する件
○青年團側意見
青年團々則に依る十二月末日を以て從來の青年團を發展的解消をなし來年二月迄を準備期間として此間準備委員を擧げ新体制に順應新青年團令の發布を見るまで待機す、尙此間委員長は青年學校長とす
○學校先輩意見
青年團は解消せず現在のまゝ來年二月迄の持越を切望す、最後まで青年團を保守して貰ひ度ひ
○結　論
村青年團は現狀維持にして新團令の發令されるまで團務を續行す、來年度の漸定期間は學校長が積極的に新組織成立に全力を注ぐ、尙女子青年及各支部も村青に準ず

●第十二回評議員會
○十二月八日懇談會に引續き開催

○協議事項
一、年末總會並講演會開催の件

●第十三回評議員會
○十二月十九日午後七時役場に於て
○協議事項
一、本年度事業並會計決算報告の件
一、講演會並年末總會の件
○前項に就いては農の評議員會に於て決定せし日時本月二十二日は村葬執行のため翌廿三日開催と變更尙講演會講師は村長伊藤高一郎氏

●年末總會
○十二月廿三日午後四時より伊賀良部北館に於て講演會終了直後開催
○會次第
一、宮城遙拜
一、皇軍將兵並戰沒者に感謝默禱
一、君ヶ代齊唱
一、令旨詔書並秩父宮殿下御言葉奉讀
一、開會の辭　（團長）
一、青年團改組に就いて　（校長）
一、本年度事業報告
一、本年度會計決算報告並承認
一、特殊事業報告

一、各支部特殊事業發表
一、協議　青年團改組問題に就いて
一、團員意見發表
一、茶話會
一、團歌合唱及萬歲三唱
一、閉會之辭
○當年末總會は主として過渡期にある青年團を如何に對處すべきか種々研究論議された
高度國防國家を形成せんとする趣旨より從來の自由自主的な思想を含有する青年團は一貫したる統制體系よりなれる新青少年團へ一大飛躍をせんとする曙光を見出したのである

●青年團解團式
○昭和十六年三月十六日午後圖書館開館式直後伊賀良部体操場に於て開催す
○式次第
一、開式の辭　（仲田）
一、宮城遙拜
一、感謝默禱
一、國歌齊唱
一、令旨奉讀　（古田）
一、秩父宮殿下御言葉奉讀　（古田）
一、團長挨拶　（古田、矢澤）
一、團務報告　（仲田、熊谷）
一、團歌合唱
一、閉式の辭　（仲田）
茶話會
○二十余年の燁かしい歷史を誇る我男女青年團も急迫せる內外の情勢に對處して團の全國一元的なる青年指導体制に則應し所謂發展的解消をなし、より力强い新青少年團の結成に全力を注ぐことになり、此處に歷史的なる解團式を擧行せり
引續き同會場を以つて數ヶ月間研究に研究を重ねたる新青少年團の結成式は擧行されたのである

財產現在高（新青少年團へ引繼ぐ）

一、會旗　壹旒
一、旗竿　一個
一、優勝旗　六旒
一、賞寫版　二台
一、改良鑪　二個
一、巡廻文庫箱　七個
一、圖書棚　二個
一、算筒　一個
一、會長印　一個

一、運動具箱　一個
一、野球防具（ミット、グローブ）　十一個
一、砲丸　一個
一、帖綴器　一挺
一、團旗　一旒
一、團長印　一個
一、基本金（圖書館基本金へ）
① 債券額面　四百六拾圓也
内譯　國債　五分利額面　壹百圓也　二枚
〃　三分半〃　壹百圓也　二枚
貯蓄　額面　拾五圓也　一枚
勸業　〃　拾圓也　三枚
② 現金　壹百參圓六拾貳錢也
外に圖史發行費へ一三八圓九一錢也支出、

現在ノ伊賀良村青年團々則

第一章　名稱及位置

第一條　本團ハ伊賀良村青年團ト稱シ事務所ヲ伊賀良村役場ニ置ク

第二章　目的及事業

第二條　本團ハ團員相互ノ修養ヲ圖リ共同自治ノ精神ヲ涵養シ以テ青年團ノ本領ヲ發揚セン事ヲ以テ目的トス

第三條　本團ハ第二條ノ目的ヲ達成スルガ爲メ左ノ事業ヲ行フ
一、集會
一、團員相互ノ教養及團体的訓練
一、補習教育ノ徹底思想問題學術實業ヲ主体トスル學術研究及調査
一、身体鍛練ニ關スル諸設備及實行
一、圖書ノ設置
一、時事問題ニ關スル研究調査及之ニ應スル活動

第三章　團組織

第四條　本團ハ伊賀良村在住者ニシテ小學校卒業以上貳拾五歳迄ノ男子ヲ以テ組織ス

第五條　本團ハ事業遂行便宜上左ノ六支部ニ分ツ
第一支部　下殿岡　第二支部　上殿岡
第三支部　北方　第四支部　大瀬木
第五支部　三日市場　第六支部　中村

第四章　事業組織

第六條　本團ハ本則第二條ノ目的ヲ達スル爲メ左ノ部門ヲ置ク
①、教育部　①、社會部　①、體育部
①、勸業部　①、圖書部　①、編纂部

第五章　機關

第七條　本團ニ左ノ役員ヲ置ク

一、團長　一名　一、副團長　一名
一、會計部長　一名　一、書記　二名
一、理事　六名　一、評議員　若干名

第八條　本團支部ニ左ノ役員ヲ置ク
一、支部長　一、副支部長

第九條　本團役員ノ權限左ノ如シ
①、團長ハ本團ヲ代表シ團務ヲ統理ス
①、副團長ハ團長ヲ補佐シ團長事故アルトキハ之ヲ代理ス
①、會計部長ハ團ノ出納ヲ掌ル
①、書記ハ團長ノ命ニ依リ本團記錄ヲ掌ル
①、理事ノ分掌ハ左ノ六部門ニ分チ各其ノ主任トナリ之ヲ掌理シ副ハ之ヲ助ク
一、教育部　一、社會部　一、體育部
一、圖書部　一、勸業部　一、編纂部
①、係員ハ各支部一名宛推薦シ理事ノ命ニ依リ各活動ス

第十條　本團役員ノ任期ハ一ケ年トシ毎年度末十二月ニ於テ之ヲ改選ス

第六章　會議

第十一條　本團ノ會議ヲ左ノ如ク定ム
一、總會定期總會ヲ年内春夏年末三回ト定メ本團ノ重大ナル事項ヲ決議ス　但シ評議員會ノ決議ニヨリ臨時總會ヲ開ク事ヲ得
一、評議員會　評議員ヲ以テ組織シ團長之ヲ招集シ豫算團務、事業方針其ノ他本團ニ必要ナル事項ヲ評決シ重大ト認メル事項ハ總會ニ計ルモノトス
一、係員會　理事之ヲ招集シ理事ノ命ニ依リ各活動ス

第七章　經費

第十二條　本團經費ハ團員負擔金及補助金其ノ他トス

第十三條　本團員ハ總會ニ於テ承認シタル費用ヲ負擔スルモノトス

第十四條　本團ノ豫算及決算ハ毎年度評議員會ノ審議ヲ經總會ノ承認ヲ經ルモノトス

第八章　基本金財産

第十五條　有志ノ寄附金及團費ノ剩餘金ヲ蓄積シ團ノ基礎ヲ强固ナラシメ將來ノ活動發展ニ資ス

第九章　附則

第十六條　本團々員ノ言行ニ對シ必要ト認メタルトキハ相當ノ賞罰ヲ行フ

第十七條　本團則施行上必要ナル細則ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　本團則ハ總會ノ決議ヲ經ザレバ變更スルヲ得ズ

第十九條　本團則ハ昭和十五年　月　日ヨリ施行ス

團則施行細則

第一章　事業

第一條　本則第六條第一項ニ依リ講演會、講習會、雄辯

會、補習學校、研究調査其ノ他必要ト認メタル事項ヲ行フ

第二條　本則第六條第二項ニ依リ必要ナル諸問題ニツキ研究會調査會等ヲ行フ

第三條　本則第六條第三項ニ依リ運動會陸上競技會野球庭球大會其ノ他ヲ行フ

第四條　本則第六條第四項ニ依リ勸業、講演會、勸業方面視察、經濟調査其ノ他ヲ行フ

第五條　本則第六條第五項ニ依リ文庫經營貸出其ノ他ヲ行フ

第六條　本則第六條第六項ニ依リ會報發行及時宜ニ應ジ雜誌等ノ發行ヲ行フ

第二章　役員

第七條　本則第七條ノ役員ハ毎年度末新舊評議員合同會ニ於テ選出スルモノトス團長、副團長、會計部長、各理事ハ評議員ノ互選ニ依リ書記ハ團長指名トス

第八條　本則第七條評議員ハ各支部ニ於テ選出シ各支部評議員數ハ團員拾名ニ對シ一名トシ團員端數ハ四捨五入シ一支部評議員最少限度三名トス

第九條　本則第八條ノ役員ハ各支部ニ於テ毎年度末總會ニ於テ選出スルモノトス

第十條　本則中役員ノ欠員ヲ生ジタルトキハ細則第七、八、九條ニ準シテ補選ヲ行フ

第三章　會議

第十一條　本則第十一條第一項ニ依ル總會ハ出席者ノ贊成ニ依リテ成立シ出席者半數以上ノ贊成ニヨリテ決議ヲナスヲ得ルモノトス

第十二條　本則第十一條第二項ニ依ル評議員會ハ評議員過半數ノ出席ニ依リ成立シ出席者ノ半數以上ノ贊成ニ依リ決議ヲナスヲ得ルモノトス

第四章　經費

第十三條　本則第十二條ニ依ル經費ノ內團員負擔金ハ其ノ年度ニ於テ決定シタル金額ヲ年內二回（四月、十月）之ヲ徵收ス

第五章　基本金財產

第十四條　基本金財產ノ保管ハ團長ノ責任トス

第十五條　基本財產ノ使用ノ必要ヲ生ジタルトキハ評議員會ノ審議ヲ經總會ノ決議ヲ經ルモノトス

附則

第十六條　本細則ハ總會ノ決議ヲ經ルニ非ラザレバ變更スルコトヲ得ズ

第十七條　本細則ハ昭和十五年　月　日ヨリ之ヲ施行ス

雜則

以上

牧場改良勤勞奉仕運動の記

一、期日　昭和十五年九月　自二十八日至三十日　三日間　一中隊
〃　十月　自七日至九日　三日間　二中隊

一、場所　飯田市大平奥石伊賀良牧場

一、作業　村の牧場改良計畫に基く笹刈拂ひ作業

一、各人の携帶品　鍬（中厚）鉈、砥石、縄（一等）毛布外套、冬シャツ二枚、冬もゝ引、足袋、握飯（二食分）米一升（五食分）味噌、野菜、茶わん

一、勤勞奉仕隊編成表

勤勞奉仕隊
隊長　古田利夫
副隊長　仲田史朗

第一中隊
中隊長　田口敬二
旗手　椎名執

第四小隊
小隊長　市瀨一男
第一班　第二班　第三班　第四班　五名

第五小隊
小隊長　久保田明男

第二中隊
中隊長　神部稻男
旗手　矢澤嚴

第一小隊
小隊長　伊藤秉男

第三小隊
小隊長　新井春美

第六小隊
小隊長　熊谷陽

ラッパ手　各小隊一名宛
炊事班　各小隊二名宛

一、主なる行事日程

第一日

一、午前四時半　伊賀良郵校庭集合
二、勤勞奉仕隊結成
①、人員点呼　②、宮城遙拜　③、大義旗樹立
④、隊長挨拶　⑤、作業注意
三、トラック輸送　午前五時出發
四、宿舍到着　午前七時
五、牧場着　午前八時
六、作業開始　午前九時
七、壹　食　一時間
八、作業終了　午後五時
九、人員点呼、宮城遙拜、歸舍　六時
十、夕　食　午後六時三十分
十一、夜の行事、講演　午後七時より
十二、就　寢　午後十時

第二日

一、午前五時起床
二、朝の行事
①、洗面　②、小學校遙拜足　③、点呼
④、宮城遙拜　⑤、体操　⑥、美化作業　⑦、朝食

三、出　發　午前七時
四、作業開始　午前八時　休憩十分
五、以下前日に同じ

第三日

一、前日に同じ
二、歸村　午後七時三十分
三、人員点呼、隊長挨拶、解散

一、講師並指導者

經濟部出張所　輪湖政雄氏
農會　技手　田中　登氏
青年學校　櫛原　先生　長谷川先生

一、概況

九月廿七日役員六名實地調査並計畫樹立の爲午前七時四十分大平バスにて入牧、調査、宿舍等の諸準備を終り下山す。

九月廿八日より向三日間　第一中隊登山

廿八日未明團員は服裝準備も甲斐々々しく朝霧の中から續々と集合する。午前四時三十分集合終り勤勞奉仕隊を編成す。第四支部を第四小隊、第五支部を第五小隊とす前記次第の通り勤勞奉仕隊は結成された。トラック一台に乘車、一部は大平バスにて延々たる大平街道を朝霧をついて、日の丸の大義旗は翻飜とひるがへり、若人の意氣正に天を突く。午前七時大平の宿舍へ到着す。各自荷物を下ろし宿舍から約一里の大平街道を隊伍堂々と牧場へと向ふ。仙境大平の山々は將に錦に衣更へせんとし、鳴島の樂秘境の感を深からしむ。栗、野葡萄等々、渡る野分にすゝきの穗並のゆれて高原の氣はすが〳〵しい。各班に分れて作業開始、背丈以上の密生した熊笹然も傾斜地である。之を二米乃至三米の縞狀に刈拂ひ葉を拂ひ落し約五貫匁の束に束ねて街道へ運搬するのである。作業は豫想以上に困難である。然し終日元氣一杯で刈りに刈つた。日の漸く沒した頃作業終りのラッパは邊りにこだまして鳴り渡つた。

宿舍は旭松凍豆腐製造工場で融に百余名を收容し得る好適の道場だ。夜農會田中技手の講話を聞き寢に就いた。

九月二十九日第二日、起床、朝の行事、大平小學校々庭から湧上る彌榮の氣合。ヨイサヨイサの勇ましい馳足に高原の眠りはさまされた。作業前日に同じ。つかれた足を引づつて宿舍にたどり付いた、炊事當番の腕を振つた共同炊事のうまさ、一粒の飯も殘らない。夜は輪湖先生の講演、二日間の激勞にへとへとにつかれた体も先生の熱情の講演に電流でも通へる樣によみがへつた。そして感激した。

九月卅日第三日、本日の朝の行事は輪湖先生の指導だ。黒川の清流に禊せる神々しい先生の先導に朝の行事も一しほ緊張した。本日の作業は午前中で切り上げ徒歩で歸

村した。しばし別れた母村に長らく振りだつた樣な氣がして急ぎに急いだ。そして夕方勤勞奉仕隊第一中隊の解散式を行つたのである。

作業の間幾度か豫期に反した事態が發生し作業中止の止むなきに至るやとも思はれたが、遂に計畫通りあらゆる困難を克服して完遂し青年の面目を發揮したのであつた

十月七日より向三日間　第二中隊登山

七日午前四時半全出勤人員、伊賀良部校庭集合、先づ勤勞奉仕隊を編成す、第一、第二支部を第一小隊、第三、第六支部は各々第三、第六小隊とす。人員点呼、宮城遙拜、大義の旗樹立、隊長挨拶、作業上其の他の注意後直ちに一路奉仕場なる大平牧場へとトラックの輸送を行ふトラック二台に夫々分乘し滿山紅葉に飾られたる山峽大平街道を猛進、大義旗高く飜へり我等青年團の象徴とも云ふべく意氣揚々と午前七時二十分大平宿舍に到着。小憩後再びトラックにて牧場入口迄輸る。

作業開始　第一中隊の經驗者五名笹刈指導に當に要領を敎へる。

作業方法と第一中隊と同樣日程通りに實施す。第二日目の夜は田中技手の講演後演藝會を催し、一日の勞を慰し明日に對すべく山谷の一夜を愉快に過す、お得意の流行歌、浪曲其の他色々で仲々盛會だ。

第三日午前中で作業終了、宿舍前にて集合、点呼、隊長挨拶、作業上の講評あり解散、各小隊毎に歸村す。

一、六日間に亘る大事業は終つた。其の間に發生した幾多の難事を見事克服して遂に計畫は實現した。青年のみが持つ熱情、不屈の實行力、青年のみが知る感激、此の事業によつて如實に味ひ知ることが出來、團結を益々强固にしたのである。

一、昭和十五年度伊賀良村青年團牧場改良事業經費

收支決算書

一金六百五拾八圓七拾五錢也　收入決算高
一金六百五拾八圓七拾五錢也　支出決算高
收支差引　殘金なし

收入之部

種目	金額	備考
一、笹刈販賣代金	三〇八、七五	一二四一把(正五貫)一把廿五錢內卅把單價二十錢
二、村費補助金	三五〇、〇〇	
合計	六五八、七五	

支出之部

種目	金額	備考
一、トラック代	七五、〇〇	一台二十五圓　三台分
二、大平自動車賃	六、四〇	一人八〇錢　八人分
三、電燈料	、五五	第一中隊第二中隊二回分
四、役員自動車賃	一六、五五	調査隊並指導班

五、衛生費	一、一〇	ホータイ四ケ代
六、副食物費	一三、〇〇	塩三升三〇錢、佃煮三箱
七、謝禮	九、五〇	一二、七〇 宿舎五圓其他謝禮四円五〇
八、講師謝禮	五、〇〇	輪湖先生謝禮
九、雜費	三一、九五	煎餅代
一〇、團員配分金	四九五、〇〇	團員延三三〇工一工一、五〇ノ割
一一、寄附	四、六〇	圖書館建設費へ寄附
合計	六五八、七五	

教育部報告

●講演會

○日時　一月十五日午後二時より

○會場　伊賀良部小學校北館

○講師　小林八十吉氏

○演題　世界情勢と我國の現狀

○論旨　本論の豫備智識として世界地圖參照各國の位置を說明す、論ぜんとする處は即現世界的情勢より觀たる我國の現狀であり有色人種としての世界的なる日本民族的使命である。

十九世紀時代よりの西力東漸と支那分割を述べ次に世界的一大衝動として關心を惹起せし日露戰役將又滿洲事變の考察を論じ或は遠く歐洲名國の歷史に遡り第一次歐洲大戰に慘敗せし獨逸國情に及ぶ。ゲルマン魂の研鑽十有數星想。

ヒットラーの獅子吼は終に全ヨーロッパを風靡さした渾々として迸り出づる獨逸人の祖國愛は隆々として今日の勝利に至らしめた。

此の氣魄此の歷史誰かよく他山の石とせん。

世界を歷史的見解の下に解決し將來を現實的の下に考察す。第二次歐洲動亂と云ひ將又支那事變と云ひ端的には到低解決されない。

日本民族的使命を個々自覺し把握して以て事變完遂に一層の奮起を切望す。

○滾々として流れ出る名論卓說は一言一句我等青年の心魂に滲込んで肺肝に至る。燁かしき皇紀二千六百年の新春勞頭に方り我等の欲求する論旨の下に徹頭徹尾一貫したる迫力を以て講演され夫々各自大いに感懷受動するところあり。

●研究會

○二月十五日午後八時より役場に於て男女兩青提携の上開催

○研究議題

一、本村に於ける副業如何　第六支部提出

理由說明　仲田史朗

本村の副業を眺めたとき一部に於て二、三の副業的なる作業を見出も農閑期を有効に利用した徹底的な副業を認めず、一方村內より農閑期に他村に渡山な青年の勞力が移出されてゐる現狀であり歸村後の風紀等にも惡影響抄からず。故に健全なる村の發展はかゝる事のなき樣適當なる副業を奬勵し遺憾なき樣したひ。然らば本村に適當なる副業や如何。

二、村營圖書館と名支部圖書部の活用狀態如何　第五支部提出

理由說明　久保田朋男

目下本團に於ては村營圖書館建設の氣運が漲つてゐる。村營圖書館設立の曉は各支部圖書を此處へ集中する事になるが今迄よりも反つて圖書の活用率を低減する憂ひ無きや。若し減少するが如き事あらば主旨に反するから充分と研究の上成丈多く活用さる樣にせねばならぬが其の方法や如何。

三、糸價不安定なる養蠶に代る更生農業經營如何　第一支部提出

理由說明　伊藤　泉男

糸價の現狀を見たとき甚だ不安定のもので例へば去月より今月の一ケ月間の糸價暴落は千圓以上で一躍養蠶家の希望も淡いもので落村いて餘々仕事も出來ない。

此の秋に當り養蠶經營に代るべき農業經營はなきや。

四、左の問題に就いて對處如何

イ、肥料　ロ、勞力　ハ、副業　ニ、家畜　第四支部提出

理由說明　椎名　執

統制下にあつて標記問題が吾等農村に切迫して來た如何に處理解決すべきか。

五、節米運動如何　女青提出

理由說明　原　いく

節米運動の叫ばれてゐる今日青年團の意見を問ふ。

六、圖書館建設促進方策如何

七、村青廿週年記念事業如何

八、青年團と青年學校との關係について果して現狀に滿足しをるや？

九、今事變處理に對する我等農村の活動如何

以上四題村青敎育部提出

○結論　議長、團長　古田利夫

以上諸問題中類似案がある故四題に括して論結す。

一、第一類案副業其他農村問題に就いて

副業に關しては本業を充分研究してからでないとどの副業が良いと一概に云へぬ。本村としては米作、養蠶が主

業であるから農閑期を利用して蓆加工及副蠶糸の利用が一番安全な副業であると思ふ。農會でも目下考究中である。勞力に就いては電力と全樣一度に澤山蓄積して必要に應じて消費することは不可能であるから必要に應じて需要もすれば又他へも供給するのが良い。

肥料は國家統制で如何とも仕方が無いから自給肥料の增成に努めるより良策はない。家畜としては目下飼料がなくて思ふ樣に飼育出來ないが勞力不足の折柄之に代る馬牛を飼育せねばならぬ。本村農會に於ても大畜に馬、中畜に緬羊、小畜に兎等を奬勵してゐる。緬羊毛の冬期加工は相當良い副業である。又養蠶に代る更生農業は目下食料增產が叫ばれてゐる折柄桑園の水田還元、甘藷、馬鈴薯の代用食物作付等最も適した農業經營である。

一、第二類案圖書館問題に就いて

建設促進には建設委員會を作り仕事を分擔して各自責任を持つてすることが肝要である。緊急委員會を開催し具体策を研究し一日も早く着手したひ。尙活用狀態に就いては各支部相當死藏圖書を有してゐるが之が村一般へ活用される。經費等も各支部夫々毎年相當掛けてゐたが一括され村費として計上され縣よりの補助金もありて種々利点がある。

第三類案村青廿週年記念事業について

自主創立記念事業として國史發行が最も適した事業であると思ふ。此際女子青年も男青と共にしたらよいと思ふ

第四類案節米運動に就いて

節米運動は一の愛國運動である。全國民が時局を認識して節米に協力すると同時に代用食及混食をすると同時に今叫ばれてゐる七分搗米の徹底を期す。

第四類案青年學校との關係について

青年學校と懇談して萬事遺漏なき樣務めたい。近く青年學校と懇談會を開催する豫定である。

●講　演　會

○日　時　四月十五日午後七時半
○會　場　伊賀良小學校体操場
○講　師　中原謹司氏
○演　題　國際關係と支那事變處理
○論　旨　世界狀勢と大東亞建設の理想を說く

●講　演　會

○日　時　八月十五日午後二時
○會　場　伊賀良部北館
○講　師　松江大元氏
○演　題　寸　感
○論　旨　我國の思想界は全く混沌たる現狀であつて寸時も樂觀を許すことが出來ない。國民全体が健實な思想を持たなくては現下非常の秋を到底乘切ることは出來ない。それには先づ國体の本義を明らかにし忠孝

め誠を至すべきである。

宗教的な見地より三種神器の性質を說く。

又禪的精神修養の現下必要性を强調す。

○氏は禪的人物我が伊賀良村否鄕土に於ける異才子、眼光炯々として論法は隽健。良く聽講者をして魅了す。

「大義親ヲ亡ス」とは氏の常套語。

●講　演　會

○日　時　十二月二十三日午後二時
○會　場　伊賀良小學校北館
○講　師　村長　伊藤高一郎氏
○論　旨　先づ村政改革及治政方針を述ぶ。

即本村が農村なるに依り農業經營を改善しなくてはならぬ。勞力、肥料不足の折柄經營は更生組合單位の共同經營とすべきである。合理的な共同經營は余剩勞力を生ずるにより國策方面へ向け又肥料其他物資の配給に關しては圓滑ならしむ等々。

○講師は我が本團の初代會長であり常に青年に對しては特別の理解あり、責性溫容、篤實躬行、氏の抱負は本講演會に於て强く感銘を與へ一同明日への伊賀良村建設に誓ひ合つた。

× ×

体育部報告

●武道大會

○日時　二月十一日午后一時
○場所　伊賀良小學校体操場
○會次第

一、宮城並伊勢神宮遙拜
一、開會之辭
一、試合方法並注意
一、試合開始
一、成績發表
一、賞品授與
一、茶話會
一、閉・會　以上

○成績左の如し

劍道　個人試合（◎は勝を示す）

審判　竹村先生

◎木下　義秋　○久保田八尋
×矢澤　義平　×原　實
◎代田　文男　◎小木曾　誠
×熊谷　杵男　○伊藤　良三
◎溝上　忠雄　◎熊谷　安雄
○椎名　執　○小池　國夫
◎宮下　太　○橋部　好人
×今牧　豊林　◎後藤　辰二
◎矢澤　和俊
○位高小四郎

◎田畑 慶一　◎今牧 修　◎北原 芳人
○片山 利夫　×鈴木 功　×矢澤 春男

◎佐々木峯保　◎常盤 守義　◎松澤 啓人
○伊藤 一男　×矢澤 茂　○相原 洋三

◎矢澤 省三　◎矢澤 清信　◎唐澤 正春
×村澤万亀男　○椎名 將二　×矢澤 國廣

◎松尾 綠　◎矢澤 馨　矢澤 睦人
×奥田 宗平　×大野 博邦　清水 正明

◎熊谷 八郎
○米山 榮蔵

紅白試合（三本抜）

×○ 大野 博邦ー清水 正明 ×
×○○ 椎名 將二ー原 實 ○×
矢澤 義平 ×
× 木下 義秋ー今牧 豊林 ○○○ 優退
× 熊谷 杵男
×○ 久保田八等ー代田 文男 ×
×○ 相原 洋三ー熊谷 安雄 ○×
×○ 小池 國夫ー宮下 太 ○×
優退 ○○○ 北原 芳人ー後藤 辰二 ○×
伊藤 一男 ×

矢澤 啓人 ×
×○○ 矢澤 和俊ー奥田 宗平 ×
椎名 執 ×
× 鈴木 功ー松尾 綠 ○○○ 優退
× 矢澤 清信
× 矢澤 巌ー今牧 修 ○○○ 優退
× 矢澤 省三
× 米山 榮蔵
× 小木曾 誠ー橋部 好人 ○×
○ 片山 利夫

以上五名優退

柔道 審判 仲田

出場者少き爲リンク戰をなす

一位 伊藤良三　二位 常盤守義
三位 矢澤茂夫

○皇紀二千六百年の由緒ある紀元の佳節をトし盛大に武道大會が開催された

●劍道練習

○三月十二日より十六日まで毎日午后四時より仝六時まで伊賀良部休操場に於て

○中央部聯青劍道大會出場の爲め練習

○出場詮衡選手

今牧 修　橋部 好人　市瀨 勝己

矢澤 嚴　熊谷 八郎　矢澤多喜男
松尾 綠　米山 榮蔵　矢澤 省三
矢澤 清信　矢澤 俊治　松澤 俊省
小木曾 誠　鈴木 功　片山 利夫
田口 敬一　今牧 豊林

○中聯青の大覇を目指して練習又練習

●野球大會

○四月二十九日午前十時より伊賀良部校庭に於て擧行

○會次第

一、宮城並伊勢神宮遙拜
一、開會之辭　團長挨拶
一、優勝旗返納
一、試合上の諸注意
一、試合開始
一、試合終了
一、成績發表
一、優勝旗授與
一、閉會之辭

○成績左の如し

	決勝戰	準決勝	第一回戰	回數 / 支部名
計	5	5	6	
	4	4	5	
	3	3	4	
	2	2	3	
	1	1	2	
一支部			17	4
二支部		9A	15A	A
三支部	14	3	7	4
四支部	12		5	2
五支部			4	0
六支部			1	0
計	5	5	6	
	4	4	5	
	3	3	4	
	2	2	3	
	1	1	2	
	0	0	1	
一支部			13	0
二支部		A	9	2
三支部	0	0	0	0
四支部	2	6	0	1
五支部	0	0	1	0
六支部	5	3	3	1

不勝一勝

○戰況

第一部對第六支部の戰は第三回戰迄に於て余りにも隔差あり。故に二三回戰を以て打切り第三支部對第四支部の戰は第五回戰に於て得点が同じなり。一回延長戰の結果七對五、二点の差を生じて第三支部勝、第二支部對第五支部の戰は十五A對四、第二支部勝。

準決勝戰には第二支部不戰一勝、第一部對第三支部は三對九Aを以て第三支部の勝、第二支部對第三支部の決勝戰は大接戰にして十二對十四を以て優勝旗は終に第三支部によつて獲得された。

●陸上競技大運動會

（秋季大運動會）

○十月十五伊賀良部校庭に於て開催、昨日の秋雨も今朝

は齊れたが重たい雲が時々頭上を覆つて險惡な模樣を爲してゐる。役員連は心配して運動場を彷徨しゐる。天氣も次第に快復して午前九時漸く開催と決定、各支部へ通知報告し午前十時開會す。

○會次第

一、集合整列
一、宮城並皇大神宮遙拜
一、國歌齊唱
一、開會之辭團長挨拶　古田團長
一、運動開始、終了
一、休育部成績發表　田口休育部長
一、閉會之辭　仲田副團長
一、萬歲三唱

○運動種目及成績

1、全員準備運動

2、兩面二脚（以下括孤內は支部名）

一、（矢澤（一）市岡（五））　一、（今村（五）伊藤（三））　一、（常盤（四）山田（一））
二、（矢澤（一）木下（四））　二、（今村（五）矢澤（三））　二、（吉澤（五）今牧（五））
三、（矢澤（一）平田（五））　三、（高橋（一）米山（二））　三、（古田（五）赤川（五））

3、八百米決勝

一、村澤万（一）
二、矢澤省（三）
三、熊谷金（五）
四、市岡保（五）

4、運搬競爭（五十米疾走八貫目俵五十米運搬）

一、矢澤（三）　一、久保田（五）
二、米山（二）　二、鈴木（五）
三、久保田（五）　三、矢澤（一）

5、手榴彈投（厚生省制定檢定用）

一、村澤万亀男　四八米
二、佐々木峯保　四六米
三、矢澤巌　四四米
四、常盤守義

6、自轉車競爭（二百米コース十五周）

一、久保田岩男（五）
二、熊谷實男（六）
三、矢澤清信（三）
四、古田守（四）

7、就職難（俵差し）八貫目俵

一、米山榮（二）二分二〇秒　一、熊谷（六）二分五五秒
二、古田（五）　二、小池（四）
三、伊藤良（六）　三、岡庭（三）

8、砲丸投

一、田口敬一（五）　一〇米一〇

二、熊谷實男（六）　九、七七
三、仲田史朗（六）　九、六五
四、佐々木峯保（一）　九、四八

9、圓盤投

一、田口敬一（五）　二二米四七
二、小木曾誠（四）　二〇、七五
三、佐々木峯保（一）　二〇、七〇
四、熊谷實男（六）　二〇、五〇

10、槍投

一、五島保男（二）　三六米七五
二、矢澤　茂（一）　三五、〇〇
三、長谷川正美（六）　三三、一八
四、田口敬一（五）　三三、〇七

11、百米決勝

一、佐々木峯保（一）
二、福島信弘（六）
三、常盤守義（四）
四、清水五郎（三）
五、清水義人（三）

12、千五百米決勝

一、村澤万亀男（一）
二、市岡保（五）
三、熊谷金太郎（五）
四、五島安男（二）

14、猿廻し

一、（今牧（五）今村（五））　一、（矢澤（山田（一））
二、（遠藤（二）〃）　二、（居山（小木曾（四））
三、（久保田（畑田（五））　三、ナシ

15、障碍物競爭

一佐々木（一）一伊藤（六）　一矢澤（一）　一清水（三）
二今牧（五）　二奥村（一）　二遠藤（二）　二矢澤（一）
三清水（三）　三神部（三）　三松尾（三）　三矢澤（一）

16、試驗地獄

一、松澤（三）　二、三回正解者なし
二、椎名（四）
三、ーなし

17、自轉車徐行競爭

一、仲田（六）　仲田（六）　常盤（四）
長谷川（六）　木下（三）
二、高橋（三）　久保田（五）　矢澤（三）
山田（一）　矢澤（二）
三、松澤（三）　矢澤（三）　久保田（五）
矢澤（三）　熊谷（六）

18、八百米繼走

順位
① 第六支部　メンバー略
② 第四支部
③ 第五支部
④ 第三支部

19、共同一致（百足競爭）
順位
① 第五支部　① 第一支部
② 第一支部　② 第六支部
③ 第三支部　③ 第四支部

20、仰月競爭
一、矢澤(三)　一、今牧(五)　一、原(四)
二、佐々木(一)　二、鈴木(三)　二、矢澤(一)
三、高橋(三)　三、木下(三)　三、清水(三)

21、マラソン（飯田市南信自動車まで）
一、熊谷實男　(六)
二、五島安男　(二)
三、市岡保　(五)
四、久保田辰男　(五)
五、平田朝男　(五)
六、片山春夫　(四)
七、熊谷利春　(六)

22、四百米決勝
一、福島信弘　(六)
二、田口吾平　(五)
三、熊谷金太郎　(五)
四、長谷川正美　(六)

23、柿喰競爭
一、伊藤(二)　一、小木曾(四)　一、清水(三)
二、加藤(三)　二、加藤(三)　二、山田(一)
三、(二)　三、松澤(二)　三、三浦(三)

24、關所レース
一、加藤(三)　一、清水(三)
二、今牧(五)　二、矢澤(三)
三、清水(三)　三、今村(五)

25、走巾飛
一、佐々木峯保　(一)　四米九七
二、常盤守義　(四)　四、八九
三、長谷川正美　(六)　四、八二
四、清水五郎　(三)　四、七七

26、三段飛
一、神部稻男　(三)　一〇米九六
二、常盤守義　(四)　一〇、〇七
三、矢澤清信　(三)　一〇、〇三
四、伊藤一夫　(三)　一〇、〇一

27、走高飛

一、二、矢澤　修(一)　一米四五
常盤守義(四)
三、神部稻男(三)　一、四〇

28、千六百米リレー　メンバー略
一、第六支部
二、第三支部
三、第一支部
四、第四支部

○各支部得点
順位
第一位　七六点五　第三支部
七六、五　第五支部
二　七三、〇　第一支部
三　六一、〇　第六支部
四　四三、〇　第四支部
五　二六、五　第二支部

第三、第五支部同点により優勝旗は保留

○心配した天候もプロを追つて順次に休育日和となる種目の多き事と開始時間の遲れたため二、三種目を省く。
閉會午後七時。

●郡青中央部支會陸上競技大會
○十月二十七日午前八時より城下グランドに於て明治神宮休育大會に相呼應して開會す。
吾本團選手は昨年優勝した榮ある歷史を穢さず必勝の信念と重大なる責任とを痛感しつゝ參加す。
絕好の運動日和は若人をして思ふ存分の活動をさせ遺憾なく日頃の實力を發揮させた。本團神部君の選手宜誓あり。

○各村得点次の如し
一位　伊賀良　八八、〇点
二位　松尾　八四、五点
三位　鼎　四三、〇点
四位　上郷　三七、〇点
五位　喬木　二四、〇点

○右表の如く本團優勝、昨年に劣らざる成績にて今年も豫期通り優勝出來得た事は一同俱に喜に堪へぬ。出場選手諸君の奮闘は勿論應援者の熱誠にまつこと多し。喜と感激に浸りながら優勝旗を空高く翻して青年は歌ふ『東の嶺より太陽は昇り』と。

●明治節聯合休育大會
○十一月三日午前九時より伊賀良部校庭に於て玲瓏透徹せる淸秋の小春日和は老若男女混然として休位の向上に愉快に又終始眞劍に擧行される。
○青年團出場種目
一、所面二脚

一、借物競爭
一、白面〃
一、碍害物〃
一、自轉車〃

○時局下の運動會として一段目につくのは各種團体共種目に於て娯樂的なものは皆無と云ふ位で一方時局を諷示するものが大部分であつた。

●體力章檢定會

○十一月二十三日午前九時より伊賀良部校庭に於て開催

○會次第

一、開會
一、國旗揭揚及君ヶ代奉唱
一、宮城遙拜
一、戰歿將兵慰靈並皇軍將兵武運長久祈願
一、會長挨拶　村長
一、檢定員注意　校長
一、受檢者宣誓　田口敬一
一、準備運動　全員　指揮羽場先生
一、檢定實施…終了
一、片付及講評
一、愛國行進曲合唱
一、國旗降納
一、萬歲三唱　會長
一、解散

○檢定會實施成績

受檢者百四十名

初級合格者　四十名
中級〃　四名
上級〃　なし

○宣誓文　受檢者代表田口敬一

時將ニ皇紀二千六百年聖戰既ニ四年歐洲モ亦大戰ノ渦中ニアリ宇內ノ情勢變轉極リ無クモ八紘一宇肇國ノ皇謨ハ燦トシテ皇國ノ進路ヲ照シ玆ニ日獨伊三國同盟トナリ東亞新秩序ノ建設ハ着々進行シツヽ有リト雖モ前途尙ホ遼遠ナリ、皇國ノ歷史的大使命達成ノ確信ハ益々牢固トシテ拔ク可カラザルモ此秋ニ至リ厚生省ニ於テハ次代中堅タルベキ靑年体力ノ檢査ヲ實施サル、而シテ本村ニ於テモ各種團体協力ノ下ニ第二回体力章檢定會ヲ實施サル、ハ吾等一同慶賀ニ堪ヘズ

惟フニ一國ノ盛衰ハ靑年ノ心身ノ强弱ニアリ故ニ吾等ハ本檢定ニ依リ昨年度ヨリ今年度ヘト自已体力ノ現狀ヲ知リ國民体位ノ重要性ヲ認識シ一層ト体育訓練ノ上ニ關心ヲ持チ益々体力ノ增强ヲ計リ玆ニ体力ノ根基ヲ培養セザル可ラズ、今ヤ祖國日本ハ建國以來ノ一大試練ニ遭遇ス、之ヲ完遂スベキ重務ヲ荷ヒ起ツ光榮ヲ感謝シ全國靑年一丸トナリ堅忍持久渾身ノ誠ヲ捧ゲテ常

ニ邁進シ誓ツテ御令旨ノ精神ヲ体得シ自主獨往以テ興亞聖業ノ貫徹ニ邁進シ誓ツテ天皇陛下ノ大御心ヲ安シ奉ランコトヲ期ス

右宣誓ス

昭和十六年十一月二十三日

○當日は天候曇天にして晩秋の冷氣甚だしく充分實力を發揮出來兼ねたことは遺憾であつた。

尙種目中投擲に於て失格する者非常に多く心配した。運搬は比較的容易に通過した。從來體力章が社會より一段と重要視され一人格と見做される折柄不斷是に意を用ひ夫々方法を講じて實施種目を練習する必要がある。

勸業部報告

●農藝品評會

○十一月廿九日より十二月一日まで三日間午前八時より午後四時まで開催

○第一日　午前會場準備、出品物受入
午後出品物陳列整頓

第二日　午前　審査　午後　一般觀覽
第三日　午前　一般觀覽
午後　出品物撤去後片付

○本會は毎年農會主催にて開催するも今年は靑年團に於て主催となる。本會に競進會を設け以て品評會を有意義ならしむ。

○競進會規定

第一條　本競進會ハ農藝品評會ニ多數ノ優良ナル農藝品ヲ出品セシムルヲ以テ目的トス

第二條　本競進會ハ左ノ方法ニ依リ之ヲ行フモノトス

一、各支部ヲ單位トシ其ノ成績最モ優良ナルモノヲ入賞ス

二、審査方法

イ、出品点數ハ一品点ニ付一点トシ北方、大瀨木ヲ各々一〇、中村九、三日市場、下殿岡各々六上殿岡三ノ比率ヲ以テ定ム

ロ、入賞点數ハ一等五点、二等三点、三等一点トシ出品点數ニ對スル入賞率ヲ出品点數ニ乘ジ算出シ定ム

第三條　審査ハ執行部之ニ當ル

第四條　審査決定ニ對シテハ異議ノ申立ヲ得ズ

○成績左ノ如シ

一、部類別出品數

穀菽類　八二点
葉菜類　四二八〃
根菜類　一六六〃

果菜類	一七〃
果實類	三五〃
加工蠶糸類	八四〃
家畜類	三〃
桑苗類	六〃
計	八二一〃

二、競進會各支部對抗成績表

支部名	出品点數 出品數	出品点數 出品点數	入賞數 一等	入賞數 二等	入賞數 三等	入賞点數	入賞歩合	總合点數
一支部	一二四	一〇六	二	三	二三	四一	三三%〇	六八、一七
二〃	六七	二二三	二	二	七	二三	三四、三	七六、五九
三〃	一一三	一一三	一〇	一一	一一	一〇四	九二、〇	一〇三、九六
四〃	一五〇	一五〇	五	一三	二五	八九	五九、三	八八、九五
五〃	一四六	二四三	四	一五	二七	九二	六三、〇	一五三、二七
六〃	二七	二四一	一〇	一四	二八	一三〇	六二、二	一四九、九六
計	七一七	一、一七六	三三	五八	一四〇	四七九	平均五七、二	平均一〇六、八二

右表に示せる如く總合点に於て最高点を得たる第五支部第一位となり優勝す。

○時局下食糧增産の叫ばれてゐる折柄近年稀なる多數の出品振を見せて優良農産品が出品されたることは慶賀に堪へない。

一は青年團員の本會に對する理解と村農會の絶大なる後援の賜である。審査は郡農會始め産業關係技術者各位の御努力に依る。

昭和十五年度女子青年團記錄。

昭和十五年度女子青年團記錄

・二支部　○矢澤　美惠　伊藤　信美　平澤　春子
・三支部　○細田　君代　十月より水野歌子
　松澤かほる　松澤きし子　木下小夜子
　加藤みどり
四支部　○小池　千鶴　片山冨美子　鈴木　綠
　代田　早苗　椎名　文枝　今牧　美惠
　小木曾やよゑ
五支部　○田畑　春美　清水百合子　今村志那枝
六支部　○竹村ちとゑ　高內　益　平田　嘉妻
　熊谷　鈴子　熊谷　增美　高橋　浪江
　久保田信江
郡青代議員　矢澤コウ　熊谷久榮

昭和十五年度事業豫定

一月　四方拜參列、新年總會、講演會、男女合同懇談會
二月　講習會、紀元節式參列、見學

昭和十五年度組織

顧問　松島校長先生、原いく
團長　矢澤　コウ
副團長　熊谷　久榮
會計　小木曾花子
記錄　細田　君代　竹村ちとゑ
旗手　田畑　春美　高內　益
教育部　矢澤　美惠
体育部　小池　千鶴　田畑　春美
圖書部　水野　歌子
拓植部　原　いく　熊谷　鈴子
勸業部　平田　嘉妻・熊谷　增美
編纂部　矢澤　芳美　清水百合子
幹事（○印支部長）
一支部　○矢澤　芳美　矢澤　和子　矢澤　久江

三　月　講演會、勸業講習會、慰問狀發送
四　月　見學、豫防注射手傳ひ
五、六月　壯丁者祝賀會、託兒所手傳ひ
七　月　夏季料理研究會、慰問狀發送
八　月　夏季總會、講演會
九　月　託兒所手傳ひ
十　月　敬老會、講習會、慰問狀發送
十一月　運動會、品評會
十二月　同情週間手傳ひ、年末總會、講演會、團報發行、慰問狀發送

昭和十五年度會計豫算

歳入之部

繰越金	五〇圓
團員負擔金	二五圓
村補助金	二〇〇圓
右計金	三〇〇圓

歳出之部

事務所費	三五圓
事業費	一七〇圓
會議費	三〇圓
負擔費	五五圓
圖書費	一〇圓
右計金	三〇〇圓
差引額無し	

昭和十五年度事業報告

一月一日　四方拜式參列
式後役場に於て幹事會開催
旗手及び理事の缺員を選擧す
旗手決らず散會す
一月九日　下伊那郡女子青年團代議員會
同日午后一時より
會場　飯田市實科高女作法室に於て
協議事項
一、女子會館建設に關する件
建設費未完納金完納に對し本團に於ても團員一人宛十三錢宛寄附する事に決定
一、役員改選に關する件
前團長木下ふさ榮退團に當り改選した處當選者家庭の都合上引受けず未定にて閉會
一月十日　支部長理事會開催
午后六時より役場に於て旗手の高内益さん身体弱き爲引受けれずとの電話有り先づ旗手を決める

旗手　木下小夜子　今牧美惠
教育部　矢澤美惠　高内益
團書部副　片山冨美惠
勸業部副　熊谷增美
拓殖部副　熊谷鈴子
体育部　田畑春美　小池千鶴
編集部　矢澤芳美　清水百合子
缺員で有つたが右の如く決定する
一、團書購入の件
十三日午后五時笹瀬大竹書店集合
正副團長、支部長、團書部員、會計部員、記錄部員相談の上購入する事に決定
一、新年總會開催の件
日時　一月十五日午后一時
講演會　時局問題に就て
講師　小林八十吉氏
一、女子會館建設寄附の件
女子青年事業發展に寄與する爲團員一人宛十三錢宛の處十錢、團員五錢殘分は團の方より支出する事に決定
出席者　九名
一月十三日　午后五時大竹書店集合にて團書購入
男女合同にて平安堂で買つた、出席七名
青空部隊、人間小林一三、明治天皇御製、日訓等二十四冊でした
一月十五日　新年總會開催
同日午后一時より伊賀良部北館に於て
講演會　複雜な世界情勢に就て
講師　小林八十吉
世界各國の位置から說き日本の鎖國時代からの世界の進出狀態、日本の諸外國に對する態度から獨立運動、歐洲戰亂、日支事變に至る經過をはつきり示して今後聖戰の目的を達するに要する國民の覺悟一つ〳〵身の引き締る樣な心地にて謹聽した、男女合同午后四時半頃より新年總會に移る　出席者　三十一名
一月十七日　男女青年支部長理事懇談會
各自紹介後本年度提携事業に關し協議す
提携事業左の如し
一　月　四方拜式參列、講演會（新年總會）
團書購入並びに貸出開始、男女懇談會
二　月　紀元節式參列、講演會、研究會、勸業講習會、慰問狀發送
三　月　拓殖研究會、教育方面視察
四　月　天長節式參列
五、六、七月　無し
八　月　講演會（夏季總會）慰問狀發送
九　月　無し

十　月　勤業方面視察
十一月　明治節式参列、体育デー参加
　農藝品評會、軍人遺家族慰安會、講演會（未定）
十二月　令旨奉讀式、講演（年末總會）
　圖書貸出し閉止、團報發行
其の他　壯丁者祝賀會、非常召集
　右懇談會後行ふ筈
　勤勞報國・種類により
　廢品回收　二月ー四月迄十月ー十二月迄、一日の日
　村報編輯　二十五日(毎月)午后七時(正副團長、會計)
旗手を決定しようと協議したが仲々決らず結局畑春美さんと高内益さんにお願ひする樣になる
廢品回收は女子の手にて屑物を集め男子側にて役場へ運び屑屋さんを呼んで賣る豫定
一月二十五日　午后七時より村役場に於て
村報編輯に付き青年團と協議有り正副團長出席
印刷屋さんと意見を交し編輯す
以後毎月二十五日に編輯する事に決る
二月四日　鄙青女子代議員會
一、午前十時より
一、會場　飯田市實科高女作法室に於て
一、協議事項及結果
　1、本年度團長並びに幹部報告の件

團　長　木下　ふさ
副團長　箇井富士子　眞野　榮
幹　部
中央部　田平　かや
阿南　伊藤　文
龍峽　宮脇かつゑ
西部　白澤　恒代
飯田市　小林
北部、南部、遠山、未定

一、本年度豫算認定に關する件
一、本年度事業豫定認定に關する件
幹部講習　三月二十七日二十八日、二十九日の豫定
總　會　十二月
一、文書教育普及の件
一、二千六百年記念事業未加盟村解消運動の件
一、二千六百年記念事業の件
尙指導者堂本先生も御臨席下され團向上に對する有意義なるお話と議事の進行に御努力され午後二時閉會となる
出席者　五十三名　本村代議員正副團長出席
二月五日　午后七時より幹事會
村役場に於て　出席七名
協　議　事　項
一、二月の事業豫定に就て

十一日　紀元節式参列、式後幹事會
　各區共各村社參拜
十五日　研　究　會
二十日　勤業講習會　此の日までに慰問文二通
二十一日　勤業講習會　集める
二十五日　慰問文を團長の所まで
一、研究會の議題に就て
二月十一日　紀元節式參列
　式後北館に於て幹事會開催
　研究會議題に就き協議す
　節米問題及び燃料問題解決に就き研究する事に決定
二月十五日　研究會及び圖書貸出
研究會　出席者十七名
青年團長より時局下に於ける研究會の必要と今後益々研究會の發展するのを希望するとの開會の辭あり研究會に入る
女子提出議題……節米運動如何
理由說明……此の農村に於ての節米に付き料理方面、經濟方面其の他より具体的なる節米方法を研究發表願ひ度ひ
結論……節米運動は愛國運動である、愛國的精神運動として今後增々節米に務めることにて本團提出議題を打切る　十二時閉會

二月二十二日　午後七時役場にて理事、支部長會開催
村營圖書館建設への準備として委員を定め責任を以つて事業の進展に盡すべく各部に分け委員には男子青年團では評議員、教育及圖書部員、女子青年團に於ては理事、支部長其の任に當る、村會等種々團休の反對に合ふ事は必定であるが青年特有の意氣と熱を以つて萬難を排し益々此の事業の完成に努力願ひ度いとの青年團長の挨拶があつて閉會となる　十時半
二月二十七日　午前十時より役場内に於て長野圖書館長音部氏來村圖書館建設の件に付き懇談會開催
種々有益な意見ありて女子は午前中にて打切る
三月五日　幹事會　午后七時より役場に於て
協議事項……三月の事業に付き
一、拓殖研究會は中止
一、教育方面視察……裁判所見學
一、節米料理榮養料理研究會
　イ、三月十七日
　ロ、松尾村の大澤先生をお願する筈　出席十九名
三月二十六日　幹事會開催
午后七時より村役場に於て
協　議　事　項
一、壯丁者祝賀會に關する件
四月十九日に伊賀良部に於て青年團と共同にてなす

事に決定
一、小使ひ調べ
三月二十五日より四月二十五日までの小使調べをなす事に決める
三月三十日　節米榮養料理講習會
一、日時　同日午前八時三十分
一、場所　伊賀良部家事室に於て
一、講師　大澤先生
一、節米料理
イ、五目蒸飯…餅米なのに割合さつぱりしてゐました
ロ、大和パン
ハ、お節句料理
仲々美味しく節米もならないくらいでした四時閉會
三月二十七日――二十九日　二泊三日間
時局對處女子青年團幹部講習
下伊那農學校に於て開催さる
本團出席者　矢澤コウ、熊谷久榮、片山富美恵
講　師　成田先生、輪湖先生、順山先生
田中先生、春原先生
女子青年團幹部として又女性として今後如何樣に進むべきかにつき有意義な講習會でした
四月四日　三石校長先生御辭任に當り心ばかりのお粗末な品では有つたがお贈りす
四月十六日　午後八時伊賀良部職員室に於て
青年團、青年學校　懇談會開催
共同事業
体力テスト、体育デー、非常召集、講演會等
意見
一、青年學校と共同事業なす場合に青年團が學校の統制下に入る恐れがあるからこれは青年團の自治精神をこわすものであるから事業に以つて愼重を要する
二、青年層をもつと〳〵眞面目に働かせることを考へること
三、伊賀良村を單位即ち標準として事業を進めてゆくこと
本團側希望
一、青年團の事業にも學校側で協力して下さつて出席を多くしたい
學校側希望
一、學校を借りた時には
火の用心、戸締り、物を大切にして欲しい
お互に連絡を保つて事業をすゝめて行き度いとの双方よりの意見有りて十一時閉會
懇談會後出席した人丈で壯丁者祝賀會に關して打合せをする
四月十九日　壯丁者祝賀會

男女青年團主催にて行ふ
一、午前十時學校集合晩の仕度にかゝる
一、午后五時近くに壯丁者の方達が元氣よく歸つてゐらつした
一、横田書記より軍籍に有る者の心得てゐなければならないことの話が有る
一、早速食事にかゝる心をこめたちらし壽司に舌づゝみを打つて下さつた
一、茶話會、自已紹介をして頂く、甲種合格の方の元氣なこと、成績良く三拾名でした
四月二十五日　三月末日から四月二十五日迄の小使ひ調べをなし村報へ平均をのせる
四月二十八日　代議員會開催
午后一時より飯田小學校に於
協議事項
去る二十日の縣聯理事會及び代議員會、出席報告
内譯
イ、昭和十四年度事業並に決算認定の件
ロ、本年度事業計畫並に豫算議定の件
ハ、二千六百年奉祝大會
ニ、其他
女子會館建設資金問題
滿洲勤勞奉仕隊の事
去る二十一日の縣聯女青總會出席報告
其他　加盟村報告の件
節米運動の件
四月二十八日から四月二十九日に亘りて婦人會と合同にて出征家族慰問をなす
五月上旬　各區に別れて種痘のお手傳ひをする
五月一日　遺骨迎へ
伊藤一樣　無言の凱旋をなさいました
村民一同村境ひまで出迎へをす
四時四十七分切石驛着の電車にて
五月三日　遺骨迎へ
午后三時三十七分飯田驛着の電車にて
野口敏明樣　村境ひまでお出迎をなす筈なりしが一時間遲れて學校庭までお出迎へをす、御國の柱となられた英靈に感謝の默禱を捧ぐ
五月十六日　村葬
午後一時より伊賀良部西体操場に於て
村民の哀悼裡に式を進む
故伊藤一樣には長い年月戰野に於て御活躍なされ御武勳の數々に村人も胸おどらせて伺ひしともありましたのに名譽の戰死とは申しながら口惜う存じます
故野口敏明樣には去る年應召以來軍務に精勵なされて居りましたが過度の御仕事故か御病氣に冒され手當の効な

く……誠に惜しみても飽きなく御家族樣のお心落しいかばかりと存じます

本團に於ては幹事接待を致す

六月五日　午后一時より伊賀良村役場に於て

恒例託兒所開設に付き役場側及び學校、寺院、女子青年團、婦人會が集り協議す

協議事項

開設日數　十日間位、例年通りとす

開設期間　六月十六日――六月二十五日迄

開設場所

一、伊賀良部（北方、大瀬木の一部）

一、中村部（中村、三日市場）

一、上大瀬木（公會堂）（大瀬木の一部）

一、下殿岡（お宮）（上下殿岡）

主任に寺院から一人づゝ出て頂く

先生に五日間づゝ一人宛でゝ頂く　十人の筈

本團にて半日或は一日必ず御手傳ひすること

出席　二十二名　午后四時解散

六月二十八日　午后八時より村役場に於て

青年團幹部、女子青年支部長會開催

協議事項

一、非常召集　天皇陛下より大日本青年團への御下賜金の令旨の奉戴式をなす爲

二、奉戴宣誓式を非常召集の折學校に於て行ふ

服裝　モックラ、下駄、團服

青年學校も一しよにする

三、託兒所へお手傳ひに出た人の氏名を調べる事

出席者　五名

七月一日午后九時村役場に於て幹事會開催

協議事項

一、百二十億貯蓄に邁進のこと

二、七月十八日午前九時五十分集合にて飯田高等女學校に於ける節米生活合理化講習會に出席の希望のものは八日迄に縣の社會課の方へ申込むか或は三日迄に團長迄申込むこと

三、非常召集の件、差支の事有りて十日に延ばす

四、料理研究會廢止

五、農休みの中一日を利用して各支部毎に勞働奉仕をなす事

七月九日午後八時より役場に於て非常召集狀幹事迄配布す

七月十日　非常召集

聖旨奉答、宣誓式並紀元二千六百年令旨奉戴二十週年奉祝動員大會の非常召集を行ふ

午前四時集合、伊賀良部校庭に於

式後團員記念撮影をなす

七月十七日　陸軍簡閲点呼參列

午前七時半より午前十一時半迄

山本村小學校に於て本村及び山本村在郷軍人の陸軍簡閲点呼施行さる、本團にても八名參觀す

七月十九日　戰時生活婦人協議會

飯田高等女學校午前九時五十分集合

講師　大藏省嘱託　竹田菊子先生

研究協議要項

米尊重、節米、供米運動並國民貯蓄運動

協議申合せ

私達は時局に鑑み愈々戰時生活を確立し特に婦人の立場から左の項目を實踐致しませう

一、奉公米に感謝して一層節米を勵行致しませう

一、簡素生活を行つて一層貯蓄の增加に努めませう

本團にて正副團長出席

八月十五日　夏季總會並講演會開催

同日午后一時　伊賀良部北館に於

講演會、講師　松江大元先生

經濟思想、軍事方面等我が國の狀態を說明し新体制下に處する國民の覺悟もつと日本精神に目覺め私心無き緊張した生活をしなければならないと熱心な先生のお話に聞きほれる　五時閉會　出席者十二名

夏季總會

會次第

一、開會の辭

一、國旗敬禮

一、國歌合唱

一、司會者挨拶

一、前半期事業報告

一、仝決算報告

一、宮城遙拜

一、默禱

一、團員意見發表

一、茶話會

一、團歌合唱

一、閉會

八月二十一日　午前九時より役場に於町村勞務動員協議會有り、本團出席五名

八月二十六月午前八時役場に於勞務動員協議會

協議事項

一、勞務者供出可能者調査方法

各區に分れ區長さんを主に男女青年團にて調査する樣に決定

一、横須賀海軍技術省要員割當人員候補者を至急明日迄に各區より一二名出す事

九月四日　午後一時より伊賀良役場に於て秋蠶農繁期託兒所開設の件に付き協議會開催

協議事項

一、開設日數　費用の關係上七日間

一、期間　九月十五日――九月二十一日迄

一、開設場所　前回の通

三時閉會　本團出席六名

九月十五日　遺骨迎へ

去六月二十二日中支某地の激戰に於て壯烈なる戰死を遂げられたる今村勝治樣の英靈が午後二時四十分切石驛着の電車にて無言の凱旋遊ばさるゝに付き本團にても村境までお出迎す

託兒所開設

九月十五日より二十一日迄

農繁期託兒所四ヶ所に開く團員お手傳ひ致す

九月二十五日　午後八時より村役場に於幹事會開催

協議事項

一、女子訓練の件

他村の實例を聞き心身の鍛錬に女子訓練は必要との意見により學校の先生をお願致し實行する事に決定す

一、十月五日運動會に付き例年の如く老人、出征軍人家族を招待致す樣決定

役割

一、接待係　三日市場、北方、上下殿岡

一、案内係　中村

一、受付係　大瀬木

九月二十六日　運動會接待に付き學校側と懇談會例年の加く來賓の接待を致す樣お話が有る、女子訓練發會式に付き十五日執行出來る樣校長先生がお計ひ下さいました

正副團長出席

九月二十七日　勞務動員協議會役場に有り團長出席す

九月二十九日　郡青團長會

協議事項

一、信濃宮神社御造營に關する件

青校生徒以外の團員より一人宛金拾五錢宛徵集

一、令旨奉戴十週年記念に關する件

女子青年運動振興基金金五錢宛全團員より集める事

一、總會開催に關する件

來る十二月八日と決定す

一、其の他

十月一日　午後八時より幹事會開催す

協議事項

一、令旨奉戴十週年記念に關し團の振興基金に金五錢づゝ集める事

一、宗良親王を御祭神とする信濃宮神社お造營に付き幹事一名金十五錢づゝ集める事

一、鼎村女子訓練視察の件

二日午前五時鼎小學校集合、幹事出席視察する事に決まる

十月二日　鼎女子訓練視察

午前五時鼎小學校集合盛大なる訓練振りを視察後お茶接待を受ける

我が村もより以上盛大なるそして効果的に訓練始め得る

樣念願しつゝ午前七時半歸途に付く　視察者　十名

十月五日　圖書館建設の地鎮祭あり團長出席

十月六日　秋季團動會

午前八時より伊賀良部校庭に於て開催さる

招待の準備の爲幹事七時半出席

澄みきつた秋晴れの下で元氣良く飛び廻る小學校生スタンドより我が子又妹弟何處かとさがし求むる父兄の姿等皆樂しそうだ、私達も決められたる役割に隨分多忙な又愉快なる一日を過す

十月十五日　女子訓練發會式

心身の鍛錬と團の强化をはかる爲……午前五時伊賀良部校庭集合、校長先生、青年學校指導員の御指導に依り盛大に第一回女子訓練を終了致しました　出席者九十七名

十月十八日　遺骨迎へ

北方の北村武夫樣の遺骨が歸られる

午後一時飯田着にて、本團にてもお出迎す

十月十八日　午後三時役場に於て十一月三日に行はれる体育デーに付き協議會有り

一、各種團体聯合部落對抗リレー及綱引

一、本團にては三種目する事

十月十九日　女子訓練　出席者　百三十二名

十月十九日　午後七時より役場於幹事會開催

協議事項

体育デー運動種目決定の件

一、輜重兵の活躍

二、旅の前日

三、三國同盟

四、各種團体聯合部落對抗綱引

五、各種團体聯合部落對抗リレー

六、分列式

十月二十六日　女子訓練　出席者　百二十七名

十月二十九日　激勵袋作製

午後七時より役場に支部長出席滿蒙開拓青少年義勇軍へ送る激勵袋作製す

十一月二日　女子訓練

出席者　百三十六名

十一月三日　明治節拜賀式參列

同日午前九時より聯合体育大會開催

本團競技種目

一、三國同盟

一、輜重兵の活躍

一、輪　抜　け

一、紀元二千六百年奉祝体操

一、大日本女子青年体操

一、旅の前日

旅の前日

一等　平田　和代　佐々木みさ子　梅田さくの
二等　木下　うめ　矢澤　しげ　水野　初志
三等　星野　廣子　熊谷　增美　熊谷みづほ
四等　松村　しげ　榊原きよゑ　木下やすゑ
五等　伊藤あさみ　宮下ちさと　久保田かつゑ

輝しき二千六百年度の明治節、天高く何處迄も澄んだ秋日の下で私達は新体制下女性の意氣を示すべく白エプロンモンペ姿の輕裝、次々に進むプログラムに依りどの種目も眞劍に意氣有る樂しい一日を終つた

休育デー後校長室に於て青年學校先生方と宿泊訓練に付き協議す

宿泊訓練　二回に分けて行ふ
一回目　青校生研究科より上
二回目　本科一年より三年まで
期　日　十一月九日、十日

十一月九日、十日　宿泊訓練並二千六百年奉祝旗行列
青年學校、女子青年團主催の下に新体制下に於て本村女子青年としての向ふべき使命並に之に備ふる身心の鍛錬を目的に宿泊訓練開催、五十余名の女性が節米料理、精神訓練、体操等緊張して團体訓練を受ける
十日午前八時より行はれた二千六百年記念式旗行列に參列　出席者　五十四名

十一月十四日　壯丁者豫習教育慰勞會に本團にて六名出席す

十一月十五日　評議員會並圖書館建設委員會開催
協　議　事　項
一、農藝品々評會開催に關する件
二、圖書館建設に關する件
三、其の他
農藝品評會期日十一月二十九日、三十日、十二月一日
本年は特に男女青年團に一任される
出品物增加を計る爲出品數、入賞數等に依り各支部對抗一等の支部には優勝旗を

十一月十七日　郡青代議員會開催
午後一時より飯田小學校に於て
協議事項及結果
一、本年度總會擧行に關する件
イ、日　時　十二月八日午前十時依り
ロ、會　場　飯田小學校講堂及教育會館
ハ、意見發表　支會一名
ニ、余　興　各支會より
ホ、宣言の件
一、信濃宮神社並令旨奉戴記念資金集計報告の件
一、女子拓殖問題の件
一、新体制改組織の件

一、加盟村報告の件
河野村、神稻村

十一月十九日　午後七時より役場に於圖書館建設委員、圖書蒐集部員會開催
協　議　事　項
一、各支部圖書蒐集の件に付き
二十六日午後七時役場迄持寄る事

十一月二十九日　午前八時より伊賀良部北館へ品評會出品物持參及準備の爲支部長出席

十一月三十日　農藝品評會開催
午前九時より支部長出席
お万十賣店、すばらしいサービス振りに賣行の良さまたゝく間に豫定だけ賣れてしまふ
同日滿蒙開拓義勇軍へ慰問狀發送

十二月一日　品評會
午前中お万十賣店
午後二時より品評會後片付後男女青年團役員慰勞會致し
解散　出席　十八名

十二月八日　下伊那聯合女子青年團總會
午前九時より飯田小學校講堂於
講師　伊那女學校長春原平八郎先生
演題　新体制下女性の覺悟

宣　言

故ニ光輝アル紀元二千六百年ヲ迎ヘ今ヤ內ハ大政翼賛ノ新体制ヲ整ヘ外ハ日獨伊三國相携ヘテ世界新秩序建設ニ邁進セントスルノ秋私達女子青年團ハ彌々肇國ノ精神ヲ昂揚シ日本婦道眞姿顯現ニ努メ協力一致國策ノ完遂ニ邁進セムコトヲ誓イマス
昭和十五年十二月八日
下伊那聯合女子青年團
本村出席者　二十八名

十二月八日　午後七時より伊賀良部北館に於て學校男女青年團役員出席
青年團改組問題に付き懇談會開催
勅令にてはつきりした事のわかる二月迄の態度としては種々意見有りしが結局現狀維持と決定

十二月十二日　午後一時より役場に於て同情週間實施に付き協議會有り正副團長出席

十二月十二日　午後七時より役場に於て幹事會
協　議　事　項
一、女子青年團基本金の件
青年團改組に成り積立金不要と成つた場合此れの使用法を圖書館建設資金に當る
一、年末總會の件
日時　十二月二十二日
一、女子訓練に御世話に成つた先生方にお禮の件

お禮金　十圓

一、同情週間實施の件　出席　十六名

十二月十八日　遺骨迎へ

午後二時四十分切石驛着の電車にて小出新一樣無言の凱旋なさいました

團員村境までお出迎致す

同日各區より同情米を役場まで持ち寄る

十二月二十二日　村葬

午後一時伊賀良部西休操場に於て

故　今村勝治樣

故　小出新一樣

故　北村武夫樣

大東亞建設の礎と成られた三勇士の英靈が永久に眠られる今日村民哀悼の中に嚴肅に盛大に行なはれました

幹事午前十時出席接待を致す

十二月二十三日　年末總會

午後二時より伊賀良部北館於

勝演會

勝師　村長樣

更生組合を單位とした水田並養蠶の共同經營等本村今後の方針を細くお話し下さつた

午末總會

會次第

一、一同着席

一、開會の辭

一、團歌齊唱

一、宮城遙拜

一、皇軍將兵感謝默禱

一、團長挨拶

一、本年度事業報告

一、本年度會計報告

一、各支部事業報告

一、團員意見發表

一、茶話會

一、團歌合唱

一、閉會の辭

昭和十五年女子訓練記錄

誓詞

玆ニ未曾有ノ非常時局ニ際會シ我等女子青年團員ハ一層心身ノ修養ニ努メテ婦德ヲ涵養シ日常生活ヲ擴充シ以テ職域奉公ノ誠ヲ致サンコトヲ期ス

昭和十五年十月十五日

伊賀良村女子青年團

目的

一、心身の鍛錬

一、團の强化を計る爲

女子訓練　第一回

十月十五日　午前五時　伊賀良部校庭に於て

順序

一、整列

一、修養會結成式

式次第

一、敬禮　一、開式之辭（副團長）

一、團歌齊唱（君が代）　一、宮城遙拜

一、默禱　一、令旨奉戴

一、宣誓　一、訓話（校長先生）

一、挨拶（團長）　一、女子青年團歌

一、閉式の辭　一、敬禮

一、閱團

一、教練

一、分列

一、唱歌

一、遊戲　指導先生　村松先生、前島先生

西休操場に於て

二千六百年奉祝体操、女子青年團歌

一、講評

始めての所爲か皆張切つて氣持良く出來ました

一、備考

一、午前五時――午前七時迄とす

一、雨天の場合は西休操場

一、教練

年齡別に分けて小隊を作成する

一小隊十六才以下　二小隊十八才以下

三小隊二十才以下　四小隊二十一以上

各指導先生

松島校長先生、矢崎先生、村松先生、櫛原先生

片山先生、長谷川先生以下青校指導員

十月十九日　第二回

午前五時半より伊賀良部校庭に於て

順序は前に準じてなす

各支部毎に人員報告をなし教練に移る

本日は丁度青校の男子と一所に成つたので時間の關係上分列の練習だけにて終る、分列後習い掛けの二千六百年奉祝体操及び女子青年体操を習ふ

午前七時半解散となりました

十月二十六日　第三回

午前五時半伊賀良部校庭に於て

十一月三日体育デーにする分列の練習をなす

後唱歌及び体操の練習をなして解散す

十一月二日　第四回
午前五時半伊賀良郡校庭に於て
体育デーを目前にひかえて物凄い練習をなし解散する

十一月九日　宿泊訓練

宿　泊　豫　定

一、受付　午後二時半より二時五十五分迄北館入口
役員の者は二時集合準備をなし二時半より
受付する事
一般は直ちに受付にて一切の受付並びに作
業を終る事

二、集合　午後三時ー午後三時十五分
學校々庭　人員点呼　集合　挨拶

三、組織　午後三時十五分ー四時迄
①　班分け一班を六ー八名宛、全部を六班
程度
②　班長指命　班長一名、副班長一名
③　場所配備　第一號室　一班ー三班
二號室　四班ー六班
④　携行品整理、夜具、食物等の整理
⑤　住宅準備並炊事準備、各室内外整理整
頓、炊事具及び炊事場、食物、食器、洗
滌等一切

四、發會式　學校西体操場　午後四時ー四時半迄

式次第
一、一同着席
一、宮城遙拜
一、出征兵士並び皇軍將士の感謝默禱
一、團歌合唱
一、校長先生訓辭
一、閉會の辭
小學校の先生方も多數御參列下さいましたので盛
大に發會式を擧行致す事が出きました

五、事業　午後四時半ー午後六時迄
全員を前後に分けて前班(一四六班)實習炊事作業
後班(一三五)學科農村料理献立
會食、午後五時三十分ー午後六時

六、休養運動　午後六時ー午後七時迄
休養　各室に於て休む(自由)
運動　西休操場に於て　遊戯、球戯、オニゴッコ等
各自にて考案
整理運動　大日本女子青年体操

七、講話　午後七時ー午後八時半迄
講師　校長先生
女性は常に親切が大切である
人間にばかりでなく物質に對しても親切である様に
とお話し下さいました

八、夜行　午後八時半ー午後九時半
①、研究會又は座談會或ひは讀書
②、朗誦　道の光の中の第一章誓願、第二章皇國民
の信念、第三章神國
③、淨　座

九、就床　午後九時半ー午後十時

十、起床　午前五時(當番四時半)身の廻りの始末、
新鮮な朝の空氣を胸一ぱいすつて洗井川端で皆一斉
に顔を洗ふ

十一、朝の行　午前五時三十分ー午前六時
体操、朗誦(明治天皇御製)天明體拜

十二、朝の作業、當番班、食事準備、二、四、六班
一般は室内外整理整頓　一、三、五班

十三、朝食　午前六時、午前六時半

十四、講話　午前六時半ー午前七時半　一茶勸農詩

十五、二千六百年紀念式　午前八時ー八時半

十六、旗行列行進　それぞれ村社參拜

十七、萬才三唱　午前九時ー午前十一時半
昼食を濟ませ茶話會をなし

十八、退　場
出席者　五十四名
今日の張切つた氣持を何時迄も〳〵も忘れずに實行
したいものであります

十一月二十六日　第五回
午前五時半伊賀良少學校体操場に於て
本日は雨降りだので体操場にて掛足、ラジオ体操、唱歌
等を習ふ後、校長先生のお話
本日は女性の立場に付いて色々とお話し下さいました
以上

昭和十五年度會計決算報告

歳入之部

第一款	前年度繰越金	五拾圓拾七錢
第二款	團員賦課金	貳拾壹圓六拾錢
第三款	補助金	貳百貳拾圓
第四款	雜収入	拾六圓八拾四錢
		賣店純益其他
歳入合計		參百八圓六拾壹錢

歳出之部

第一款	事務費	貳拾六圓七拾四錢
	イ、通信費	拾圓拾錢
		切手、葉書、電話料
	ロ、備品費	參圓四拾五錢
		女子青年團印記錄簿其他
	ハ、消耗費	拾參圓拾九錢

第二款　會議費　原紙、半紙、封筒其他　貳拾圓八拾七錢
總會、幹事會其他　百四拾貳圓五錢

第三款　事業費　九圓五拾七錢
イ、講習費　四圓
ロ、講演費　貳拾九圓六拾錢
ハ、敬老會費　五拾五圓六拾壹錢
ニ、壯丁者祝賀會費　貳拾圓五拾五錢
ホ、慰問費　激勵袋、寫眞代、雜誌
ヘ、諸事業費　貳拾貳圓七拾貳錢
圓則託兒所手傳ひ手當其他

第四款　負擔費　拾壹圓六拾八錢
イ、郡女青團負擔費　八圓
ロ、女子會館建設費　參圓六拾八錢

第五款　圖書費　七圓七拾錢

第六款　修養費　四圓四拾錢

第七款　雜支出　貳拾貳圓九拾六錢

支出總金額　貳百參拾六圓四拾錢

差引殘高　貳百九拾八圓九拾八錢

前年度との增減　貳百四拾八圓八拾壹錢

本年度　本年度增減

收入金額　九圓六拾參錢增

支出金額　拾貳圓四拾壹錢減

收入金額　參百八圓六拾壹錢

伊賀良圖書館建設經過報告

伊賀良圖書館戦争記録

伊賀良圖書館

二千六百年記念事業

圖書館建設に就て

圖書館建設の主旨

伊賀良圖書館建設の記錄は細大洩らさず記載報告申上げるのが本當でありますが、紙數の都合に依り唯斷片的記錄に止めました。之を結合して圖書館建設の全貌を察知して戴き度いと思ひます。

『圖書館建設』何んと云ふ親しみのある快よい明るい力强い感じを與へる言葉であらう。

圖書館建設の可否は今更論ずるに足らないであらう。農村などに圖書館建設の必要があるものなどゝ眞面目に云ふ人はあらう筈はない。唯經費の出來ない許りに今日迄其の設置を見なかつたのである。

我國が國家總力戰であり、長期建設戰である今日の未曾有の聖戰に際し、世界が日本に求めてゐるものは何か、それは日本が經濟的に行詰ることゝ思想戰に破れると云ふことだ。我等は彼等の夢想を全く空想にする爲に更に一段の覺悟がなければならぬ。かつて歐洲大戰當時ドイツや英國が如何に圖書館を重視し、又ヒットラーがドイツ民心作興の爲に反國家的圖書を焚いて國民に讀むべき書物を示した等と云ふ事を聞いた。

事變下に於ては圖書館も總力を擧げて聖戰に邁進するのだ。民心の作興に產業の開發に、創造的精神の陶冶、科學的知識の涵養、移民に關する知識、國防に關する高度なる常識を與ふる等述べれば圖書館の持つ任務は愈ゝ重大である。事變下なるが故に圖書館の重要性が痛感されるのである。

愛國的感情だけでは長期建設は完成されないのだ。感情の迸る所、意志の徹する所、其處には又知識が必要である。大東亞の正しき認識、增產、創案、發明、發見等理性の陶冶、等々國民の精神高揚の爲知性の修練の爲如何ばかり讀書が重要であるかは喋々を要しないと思ふ。

圖書館は村の文化の中心となり、村民の精神の糧を供給するのである。選擇自由の敎師であり、趣味のオアシスともなるのだ。

最近郡下に於ても多數の圖書館が建設され近隣村には悉く之が設立を見て居るのである。郡下の大村であり中心地

である伊賀良村に未だ其の設立を見ないのは不思議な位ひなのだ。部落的意識の打破と、村に明朗性を齎らす意味に於て更に大きな意義を持つのだ。

× ×

青年團に於ては長年に亘り研究調査して之を計劃したのであつたが、遂に實現を見ずに今日に至つたのでありますが本年度青年團は紀元二千六百年記念事業の意味からも、往年の理想實現の爲に邁進する事に決し、青年團の全圖書を提供し之が建設の爲には調査研究勞力奉仕等あらゆる挺身的努力を惜しまないのであります。

建設せんとする圖書館は青年團の藏書を中心とし、建物は故赤川榮吉氏の建築寄附せる公會堂を用ひ、經費を一般村民各位に御協力願ひ度い計劃でありまして、之が具体化は二月二十七日斯道の權威者長野圖書館長乙部泉三郎氏の來村を得て設計指導を乞はんとする次第であります。

青年團で一度本計劃を發表するや、軍人分會並青年團先輩各位の絶大なる激勵を賜り村當局及學校の御指導により計劃進行中でありまして、一般村民皆様の絶大なる御協力により一日も早く此の明朗なる記念事業の實現を見ます様紙上を通じて御願ひする次第であります。

（昭和十六年二月二十五日村報掲載）

圖書館建設趣意書

皇紀二千六百年記念事業として圖書館建設を計劃致しました。我國は總力を擧げ万難を排して未曾有の大聖戰に邁進し、崇高なる理想信念貫徹に進軍して居るのでありまして、私共は物心一如の完璧を期さねばならぬと思ふのであります。わけても聖戰の長期化は精神的に一大修練と確固不拔の信念を要求し、如何なる思想戰にも僻易せざる鐵壁の陣が最大の要訣と思ひます。

此度計劃致しました圖書館建設は年來青年團に於て計劃され又心ある人々により提唱され來つたのでありまして、此の事變下紀元二千六百年をして最も意義あらしめる意味に於ても此の際敢然立たねばならぬと思ひます。

今更圖書館建設の要不要を喋々論議する人はないと思ふのであります。村の文化の中心、和合の源泉、修養の殿堂あらゆる角度から見て之こそ村へ明朗性を齎らすものと云はねばなりません。より良き鄕土建設、住み良い明るい村の建設は私達の常に忘れてはならない生々發展の姿でなければならないと思ひます。

本圖圖書館建設は青年團に於て計劃され青年團圖書館となるとは云へ、最初計劃した村立圖書館と其の實質に於て何等變りはないのであります。唯面倒な手續きと形式を持

つ村立圖書館の名にとらわれず手輕に自由に其の本來の使命を達する事が出來るのであります。村當局は村立と何等變りなく維持費と圖書購入費を豫算に計上して戴く事に成るのであります。

事變下資材不足の折柄幸ひにも故赤川榮吉氏建築寄附にかゝはる公會堂を利用し得て、少しく狹い感はあるが之を改造致しまして、移轉、改造に要する經費豫算一千五百圓を計上致しました。私共は万難を排して邁進する覺悟であります。然し眞に時局を洞察理解し此の計劃を御支援下さる方々に對しては精神的の御後援は勿論信じて居りますが特に物質上の御援助をも仰がねばならないので有ります。私共は御後援御支持に對しては全力を擧げて赤心報ひる覺悟で居ります。何卒貴下の能ふ限りの御援助を懇願申上げます。

昭和十五年三月二十一日

（村外寄附者宛）

拜啓　時下春寒料峭之候愈々御清祥之段奉賀候

陳者當村青年團に於て紀元二千六百年記念事業として計畫致候圖書館建設の儀其の後一ヶ年有余の歲月を閲し此處に漸く竣工開館の運びと相成候是一重に高堂の絶大なる御後援の賜と深く感謝致候

早速盛大に竣工披露の儀し致すが本儀乍ら新体制の折柄極めて簡單に來る三月十六日午後一時祓ひ祭りするに止め申候間不悪御了承被下度今後村の文化の中心としての本圖書館發展の爲めに一段の御後援賜らんことを懇願致し厚く御禮申上候　敬具

昭和十六年三月十日

下伊那郡伊賀良村長　伊藤高一郎

仝　青年團長　古田　利夫

○村内招待者

寄附者　男女青年團先輩、村會議員、各種團体長、名譽職、其他村有力者、其の他關係者

圖書館開館式次第

三月十六日午後一時　於圖書館

一、開式の辭
一、宮城遙拜
一、感謝默禱
一、國歌齊唱
一、神事　增田神官
一、團長式辭　古田團長
一、經過報告　仲田副團長
一、來賓祝辭　伊藤村長、松島校長、乙部圖書館長
一、閉式の辭

圖書館開館式辭

殘雪の影漸く淡く山川草木悉く春陽を浴びて喜びに溢るゝ彌生の半ばなる本日の佳日を卜し乙部圖書館長を始め名士各位並有力者諸賢の御參列を忝し此處に盛大なる伊賀良圖書館の開館式を擧行し得るは我等無上の光榮とし欣幸之に過ぎるものなし。

今や內外の情勢愈々緊迫を加へ青年團も亦世紀の發展をなさんとするの時此の圖書館開館の欣に際會す。嗚呼我等が此の日を迎ふるに當り感慨又焉んぞ深からん。

惟ふに昭和十五年の劈頭二千六百年記念事業の名のもとに圖書館設立を計畫してより一ヶ年有餘其の間の辛苦又筆舌に盡し難し、即ち初づ卒先して各部落青年團所有圖書の一括提出を決議し、第二案たる赤川氏寄贈物件の利用に關する正式手續き準村立としての休制を整へる爲の村當局一般有力者各位の了解敷地決定問題、寄附行爲、建物改造問題等あらゆる事象あらゆる問題は青年の思ふが如き平坦なる軌道を走るが如きものは絶無なりと云ふも過言には非ざるなり。初志を放棄せんとせしこと幾度か。霜を經て匂はざりせば百草の上には立たじ白菊の花、精神一度到らば何事か成らざらん。曉起奮躍氷を割つて水を浴ぶれば鬼神も避くと。かくて工事に着手したるは十月半ばを過ぎ朝置く霜の寒く夕の風の身にしむ候なりき、青年團員は地均し工事に石、材料の運搬等に風雪を犯して奉仕し又廢品回收運動も之に關連して佳話を生み、青年團は物心總てを圖書館建設に捧げたりと云ふも過言に非ざるなり。

かくして青年の懸案たりし圖書館建設事業は驚くべき短日月を以て完成を見るに至れり。其の間に於て村當局の御指導督勵はもとより村內有識者及本村出身成功者各位の有形無形直接間接に之が御後援御指導被下されたる力こそ此の行をかくも成功に導きたるものと感謝感激に耐へざるものなり。わけても乙部本館々長の特別なる御指導及木下作治氏の建築指導に對する獻身的御努力に對しては深甚なる謝意を表するものにして是等多數諸賢の功勞は圖書館と共に永久に光輝せずんばあらず。圖書館の重要なることは再三我等の聲明せる處にして明かなる如く、本圖書館今後の盛衰こそは村の盛衰にもかゝはるものと思考せられ一つに今後の經營こそ重要なるものと云ふべく全村民協力により更に擴張發展への歩を進めねばならぬと確信する次第なり。

乞希くは各位の倍舊の御指導を賜はらんことを懇願し本館の愈々隆昌を祈り開館の辭とす

昭和十六年三月十六日

伊賀良村青年團長　古田利夫

圖書館建設經過報告

衆ねてより過去十數年に亘り先輩各位並一般村民の宿望であり又念願であつた圖書館が光輝ある紀元二千六百年事業として青年團に於て計畫され其の間一年有余の歲月を閱し今此處に竣工開館の式を擧行出來得たることは誠に欣快に堪へない。

一重に村民各位の絶大なる御理解と御支援の賜と深く感謝する次第である。

聊か經過の概略を述べて圖書館建設經過報告とせん。

圖書館建設の契機として先づ第一に千歲一遇とも云ふべき皇紀二千六百年に際會したことであつて此の輝やかしき意義深き年を最も有意義に過し今後益々村の發展を誓ひ尙且その歷史を幾分なりとも記念し度いと云ふことに於て計畫されたのが圖書館である。

第二に幸ひ故赤川榮吉氏建築の公會堂が公衆事業に使用するなら何時でも寄贈する樣衆ねてより話が有りて早速其の趣旨を話して寄附願へた次第である。

勿論此の休制下にありて物資の缺乏してゐる折柄資材を消費して新らしく圖書館を建設すると云ふことは記念事業とは云へ熟慮すべきことであるが幸前記の如き死藏建築物を有意義に活用すると云ふ見地からしても最も時代に適應したる最上の記念事業であらう。

以上が大体建設の發起の概畧であるが次に此の計畫を昨年度の青年團の最大の事業豫定として立案し一月十五日新年總會に於て其の趣旨を徹底し以て一般團員万場の賛成を得たのである。

此處に於て特殊事業としての圖書館建設計畫は嚴として樹立され着々進められたのである。二月十五日男女提携研究會に於て偶々「圖書館建設促進方策如何」と云ふ議題が提出され研究論議の結果建設委員會を作り緊急具体案を講じるが妥當なりとし續いて二十二日第一回建設委員會を開催し都合上調査部、資金部、敷地部、建築部、圖書部、蒐集部、整理部と夫々適任者に各部を分擔し以て活動を開始し萬遺憾なきを期した。

●圖書館建設委員名

一、委員長　古田利夫　副　仲田史朗

一、調査部　仲田史朗　矢澤コウ　熊谷久榮　神部稻男　奥田宗平

一、資金部　矢澤巖　熊谷實男　椎名執　常盤守義　今牧豊林　矢澤喜代二　小木曾花子　片山富美惠　原いく

一、敷地部　矢澤　修　熊谷　八郎
新井　春美　矢澤　茂雄
久保田明男　片山　春男
伊藤　一男

一、建築部　清水　正士　米山　榮藏
居山　政箕　仲田　治男
伊藤　兼男　伊藤　良三
高橋　紀平　鈴木　計男
松澤　秀雄　矢澤　敏男
矢澤多喜男　宮下　太
竹村千登恵　細田　君代
平田　嘉妻　熊谷　增美
田口　敬一　市瀬　一男
中上　条男　矢澤　金朗
永見　三郎　水野　歌子
小池　千鶴　矢澤　美惠
高内　益　熊谷　鈴子
清水百合子

一、圖書整理部

敷地は第一候補地として役場を中心とした附近、尙設計は長野圖書館長乙部(泉三郎氏)に指導を乞ふ事とし、二十五日先づ公會堂管理者水野與四郎氏を訪づれ承諾を得續いて敷地候補地所有者太平田へ敷地の借受交渉に委員四名趣くも談なら ず他日を期して歸る。

二月二十七日長野圖書館長乙部先生を招聘し村並小學校先生、先輩諸氏出席のもとに建設委員會を開催し館長より實際の經營設計其の他建設上の御指導を承はり專門の木下作治氏に設計を依頼す。敷地の借受に就いては地主其他關係者との種々な問題が惹起し遲々として進まず前後數回に亘り交渉するも尙受諾されなかつた。

四月二十七日先輩である片山卓氏が上郷に奉職の關係から實際上郷圖書館を日夜目擊してゐて參考になる意見が有ると云ふ譯で委員と懇談會を開き種々なる御意見及御指導を承はつたのである。

兎角する中に日は進み五月となり農事繁忙の期へ入り一時延期を余儀なくされた。

一般周圍の側からは結局青年の一時的なる思ひ立ちの如く輕蔑視されあまつさへ反對論も有方化し全く意の如く成らず、一時停頓狀態に立至つたのである。

然るに偶々。

七月十日未明聖旨奉答宣誓式並紀元二千六百年令旨奉戴二十週年奉祝勤員大會が擧行され其の式上決議として四大決議中頭初に「文書修養の重要性に鑑み圖書館の急速なる設立に向つて万難を排して猛進せん」と云ふが如き確固不拔のスローガンを發して將に一頓挫に至らんとせし建設計畫を一段と我々の胸裏に覺醒さしたのである。

十月五日漸く地主其の他關係者の承諾を得て代田神官の

懇切なる地鎭祭を終り十月十三日よりは團員勞働奉仕により地均しに着手したのである。之れ迄の間に於て寄附者よりの移轉登記借受契約其の他事務的なる一切の仕事を終了す。

十二月二十二日建築改造を仲田丑松氏基礎工事其の他周圍の工事等を菅沼謹一氏を請負人として請渡を行ひ着々順調に工事豫定通り進捗した。一月二十三日より約一週間蒐集部に於て集められた圖書を上郷圖書館等を見學し參考にして分類して現在の如く分類整理し嚴然たる陣容を備へることが出來、此處に豫想外立派に竣工し開館の式を擧げ得たる次第である。

素より關係各位の御指導並村當局及村外村内の有力者の方々の絶大なる御後援の賜と存ずる次第である。

希はくば今後本館發展の爲め一般村民各位の熱誠なる圖書館の御利用と御支援を願ひ乍ら御報告に代へる次第である。

(仲田史朗記)

圖書館建設收支決算書

收入之部

一、寄附金	一七四〇〇	現金寄附(別紙芳名簿)
二、土地代	一六〇、〇〇	土地一畝十歩賣却代
三、石材代	二〇〇、〇〇	石材其他賣却代
四、廢品代	三〇、七五	廢品回收運動賣上金
五、雜收入	四、六〇	牧場勤勞奉仕剩余金
合計	二、一八九、三五	

支出之部

一、工事費	一、八四八円七五	
一、基礎工事費	五〇八、〇〇	土工石工其他基礎工事一切
二、移轉改築費	二九九、五一	移轉改築大工費作物賠償金
三、木材費	二九五、八〇	木材代金
四、壁塗費	一四〇、〇〇	壁塗費
五、建具費	三八九、二四	建具(三〇〇円)カーテン(二一四三四)畳代(六八円)
六、錺工費	一六一、〇〇	塗裝工事費一四九円桶修繕一二円
七、雜工事費	五五、三〇	設計監督費五〇円、電燈設備三円四〇、標札二円八〇
二、圖書館費	一〇三、一四	
一、備品費	八八、四〇	卓子椅子八〇円印八四四〇
二、消耗品費	一四、七四	台帳、ラベル、ペーパー
三、庶務費	一四九、五九	
一、通信費	一〇、七三	寄附募集等郵便一切
二、會議費	六、五九	茶菓等
三、祭典費	一〇、三〇	供物
四、開館費	一〇四、五〇	記念菓子代、七二円功勞者謝禮二〇円寫眞其他
五、雜費	一七、四七	利子、登記料等一切
合計	二、一〇一、四八	
收支差引殘	八七円八五	經過報告圖史發行へ繰入れ

伊賀良圖書館寄附者芳名簿

▲一、現金之部

（村外）

一金壹百圓也　代田實穂殿
一金壹百圓　田畑厚治　〃
一金五拾圓　仁科萬平　〃
一金五拾圓　原農夫　〃
一金參拾圓　松浦統男　〃
一金參拾圓　田畑金市　〃
一金參拾圓　田畑源四郎　〃
一金貳拾圓　今牧甲子男　〃
一金貳拾圓　榊原武重　〃
一金貳拾圓　後藤利一　〃
一金拾圓　久保田連助　〃
一金拾圓　永見清蔵　〃
一金拾圓　松澤勇　〃
一金拾圓　矢澤主馬三郎　〃
一金拾圓　伊藤正夫　〃
一金拾圓　松島伸行　〃
一金拾圓　（伊藤三郎　〃　榎本四郎　〃）
一金拾圓　松澤金一　〃
一金拾圓　矢澤傳　〃
一金拾圓　松澤太平　〃
一金拾圓　林薫　〃
一金拾圓　宮下毅　〃
一金五圓　伊藤雋平　〃
一金五圓　矢澤榮三　〃
一金五圓　近藤清治　〃
一金五圓　中島かめの　〃
一金五圓　松澤三好　〃
一金五圓　近藤市郎右衛門　〃
一金五圓　米山大助　〃
一金五圓　川上たけへ　〃
一金五圓　矢澤武夫　〃
一金五圓　高綱大三郎　〃
一金五圓　久保田照男　〃
一金五圓　平澤芳雄　〃
一金五圓　吉澤喜代太郎　〃
一金五圓　木下斈　〃
一金五圓　久保田邦治　〃
一金五圓　加藤淳　〃
一金五圓　伊藤與三郎　〃
一金參圓　溝口光造　〃

一金參圓也　近藤代次郎殿
一金參圓　北原金八　〃
一金參圓　吉川康次　〃
一金參圓　矢澤馬吉　〃
一金參圓　矢澤孝一　〃
一金參圓　鈴木明男　〃
一金參圓　久保田政男　〃
一金壹圓　林英　〃
一金壹圓　米山海蔵　〃
一金壹圓　久保田達　〃
一金壹圓　松澤慶三　〃
一金壹圓　松澤治平　〃
一金壹圓　宮下源吾　〃
計　六八五圓　五四名

（村内）

一金五拾圓也　伊藤高一郎殿
一金五拾圓　伊藤喜一　〃
一金五拾圓　細田稔夫　〃
一金五拾圓　伊藤誠一　〃
一金五拾圓　木下敏範　〃
一金五拾圓　木下作治　〃
一金五拾圓　片山均　〃
一金五拾圓　代田保雄　〃
一金五拾圓　椎名武夫　〃
一金五拾圓　平田意　〃
一金五拾圓　古田利夫　〃
一金參拾圓　矢澤圓次郎　〃
一金參拾圓　椎名泰治　〃
一金參拾圓　矢澤道直　〃
一金參拾圓　久保田孫八　〃
一金參拾圓　肥後四郎　〃
一金參拾圓　市瀬繁　〃
一金貳拾圓　伊藤利一　〃
一金貳拾圓　片山政吾　〃
一金貳拾圓　宮下秀敏　〃
一金貳拾圓　橋部稻男　〃
一金貳拾圓　熊谷己孝蔵　〃
一金拾五圓　平澤平逸　〃
一金拾圓　橋部蓬一　〃
一金拾圓　仲田正人　〃
一金拾圓　松澤仙吉　〃
一金拾圓　矢澤治部助　〃
一金拾圓　矢澤定男　〃
一金拾圓　松澤幸蔵　〃
一金拾圓　今牧盛一　〃
一金拾圓　美澤菅太郎　〃

一金拾圓也　竹村茂殿
一金拾圓〃　細田耕一〃
一金拾圓〃　椎名章一〃
一金拾圓〃　小池伊三〃
一金拾圓〃　鈴木太郎〃
一金拾圓〃　古田壽治〃
一金拾圓〃　田畑光顯〃
一金拾圓〃　熊谷信吾〃
一金拾圓〃　熊谷信夫〃
一金拾圓〃　熊谷隆男〃
一金拾圓〃　小川喜巳夫〃
一金五圓〃　伊藤清〃
一金五圓〃　小池誠〃
一金五圓〃　矢澤喜平治〃
一金五圓〃　仲田幹男〃
一金五圓〃　久保田一男〃
一金五圓〃　椎名庄一〃
一金五圓〃　北原宗一〃
一金五圓〃　北原利一〃
一金五圓〃　久保田賢二〃
一金參圓〃　今牧舒〃
一金參圓〃　久保田安彦〃
一金參圓〃　平田武司〃

計　一、〇八九圓　五四名

▲二、債券之部
三分半利付國債額面五拾圓也　矢澤榮治殿
三分半利付〃　五拾圓也　平田史郎〃
創引國債額面　五拾圓也　清水謹一〃
貯蓄債券額面　四拾五圓也　松江大元〃
三分半利付國債額面貳拾五圓也　久保田脩〃
創引貯蓄債券額面貳拾七圓五拾錢也　伊藤近太郎〃
報國債券額面　五圓也　平澤明登〃
計　額面二五二圓五〇（圖書館基本金とす）　七名

▲三、現物之部
一、土地　壹畝拾歩　赤川てる殿（故赤川榮吉氏未亡人）
一、建物　一棟　2.5×6　仝　人
一、石材　若干　仝　人
一、圖書講談全集　八冊　米山誠殿
一、圖書土と兵隊外六冊　木下隆司殿
一、圖書代價三拾四圓參拾參錢也　伊賀良村大地聯盟殿
一、圖書　冊　仁科萬平殿
一、圖書　冊　代田實穂殿
一、圖書藏書全部　伊賀良村青年團並各支部
一、圖書養鯉法解說外四冊　今牧虎之助殿
一、圖書戸棚二ケ　伊賀良村青村團
一、圖書村塾建設の記外四冊　木下喜內殿

▲四、圖書館基本金へ指定寄附
一金壹百圓也　伊賀良村女子青年團
一債券額面四百六拾圓也　伊賀良村青年團
內譯　國債五分利額面壹百圓也　二枚
國債三分半額面壹百圓也　三枚
貯蓄額面　拾五圓也　二枚
勸業額面　拾圓也　三枚
一金壹百參圓六拾貳錢也　伊賀良村青年團

編輯を終りて

此の本をやつと皆様方のお手元へお屆けする事が出來ることになりました。着手してから二ケ年になります。もうすつかり忘れられる處でしたこんなに手間取つたのも編輯を擔任した私共の大きな責任だと思ひ只管恐縮して居ります。

× ×

編輯も體裁も質も大部まづいなあーと我乍ら思はれる。之も時局の影響が多分に有ります。皆様方の御判讀を切にお願ひ致します。

× ×

聊か古い感じがするかも知れませんがお互ひに青年團運動に盡力した當時を追憶しませう、又青年團の歩み來つた道を辿つて見て下さい。

× ×

詳細に記錄し度いのは山ゝでしたが何んとしても紙數の都合も有りましたので、唯年度毎に主なる動きのみを記載したので物足らなさをお感じになることゝ思ひます。

× ×

編輯に當り前半十年間は自主創立十週年記念に發刊の會史に依り拔萃した處が殆んどで之に負ふ處が極めて多大でありました。當時之が編輯に當られた先輩各位の御勞苦に對して深甚な感謝を捧げます。

最後の年度（昭和十五年度）は團報發行をしなかつたので團報の意味を以ちまして詳細に記錄致しました。團員各位の御了解を願ひ度いと思ひます。

團報を團史に併せましたので團員皆様から寄せられた評論、文藝等多數の玉稿を載せられかつた事を遺憾に思ひ深くお詫び致します。

最後の年度に於ける大きな事業であつた圖書館建設事業は特に一つに纒めて記錄致しました。此の圖書館建設に對し寄せられました各位の御後援に對し厚く感謝致しますと共に之が經過を此の誌上を以て御報告申上げます。

× ×

今や紀元二千六百年を奉祝してより二ケ年時代は更に飛躍發展して參つたのでありまして、同時に私共の心構へも一段と引締つて參つたのは當然の事と思ふのであります。

新らしい時代に、新らしい構想を以つて處して行く青年團の傳統精神……

若ゝしい新青少年團各位の前途に大きな期待を持ちそして祝福して止みません。

力強いかな！　一億の總進軍

目標は唯一つ！　大東亞戰爭を勝ち拔く爲に

（一七、九、一五　プルタ）

昭和十八年四月廿八日印刷
昭和十八年四月卅一日發行

長野縣下伊那郡伊賀良村大字三日市場一、二六
編輯人　古田利夫
長野縣下伊那郡伊賀良村大字三日市場一、二六
發行人　古田利夫
長野縣飯田市大字飯田六七六
印刷人　中島三郎
長野縣飯田市大字飯田六七六
印刷所　信濃產業新報社

發行所　伊賀良村男女青年團